

同志社大学

Doshisha University

生命医科学部 履修要項
Faculty of Life and Medical Sciences

2025

【2025 年度生対象】

医工学科

Department of Biomedical Engineering

医情報学科

Department of Biomedical Sciences and Informatics

医生命システム学科

Department of Medical Life Systems

春学期

17週(102日)

秋学期

18週(108日)

2025年

- 4月1日(火) 春学期始め・春学期入学式
- 2日(水) 新入学生履修指導期間
- 3日(木)
- 4日(金) オンデマンド授業期間
- 5日(土) (DO Week)
- 6日(日)
- 7日(月)
- 8日(火)
- 9日(水)
- 10日(木)
- 11日(金) 面接授業開始(注1)
- 28日(月) 春学期学費納入最終日
- 4月29日(火) 休日
- 5月5日(月) 振替休日(授業日)
- 6日(火)
- 7月17日(木) 面接授業最終日
- 18日(金) 期末試験開始
- 21日(月) 海の日(試験日)
- 31日(木) 期末試験終了
- 8月1日(金) 期末試験予備日・夏期休暇開始
- 1日(金)
- 7日(木) 春学期集中講義期間
- 9月11日(木) 夏期休暇終了
- 12日(金) 在学生成績通知(注2)
- 20日(土) 春学期終り
- 27日(土) 春学期卒業式・学位授与式

- 9月21日(日) 秋学期始め・秋学期入学式
- 24日(水) オンデマンド授業期間
- 25日(木) (DO Week)
- 26日(金)
- 27日(土)
- 28日(日)
- 29日(月)
- 30日(火)
- 10月1日(水) 面接授業開始
- 13日(月) スポーツの日(授業日)
- 31日(金) 秋学期学費納入最終日
- 11月1日(土) 同志社クローバー祭
- 2日(日)
- 2日(日) スポーツフェスティバル
- 3日(月) 文化の日(授業日)
- 24日(月) 振替休日(授業日)
- 26日(水)
- 27日(木) 創立記念行事週間(休講)
- 28日(金)
- 29日(土) 創立記念日(休日)
- 12月24日(水) 冬期休暇開始
- 25日(木) キリスト降誕日(休日)

2026年

- 1月6日(火) 冬期休暇終了
- 7日(水) 面接授業再開
- 12日(月) 成人の日(休日)
- 19日(月) 面接授業最終日
- 20日(火) 期末試験開始
- 23日(金) 創立者永眠の日
- 2月9日(月) 期末試験終了
- 12日(木)
- 18日(水) 秋学期集中講義期間
- 3月上旬
- 13日(金) 卒業可否通知
- 20日(金) 在学生成績通知(注3)
- 21日(土) 秋学期卒業式・学位授与式
- 22日(日)
- 31日(火) 秋学期終り

※ 1週分のオンデマンド授業は、各学期の面接授業開始以降、成績評価を終えるまでに配信される。

(注1) 2年次生以上は前年度3月の成績通知日以降、1年次生は入学式以降、この面接授業開始日までに、先行登録期間及び履修科目登録期間が設定される。

(注2) 成績通知日以降、秋学期の面接授業開始日までに、先行登録期間及び履修科目登録変更期間が設定される。

(注3) 成績通知日以降、翌年度4月の面接授業開始日までに、先行登録期間及び履修科目登録期間が設定される。

| 2025年 | | | | 2025年 | | | | 2025年 | | | | 2025年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----|----|----|-------|----|----|----|-------|----|----|----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | | | | |
| 4 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 5 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 6 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 7 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
| 月 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 月 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 月 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 月 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | |
| | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 月 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 月 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 月 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | |
| | 27 | 28 | 29 | 30 | | | 月 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 月 | 29 | 30 | | | | | | 月 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 9 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 10 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 11 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 月 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 月 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 月 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 月 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 月 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 月 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 月 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 月 | 28 | 29 | 30 | | | | | 月 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | | 月 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| | 31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2026年 | | | | 2026年 | | | | 2026年 | | | | 2026年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | | | | |
| 12 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 2 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 3 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | |
| 月 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 月 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 月 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 月 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | |
| | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 月 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 月 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 月 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | |
| | 28 | 29 | 30 | 31 | | | 月 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 月 | 29 | 30 | 31 | | | | | 月 | 29 | 30 | 31 | | | | | |

●印は「国民の祝日に関する法律」に規定する休日

| | I | II | III | IV | V |
|------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 授業時間 | 9:00~10:30 | 10:45~12:15 | 13:10~14:40 | 14:55~16:25 | 16:40~18:10 |
| | VI | VII | | | |
| | 18:25~19:55 | 20:10~21:40 | | | |

Contents

目次

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1. 学修について | 4 |
| ・学位の取得に必要なこと / 単位制について / セメスター制について | |
| ・生命医科学部授業科目について / 免許・資格関係科目 / 自由科目 | |
| ・登録単位数の制限について | |
| ・GPA 制度による成績評価について / GPA 制度の概要 | |
| ・履修中止制度 / 追試験制度 / 成績評価結果の公表 | |
| ・科目担当者による授業講評 / クレーム・コミッティ制度 | |
| ・単位認定制度について | |
| 2. 科目登録について | 11 |
| ・登録に関する一般的な注意点 | |
| ・科目登録手続きについて | |
| ・時間割作成について / 科目登録完了までの流れ / 登録エラーについて | |
| 3. 免許・資格課程の履修について | 17 |
| ・教職課程について | |
| 4. サイエンスコミュニケーター養成副専攻について | 18 |
| ・サイエンスコミュニケーター養成副専攻とは / 履修にあたって 修了要件 / サイエンスコミュニケーター養成副専攻認定科目 | |
| 5. 各種手続・その他注意事項について | 22 |
| ・授業時間・試験時間 / 身上変更について / 在学年限および休学可能期間について 休学・退学について / 卒業見込について / 学費について / 各種証明書について | |
| ・学生への連絡について / 各種窓口について / 欠席届について / 休講・補講について | |
| 6. 各学科カリキュラムについて | 25 |
| ・【医工学科】 | 26 |
| ・【医情報学科】 | 31 |
| ・【医生命システム学科】 | 37 |
| ・【選択科目B群】（全学科共通）設置科目 | 42 |
| ・【外国語による科目の開講について】 | 44 |
| 同志社大学学則、学部一般内規 | 52 |
| 外国留学に関する諸規程 | 65 |
| 学業履修について | 67 |
| 路線の不通または暴風警報・特別警報発表に伴う授業・期末試験の実施について | 72 |
| 生命医科学部教員名簿 | 75 |

はじめに(科目登録・履修について)

【重要】本要項は2025年度生対象です。

『生命医科学部 履修要項』（本冊子）は入学時のみ配布します。

2025年度に配布する本冊子を卒業まで大切に保管し、今後も活用してください。

【重要】履修要項 掲載情報の更新・変更について

履修要項に掲載している情報に更新・変更があった場合は、生命医科学部ホームページ「科目登録・履修について」や大学ホームページにて変更内容を反映した状態の最新版のみ掲載します。

授業1週目（DO Week）と授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法について

通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り2週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業1週目（DO Week）のオンデマンド配信はシラバスからURLを確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学HPに掲載していますので、以下のURL、QRコード等から詳細を確認してください。

また、授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■DO Weekから始まる新たな学び

https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html



「学則第9条の5対象」について

同志社大学学則第9条の5では、文部科学省令である大学設置基準に規定されている遠隔授業の卒業必要単位数への算入上限を規定しており、学修支援システムDUETやシラバスに掲載している「学則第9条の5対象」は履修中の科目、もしくは単位修得済の科目がその「対象」であるか「対象外」であるかを示すものです。

本学では、2023年度までは新型コロナウイルス感染症における特例措置等により、すべての科目を「学則第9条の5」の「対象外」としてしています。これにより、すべての修得単位が卒業必要単位数へ算入されるため、この表示に留意する必要はありませんでしたが、2024年度以降は特例措置の適用がなくなるため、この項目に留意して履修計画を立てる必要があります。

所属する学部によって卒業必要単位数への算入上限単位数が決まっており、各科目が「対象」か「対象外」についてはシラバスで確認してください。詳細については以下URLもしくはQRコードから確認してください。

■「学則第9条の5対象」について

<https://duet-man.doshisha.ac.jp/student/article9-5.pdf>



教育研究の目的

医療、福祉、健康等「生命」に関連する幅広いフィールドで、医学及び工学の複眼的視点から創意工夫をもって課題解決へと導くことのできるバイオメディカルエンジニア、医生命科学者を養成することを目的とし、医工学に重点をおいた生命医科学の教育研究活動を展開します。

また、理工学部、文化情報学部、スポーツ健康科学部等を中心として、本学の総合力を基盤に、理工学ならびに健康科学分野と密に連携することによって、基礎医学、生物学、倫理学等多様な学問との融合的な教育研究を行います。

人材養成の目的

生命医科学部は、生命現象の本質を科学的に理解すると同時に、その制御機能を多角的な視点から明らかにする教育研究活動をとおして、生命医科学に関連するさまざまな課題に対して、工学ならびに理学を基盤とする総合的な知識と関連する技術を身に付けて、健康・医療に関する様々な社会的要請に対応できる人材を養成することを目的とする。

医工学科は、ヒトを生体システムとして捉え、機械工学と医学の融合領域において、再生医療、バイオメカニクス、バイオマテリアル、及びバイオリボティクスの分野について、講義と実験実習をとおして、問題設定能力と問題解決能力を身に付けて、民間企業や官民の研究機関、教育機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。

医情報学科は、生体情報の取得・制御に関する知識や技能と、生体情報処理機構を次世代高度情報システムの構築へと展開できる応用力について、幅広いリベラルアーツと自然科学基礎、電子・情報工学、生体情報、脳科学に関する講義や演習、実験、卒業研究をとおして、自発的に問題発見・解決を行い、それを伝えることのできる創造力を身に付けて、企業や研究所等において活躍する人材を養成することを目的とする。

医生命システム学科は、ヒトをひとつの生命システムと捉え、それを維持する生理機構やその破綻による各種疾病の発症機構、さらにはその治療・予防について、生命科学、薬学、基礎医学、臨床医学に関する講義、ならびにこれらと密接に関連した実験実習をとおして、体系的な理解能力と実践的な問題解決能力を身に付けて、生命科学、基礎医学、健康科学の関連分野において活躍する人材を養成することを目的とする。

01 学修について

■学位の取得に必要なこと

生命医科学部で学位を取得するためには、4年以上修学し（※休学期間は修学期間には含まれません）、所属する学科が定めるカリキュラムに沿って授業科目を履修して所定の単位（「卒業のための要件」を満たすための単位。以後、「卒業単位」と表記します）を修得しなければなりません。卒業要件を満たした場合、卒業する学科によって次の学位が授与されます。



■単位制について

学部ごとの教育課程（カリキュラム）に定められた科目を登録・履修し、合格の評価を得ることにより、それぞれの科目所定の単位を得て、修業年限中に卒業に必要な単位数を修得していく制度です。

■セメスター制について

同志社大学ではビジネス研究科を除くすべての学部・研究科で「セメスター制」を実施しています。セメスター制では、1年を2つの学期（春学期、秋学期）に分け、学期ごとに授業が完結し、試験等を行って成績評価をすることになります。各学期終了後、成績を通知します。

ただし、履修科目の登録については、秋学期に履修する科目も春学期の登録期間に登録してください。

■ 生命医科学部授業科目について

■ 必修科目

学部の専門分野を学ぶ上で核となる科目群です。段階的に学べるよう、科目ごとに履修年次が定められています。

■ 選択科目

卒業に必要な単位として認められる科目のうち、必修科目以外の科目を指します。生命医科学部の選択科目は、医工学科・医情報学科はA群～C群に、医生命システム学科は、A群とB群に分類されます。

| | | |
|---------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A群 | 生命医科学部関連科目です。各学科「開講科目一覧」に「カリキュラム系統図」を掲載しています。関連のある科目を確認してください。 | |
| B群 | I類 | 全学共通教養教育科目 外国語教育科目の「英語」科目 |
| | II類 | 全学共通教養教育科目 外国語教育科目の「ドイツ語」「フランス語」科目 |
| | III類 | <p>【全学共通教養教育科目】 同志社科目をはじめとする各教養教育科目を履修できます。 詳細は、入学年度の『全学共通教養教育科目履修要項』（別冊）を参照してください（入学年度により履修できる科目群・科目区分・科目が異なります）。</p> <p>【教職免許関係科目】</p> <p>【他学部設置科目】</p> <p>【単位互換科目】（同志社女子大学、大学コンソーシアム京都単位互換科目）</p> |
| C群 | 教職免許関係科目 | |
| 日本語・日本文化教育科目 | 外国人留学生が登録履修できる科目 詳細は『日本語・日本文化教育科目履修の手引き』（別冊）を参照してください。 | |

■ 自由科目

単位を修得しても卒業に必要な単位として認められません。ただし、自由科目が免許・資格関係科目に該当する場合は、免許・資格関係の単位として認められます。

■ 免許・資格関係科目

教員免許や図書館司書、学校図書館司書教諭、博物館学芸員の資格取得に履修が必要な科目を「免許・資格関係科目」として、最高登録単位数には含まずに登録・履修することができます。科目登録時に登録コードの種別欄で「M」を選択して登録してください（免許資格に関する「自由科目」にも「M」登録できます）。ただし、「免許・資格関係科目」として登録した場合は、卒業単位には算入されません。

< 「M」登録について >

・免許資格関係科目の登録種別欄で「M」を選択して登録（M登録）するには、履修を希望する免許資格課程の「**仮登録（一般登録期間にDUETにて可能）**」もしくは「**課程登録（説明会出席等の所定手続が必要）**」を必ず行わなければなりません。

手続方法は免許資格課程や年次によって異なるので免許資格課程センターの掲示等で確認を行ってください。「仮登録」もしくは「課程登録」が完了していない場合は登録エラーとなります。

1年間に登録できる単位数には制限があります（7頁参照）ので、免許・資格の課程を履修する場合は、上限の中で卒業単位との兼ね合いを考え計画的に履修することが必要です。免許・資格関係科目として1年間に登録できる最高登録単位数は、年間最高登録単位数とは別に、1課程では18単位、2課程以上の場合には22単位です。
⇒免許・資格課程の履修については、「3. 免許・資格課程の履修について」（17頁）及び『免許・資格関係履修要項』を参照してください。

【免許・資格関係科目としての年間登録単位数】

1課程履修⇒18単位以内

2課程履修（例：教職課程と図書館司書課程）⇒22単位以内

■ 自由科目

卒業に必要な単位として算入しない科目を自由科目といいます。どの科目が「自由科目」であるかは生命医科学ホームページ「科目登録・履修について」等で確認ください。

また、科目登録時に登録種別「Z」を選択して登録することにより、任意の科目を自由科目として履修することが可能です。自由科目は卒業単位やGPAには算入されませんが登録単位数には算入されますので、注意してください。

【科目群の性格】

| | 免許資格関係科目 | 自由科目 |
|----------------|----------------------------------|-------------|
| GPA（平均点）への算入は？ | × NO（算入しない） | × NO（算入しない） |
| 上限単位を超えての登録は？ | ○ YES（登録可） （科目登録時にMを選択して登録する） | × NO（登録不可） |
| 卒業単位への算入は？ | × NO（算入しない） | × NO（算入しない） |
| 免許資格取得に有効か？ | ○ YES（有効） | ○ YES（有効） |

■登録単位数の制限について

(1) 1年間の登録単位数の上限

1年間に登録できる単位数は以下のとおり定められています。

| | |
|----------------|-------|
| 年間登録最高単位数 | 48 単位 |
| セメスター登録最高単位数 | 30 単位 |
| セメスター登録最低必要単位数 | 1 単位 |

*第3年次編入学生については、履修登録単位数の上限を緩和する措置をとることがある。

(2) 「免許・資格関係科目」として登録する場合の上限

免許資格の取得を目的とする場合、科目登録の際に「免許・資格関係科目」として申請すれば、(1)の上限を超えて登録することができます。(17頁参照)

■GPA制度による成績評価について

GPA制度は、大学教育における成績評価制度のグローバル・スタンダードとして、現在、国際的にもっとも認知度の高い制度です。大学教育の国際的競争環境に関する教員と学生双方の自覚を高め、GPAを核とした確な履修指導や学修支援システムを充実させることにより、学生の自立的な自己教育を支援し、本学の教育を質的に一層向上させることを目的としています。

■GPA制度の概要

各科目の成績評価を以下の判定基準にしたがい、5段階(A、B、C、D、F)で評価し、各成績評価段階に4.0～0.0の評点(Grade Point)を付与して、1単位あたりの評定平均値(Grade Point Average)を算出する方法です。GPAは、不合格を意味するF評価の成績を含めて以下の計算式で算出しますが、F評価であった科目を再履修してD以上の評価を得た場合、最後についたF評価は新たな評価に書き換えられて算出されます。

【判定基準】

| 評価 | 評点 | 判定内容 |
|----|-----|----------------------|
| A | 4.0 | 特に優れた成績を示した |
| B | 3.0 | 優れた成績を示した |
| C | 2.0 | 妥当と認められる成績を示した |
| D | 1.0 | 合格と認められる最低限度の成績を示した |
| F | 0.0 | 合格と認められるに足る成績を示さなかった |

【GPA算出方法】

$$\frac{(\text{A}) \times 4.0 + (\text{B}) \times 3.0 + (\text{C}) \times 2.0 + (\text{D}) \times 1.0 + (\text{F}) \times 0.0}{(\text{A}) + (\text{B}) + (\text{C}) + (\text{D}) + (\text{F})}$$

①～⑤は、A～Fの評価がついた科目の単位数の合計

成績通知書には履修した全ての科目の評価とGPAが記載され、成績証明書には不合格科目を除く履修した全ての科目の評価とGPAが記載されます。なお、一部「合格/不合格」や「認定」で成績評価される科目もあり、当該科目はGPAには算入されません。

【成績評価の書き換えについて】

F評価であった科目を再履修してD評価以上を得た場合、直近のF評価は新たな評価に書き換えられます。

<例>再履修回数1回の場合

| 履修年度 | 科目名・クラス | 評価 | | 履修年度 | 科目名・クラス | 評価 |
|------|---------|----|------|------|---------|----|
| 2025 | 公衆衛生学 | F | 書き換え | 2026 | 公衆衛生学 | C |

2025年度の「F」評価が2026年度の「C」評価によって書き換えられます。書き換えられたことによって2025年度の「F」評価の評点「0.0」は算入されなくなります。

<例>再履修回数2回の場合

| 履修年度 | 科目名・クラス | 評価 | | 履修年度 | 科目名・クラス | 評価 |
|------|---------|----|--------------|------|---------|----|
| 2025 | 公衆衛生学 | F | 成績確定 書き換え | 2025 | 公衆衛生学 | F |
| 2026 | 公衆衛生学 | F | | 2027 | 公衆衛生学 | C |

2027年度の「C」評価によって2025年度の「F」評価は確定。よって以後の成績通知書にこの「F」評価が記載されるとともに評点「0.0」が算入されます。

2026年度の「F」評価が2027年度の「C」評価によって書き換えられます。書き換えられたことによって2026年度の「F」評価の評点「0.0」は算入されなくなります。

(注意事項)

「大学コンソーシアム京都単位互換科目」「同志社女子大学単位互換科目」「プロジェクト科目」は成績を書き換えません。

■履修中止制度

1ヵ月程度授業を受講し、望ましい評価が得られないと判断した科目については、定められた期間中に、一定の条件のもとに、登録科目の履修中止を認めます。

■追試験制度

全年次生を対象として病気またはやむを得ない理由により、期末試験または生命医科学部教授会が認める期末試験以外の評価を受けることができなかった場合、追試験の申請を行うことができます。詳細については「学業履修について」(67頁)、大学ホームページおよび学内の掲示板で確認してください。

■成績評価結果の公表

各学部・研究科が定める科目を除き、授業クラスごとの平均点および評点の分布を大学ホームページ上で公表します。

■科目担当者による授業講評

科目担当者が、期末試験やレポート試験結果などを含めた授業関連活動に関する講評を、大学ホームページ上で公開します。この講評は、教員と学生間の教育的フィードバックを目的として実施されています。

■クレーム・コミッティ制度

厳格な成績評価制度の導入に伴い、大学は学生により質の高い教育を提供していかなければなりません。このため、大学が学生からの授業内容・授業方法に関する改善の要望を受け付け、調査し回答するために、クレーム・コミッティ制度を設けています。

(注意事項)

受講している科目の授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、京田辺キャンパス教務センターに申し出てください。なお、いかなる場合であっても、相談者の学生IDや氏名が授業担当者に明かされることはなく、相談によって不利益を被ることはありません。

■単位認定制度について

1. 入学前の単位の認定について

入学前に以下の教育機関で修得した単位を同志社大学生命医科学部において修得したものとして認定する場合があります。

- ・大学（本学の他学部を含む）（本学の科目等履修生として修得した単位を含む）
- ・短期大学（科目等履修生として修得した単位を含む）
- ・外国の大学・短期大学（文部科学省に認定される外国の大学の日本校において修得した単位を含む）
- ・短期大学および高等専門学校の専攻科

単位認定を希望する 1 年次生は、**本学入学前の教育機関での成績証明書および該当科目を履修した年度の「シラバス」または「講義概要」（コピー可）を持参の上、認定申請をしてください。**

申請期限 春学期講義開始日まで【厳守】（各日事務室開室時間内）

2. 在学中の単位の認定について

- ・同志社女子大学の提供する科目、早稲田大学との学生交流制度による早稲田大学の科目、大学コンソーシアム京都が提供する他大学の科目を履修することができます。単位を修得した場合は選択科目 B 群Ⅲ類に算入されます。
- ・在学留学中に修得した単位は、単位認定を申請することができます。

3. 選択科目 B 群Ⅰ類（英語）の単位認定について

① 認定単位数

入学前および在学中に実用英語技能検定（英検）、国連公用語英語検定、TOEFL PBT[®]、TOEFL iBT[®]、TOEIC[®] Listening & Reading Test で一定水準以上の成果を修めた場合は、以下のとおり 4 単位を限度として選択科目 B 群Ⅰ類の単位に認定します。

※ただし、B 群Ⅰ類（英語）は、定められた科目から 8 単位完修する必要があります。詳細については、42 頁の「選択科目 B 群 設置科目」を確認すること。

| 種 類 | 2 単位認定 | 4 単位認定 |
|---------------------------------------------|---------|---------|
| 実用英語技能検定 | 準 1 級 | 1 級 |
| 国連公用語英語検定 | A 級 | 特 A 級 |
| TOEFL PBT [®] | 533 点以上 | 600 点以上 |
| TOEFL iBT [®] | 72 点以上 | 100 点以上 |
| TOEIC [®] Listening & Reading Test | 730 点以上 | 850 点以上 |

② 適用

- ◆TOEFL PBT[®]、TOEFL iBT[®]、TOEIC[®] Listening & Reading Test は公開テストのみ対象とします（TOEFL ITP[®]、TOEIC[®] Listening & Reading Test (IP) テストスコアは単位認定の対象となりません）。
- ◆2 単位認定者が同一種類または違う種類の上級基準をクリアした場合は、2 単位を追加認定します。例えば英検準 1 級取得者が 1 級を取得した場合や、国連公用語英語検定で特 A 級、TOEFL PBT[®] で 600 点以上、TOEFL iBT[®] で 100 点以上、TOEIC[®] Listening & Reading Test で 850 点以上を取得した場合は、既に認定されている 2 単位に加えて 2 単位を認定します。
- ◆違う種類の同級基準を取得しても追加で単位は認定しません。例えば、TOEFL PBT[®] 533 点取得者が、TOEIC[®] Listening & Reading Test で 730 点を取得しても追加で単位を認定しません。

③ 認定の申請方法

単位認定希望者は、英語検定、国連公用語英語検定の場合は合格証明書、TOEFL[®]と TOEIC[®] Listening & Reading Test の場合はスコアカードを**春学期は春学期講義最終日まで、秋学期は秋学期講義最終日まで（各日事務室開室時間内）**に京田辺キャンパス教務センター（生命医科学部）に提出してください。証明書およびスコアカードは事務室で確認後、後日返却します。

4. 認定単位数の上限について

単位を認定できるのは 60 単位までです。例えば、入学前に修得した 30 単位を認定された場合は、在学中の認定単位の上限は 30 単位となります。

| 他大学等で修得した単位の認定 ① + ② + ③ ≤ 60 単位 | | |
|----------------------------------|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 60 単位以内 | 2 or 4 単位以内 | 60 単位以内 |
| ①入学前に修得した単位の認定 | ②選択科目 B 群 I 類の単位認定 | ③在学中の単位認定 ● 同志社女子大学単位互換科目 ● 早稲田大学交流協定科目 ● 大学コンソーシアム京都単位互換科目 ● 在学留学で修得した単位 |

5. 単位認定の成績について

単位認定された科目の成績は、成績通知書や成績証明書に「認定」と表示され、GPAには算入されません。なお、入学前に本学で履修した科目が単位認定された場合は、同じ科目を再履修することはできません。

02 科目登録について

大学において履修とは、まず自分自身で学修目的をたて、時間割を作成し、学修することを意味します。不明な点や、理解しづらい事項があれば、履修相談や、京田辺キャンパス教務センターの窓口で相談してください。

学修に関する連絡は全て生命医科学部掲示板（知真館 2 号館 2 階、医心館グランドフロア）、学修支援システム D U E T（以下、D U E T）、大学が交付したメールアドレスを通じて行いますので、定期的に各媒体を確認してください。

- ・登録期間中は、手続きの確認などのため電話や大学交付メールアドレス宛に問合せすることがありますので、必ず連絡が取れるようにしておいてください（登録期間中は、毎日学部掲示板と D U E T を確認するよう注意してください）。また、D U E T による各種申請手続（WEB による科目登録、先行登録、履修中止など）は、万全の体制を整えて準備していますが、予測不能なネットワーク障害やシステムのハード障害などが発生し、WEB による手続きが行えなくなる可能性もあります。
- ・これらの臨時的対応については、D U E T のお知らせにてご案内しますが、D U E T が障害により稼動していない場合については、大学ホームページ>在学生のページ「重要なお知らせ」にてお知らせします。

■登録に関する一般的な注意点

- ・同一曜日・講時に複数の科目を登録することはできません。
- ・今出川校地開講科目と京田辺校地開講科目を連続して登録することはできません。2 講時と 3 講時の科目でも、開講校地がまたがっている場合は連続して登録することはできません。
- ・過年度・過学期に履修し合格した科目は、複数回の履修が認められている科目を除いて、再度登録することはできません。
- ・複数クラスが開講される科目については、複数回の履修が認められている科目を除いて、1 クラスしか登録できません。
- ・登録単位数（特に最高登録単位数に注意）や配当年次制限、履修条件などを確認のうえ、登録を行ってください。登録した科目以外は受講することができません。また単位の修得も認められません。
- ・免許・資格関係科目として登録する（登録コード種別欄に「M」をつける）場合は、最高登録単位数および卒業必要単位数には算入されません。登録に際しては『免許・資格関係履修要項』を参照してください。
- ・実験実習料が必要となる科目には、『開講科目一覧表(別紙)』の「履修条件など」の欄に「実験実習料が必要」と記されています。登録を希望する場合は、納入してください。なお、実験実習費が納入されなければ、登録は削除されるので注意してください。

< 実験実習料 > 1 単位につき 2,500 円 例) 2 単位科目の場合 5,000 円

< 納入方法 > ※いったん納入した実験実習料は、履修中止した場合でも返金しません。

証明書自動発行機（成心館 1 階、理化学館 1 階に設置）で実験実習料納入済証を取得し、**理工学部事務室**に提出してください（自動発行機に上記の金額を納入すると納入済証が発行されます）。

■科目登録手続きについて

●D U E Tからの登録手続きについて

①D U E Tにアクセス。

②ユーザーID、パスワードを入力してログインする。

※大学が交付したユーザーIDを使用する。学生IDとは異なるので注意。

③機能メニュー（画面左）の履修手続【先行登録申請・一般登録申請】から各科目登録を行う。

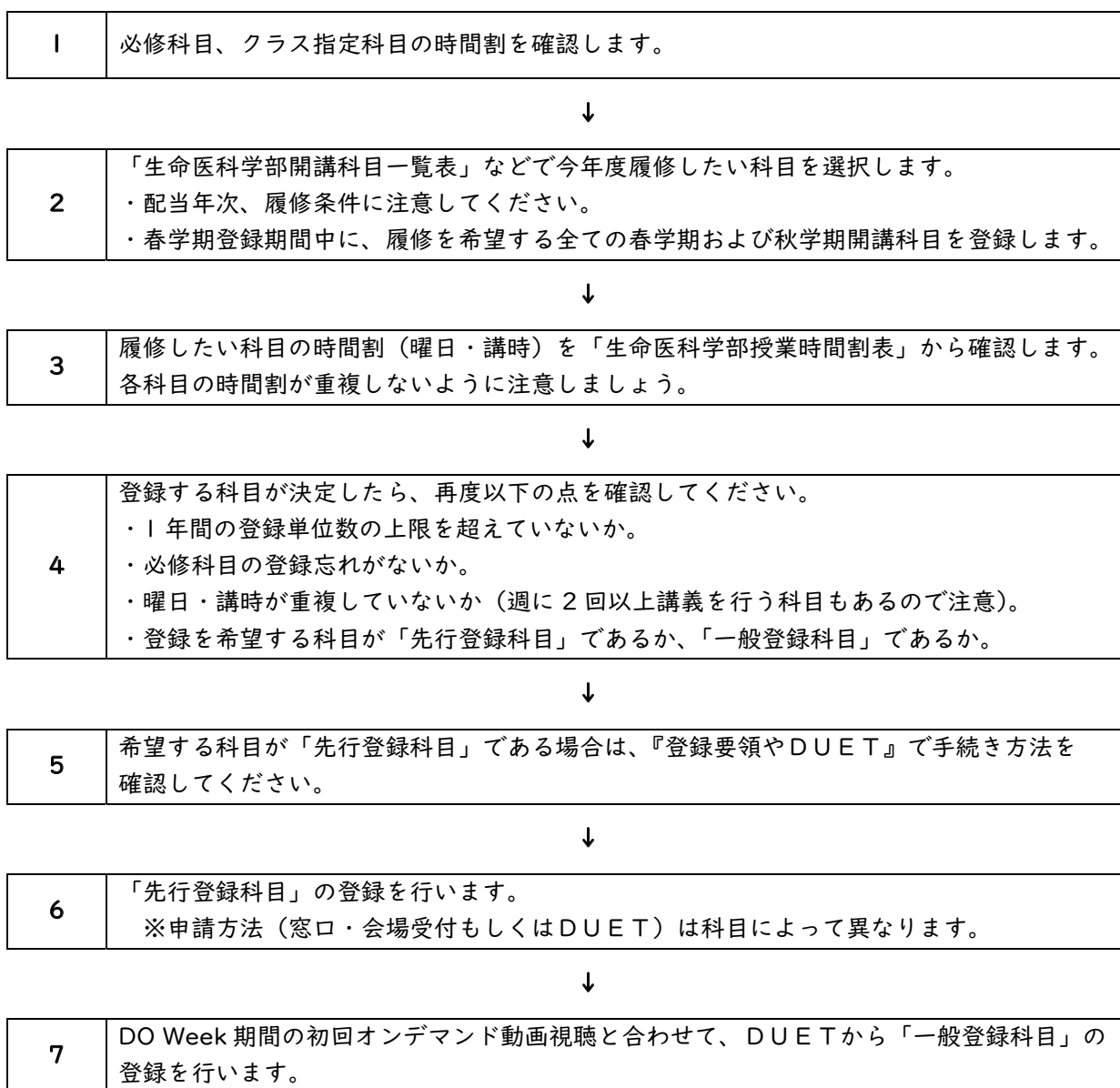
*窓口や会場で登録手続きを行う科目もあります。手続きにあたっては学生証の提示が必要です。

●D U E Tからの科目登録における注意点【重要】

履修科目登録後は、D U E T上の各登録画面を再度開いて自分が行った履修科目登録が正しく反映されているか、必ず確認してください。また、履修科目登録後、大学より交付されたメールアドレス宛てに登録内容（申請内容）がE-Mailで送付されますので、あわせて必ず確認してください。

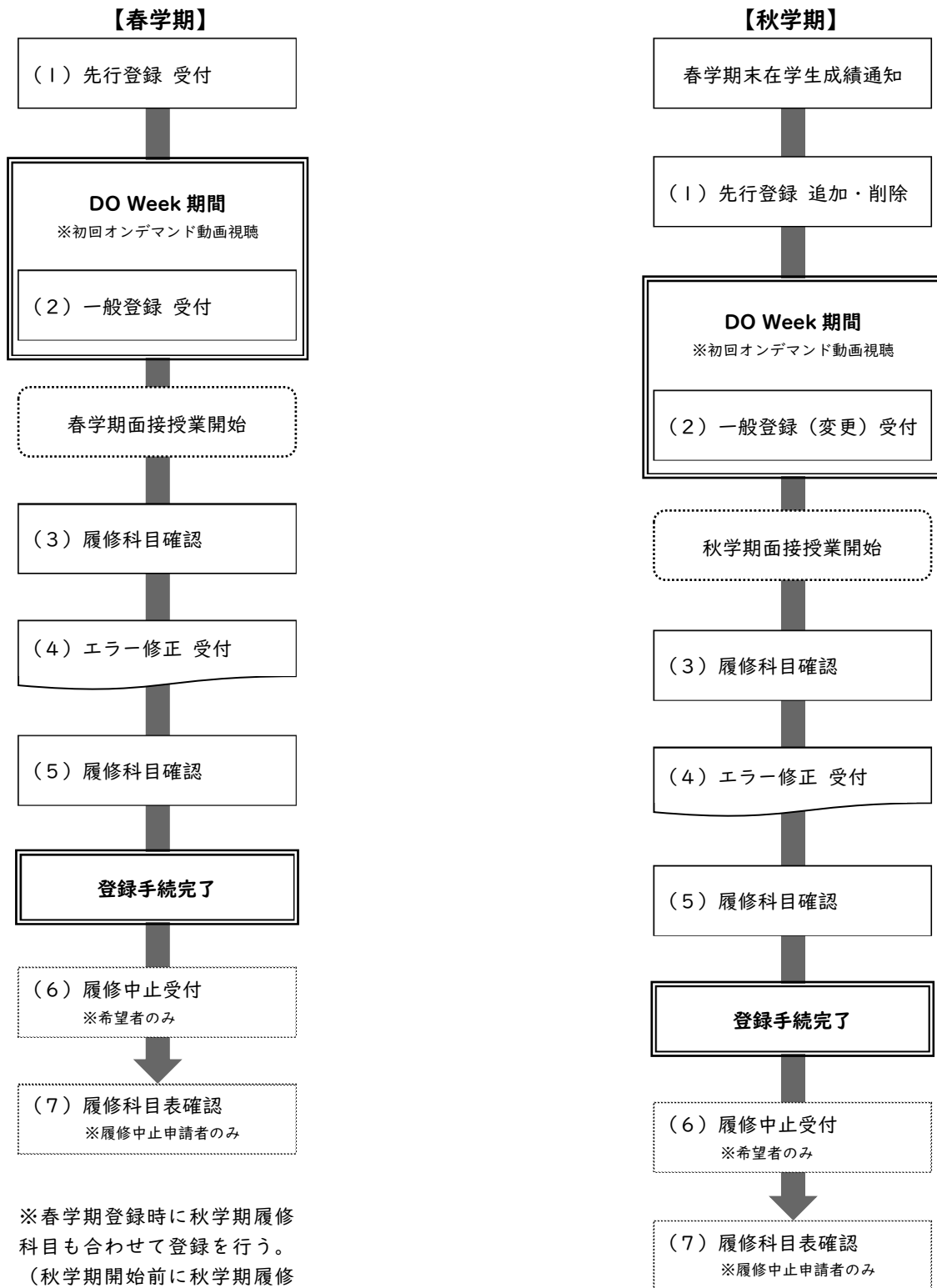
ただし、E-Mailは履修科目登録後すぐには届かないことがありますので、ご注意ください。

■時間割作成について



■科目登録完了までの流れ

科目登録においては『履修要項』、『シラバス』、『生命医科学部開講科目一覧』、『登録要領』、『生命医科学部授業時間割表』、生命医科学部掲示板などを確認し、所定の手続きを行ってください。



■先行登録科目とは

- ・クラス定員があり、抽選や選考を経てあらかじめ登録者を決定する科目のことです。
例：外国語教育科目、保健体育実技科目など
- ・クラスが決定すると、**登録変更や履修中止期間以外での履修中止はできません**ので注意してください。ただし、秋学期開講科目については、一部の例外を除き、秋学期開講前の定められた期間に手続きをすると削除や追加をすることができます。
- ・先行登録には「**窓口や会場で申請する**」場合と「**D U E Tから申請する**」場合があります。窓口や会場での登録手続きには学生証が必要です。
- ・先行登録対象科目については、『登録要領』を参照してください。なお、先行登録でクラスが決定すると、そのまま登録が確定します。**一般登録期間に再度手続きする必要はありません。**

■一般登録科目とは

- ・「先行登録」対象科目以外の全ての科目が対象です。
- ・D U E Tを利用して登録を行います。
- ・登録が確定すると、登録科目の変更や履修中止期間以外での履修中止はできませんので注意してください。（ただし、一般登録を行った秋学期開講科目については一部の例外を除いて秋学期開講前に変更・修正の手続きをすることができます）

■先行登録科目のエラー修正について

先行登録科目は、科目によってエラー修正の日時・場所が異なりますので、注意してください。

■登録科目確認表およびエラー修正期間について

各自でD U E Tから登録科目確認表（PDF）をダウンロードし、登録した科目が記載されているか確認してください。登録エラーがある場合は所定期間内に「登録科目エラー修正」の手続きを行う必要があります。

■履修中止受付

- ・講義開始後1ヵ月程度講義を受講し、望ましい評価が得られないと判断した科目については、D U E Tより履修中止を申請できます。ただし履修中止をした際、学期最低登録単位数を下回ることはできません。
- ・春学期に履修中止した単位数については秋学期の登録変更の際、秋学期および年間の最高登録制限単位数、学期最高登録単位数を超えない範囲で追加登録できます。
- ・この期間は履修中止のみが認められており、登録の変更、修正、追加はできません。
- ・履修中止後に必ずD U E Tで登録科目を確認してください。時間割表は印刷して保管してください。

■春学期成績通知および秋学期登録書類配付

秋学期講義開始前に春学期科目の成績をD U E T上で通知します。また、生命医科学部『秋学期授業時間割表』、『秋学期登録要領』やその他登録書類は、生命医科学部ホームページにて掲示いたします。

■秋学期 先行登録科目削除

春学期に登録した先行登録科目を、一部の例外を除き、削除することができます。手続き期間が定められているので、秋学期講義開始前に掲示する登録書類で確認してください。

■秋学期 先行登録

秋学期の先行登録では、春学期に実施した先行登録科目のうち定員の空いているクラスについて再募集します。また、春学期開講の外国語教育科目における不合格者を対象とした再履修クラスについての登録を行います。

■秋学期 一般登録科目登録変更受付期間

秋学期開講の一般登録科目について、「登録変更期間」があります。ただし、変更や取消、追加ができない科目がありますので注意してください。

詳細に関しては、秋学期講義開始前に掲示する登録書類で確認してください。

■登録エラーについて

DUE Tから登録申請後、必ず「登録科目一覧」画面のエラー情報欄から登録エラーの有無を確認してください。

以下に、よくあるエラー例を挙げています。このようなエラーが生じないように本冊子を熟読の上、確実に登録を完了してください。登録科目確認表にエラーが表示されている場合は、下表の対応欄を参照の上、指定された期間・方法でエラー修正手続きを行ってください。

1. エラー科目欄に表示されるエラー（例）

| エラー表示 | エラーの原因 | エラーへの対応 |
|--------------------------------|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 履修条件エラー | 当該科目を登録するために必要な条件満たしていない。 | 履修条件を満たさない場合は、当該科目を削除する。セットで登録を行う科目のうち一方の科目を登録し忘れた場合は、もう一方の科目の追加登録を認める場合がある。 |
| 受講出来ない | 何らかの理由で登録できない科目を登録している。履修要項等で履修条件を確認すること。 | 当該科目を削除する。 |
| 登録単位数オーバー | 登録単位数（セメスターと年間とで制限あり）の上限を超えて登録している。 | 必要最低限の科目を削除する。 |
| 指定クラスでない | 指定クラスと異なるクラスを登録している。 | 指定されたクラスを登録すること。 |
| NNNN 年度履修済 | すでに履修済みの科目を登録している。 | 当該科目を削除する。 |
| 時間割重複 | 同じ講時に2つ以上の科目を登録している。 | 当該科目のいずれか一方を削除する。先行登録科目と一般登録科目が重複している場合は、一般登録科目を削除する。先行登録科目の削除は、必修科目等と重複した場合に限る。 |
| 履修年次誤り | 配当年次と異なる科目を登録している。 | 当該科目を削除する。 |
| 開講科目（クラス）重複 | 同じ科目を2回以上入力している。指定科目を除き、同一科目は1クラスしか登録できない。 | 当該科目（クラス）のいずれか一方を削除する。 |
| 2校地間移動不可 | 連続した講時に異なる校地の科目を登録している。 | いずれか一方の科目を削除する。ただし、先行登録科目や単位互換科目の削除は認めない。 |
| 登録単位数不足 | 登録単位数がセメスターあるいは年間登録最低必要単位数に満たない。 | 必要最低限の科目を追加登録すること。 |
| 免許希望登録がないため、免許・資格関係科目として登録できない | 教務課免許資格係で教職課程などの課程登録の手続きをしていない。 | 登録科目の削除、または免許資格課程センター事務室に相談すること。 |

注意

DUE Tの操作ミスや認識違いなどで、自分が登録する意思のない科目を登録してしまった場合や登録したつもり
の科目が登録されていない場合は、エラー修正の対象とはならないため修正や変更は行えません。登録申請後は画
面表示とともに、必ず大学が交付したメールアドレス宛に届く確認メールの内容をよく確認してください。

2. 登録エラー放置者に対する処置

定められた期間に登録エラー科目を修正せず放置した場合は、登録エラーがなくなるように科目の削除または追
加を強制的に行います。強制処理の結果に対する異議は受け付けません。必ず登録科目確認表を確認し、登録エラー
があればエラー修正手続きを行ってください。

03 免許・資格課程の履修について

本学では、次の4課程を設置しており、「免許・資格」と記載する場合はこれら4課程を指します。

・教職課程 ・博物館学芸員課程 ・図書館司書課程 ・学校図書館司書教諭課程

免許・資格課程の履修の詳細については、『免許・資格関係履修要項』で確認してください。なお、教職課程のカリキュラムは入学年度によって異なりますので、必ず自身の入学年度に応じた『免許・資格関係履修要項』を参照してください。

各課程で修得が必要な科目のうち複数の課程で重複している科目は、修得すれば該当の何れの課程の単位としても認められます。なお、免許・資格関係に関する連絡事項は免許資格課程センターの掲示板等で周知されますので、注意してください。

免許資格課程の履修にあたっては、卒業に必要な単位に加え、各免許資格課程で定められた所要単位を修得しなければなりません。授業だけでなく、準備学習や復習など授業時間外の学習の重要性を考慮したうえで、生命医科学部および免許資格の登録制限単位の範囲内で、1年次から計画的に履修することが要求されます。

■教職課程について

【 取得できる教員免許教科 】

| | | |
|-----------|---------------|-------------|
| 医工学科 | ⇒ 中一種免（数学・理科） | 高一種免（数学・理科） |
| 医情報学科 | ⇒ 中一種免（数学・理科） | 高一種免（数学・理科） |
| 医生命システム学科 | ⇒ 中一種免（理科） | 高一種免（理科） |

【 教職課程の科目について 】

教員免許状取得資格については『教育職員免許法・同施行規則』に定められており、次の分類について定められた単位を修得しなければなりません。各分類と本学の科目の対応については、『免許・資格関係履修要項』で確認してください。

【 博物館学芸員課程・図書館司書課程・学校図書館司書教諭課程の科目について 】

これら3課程の科目は、それぞれ「博物館法施行規則等」「図書館施行規則に定める科目」「学校図書館司書教諭講習規程に定める科目」に定められています。各法令に定められた科目と本学の科目との対応は、『免許・資格関係履修要項』で確認してください。

※科目の登録について、不明な点があれば、京田辺キャンパス教務センターへ申し出てください。

04 サイエンスコミュニケーター養成副専攻について

■サイエンスコミュニケーター養成副専攻とは

本副専攻は、文系理系を問わず参画学部の学生を対象に、科学分野でおこる社会問題を正しく読み解き、解説できる人材を養成する学部横断型副専攻（教育プログラム）です。地震などによる災害、原発事故、環境問題、STAP細胞問題、医学部や製薬企業などのデータ改ざん・論文ねつ造などが大きな社会問題となっている今日、科学リテラシーをもつ人材は、企業を含め広く社会から求められています。

科学リテラシーとは、自然界で起こる様々な事象や変化を正しく理解し、自己の意思決定をするために、科学的知識を用いて問題を明確にしたうえで結論を導き出す能力のことです。本副専攻において、理系学生は、社会の要請を敏感に感じ取り、正確かつわかりやすい表現で説明する能力を身につけます。

文系学生は、社会問題につながる科学技術分野、なかでも健康と環境に関わる分野の基礎理解と評価力を習得します。履修生の進路は、各種企業、マスコミ、出版社、教育機関そして官庁などを想定していますが、研究倫理や科学リテラシーを履修した学生は今後、社会のあらゆる分野において活躍が期待されます。

■履修にあたって

- 本副専攻の履修を希望する場合、春学期一般登録期間までに**申請が必要**です。履修希望者は生命医科学部ホームページ『科目履修について』に記載された申請要領に従い、申請手続を行ってください。選考の上、副専攻履修可否を決定します。なお、選考により不許可となった場合、当該年度内は再度申請できません。
- 2年次生以上が申請可能です。
- 副専攻認定科目のうち、副専攻履修許可者のみ登録履修が許可される科目があります。副専攻履修許可者以外が該当科目を登録した場合は、科目登録を強制削除するので注意してください。
- 副専攻認定科目のうち卒業必要単位としても算入される科目があります。学科によって取り扱いが異なりますので、各科目の算入可否および算入されるカリキュラムなどの詳細については「副専攻認定科目一覧表」を確認してください。
- 申請年度より以前に修得していた単位も遡及して認定単位として算入されます。
- 所定単位を完修した場合には、卒業時から副専攻履修証明書の発行が可能です。また、副専攻認定科目の修得状況と科目登録状況をあわせた結果、修了見込となった場合には、履修中に副専攻履修見込証明書の発行が可能です。

■修了要件

●修了必要単位数：20単位

| 履 修 体 系 | 必 要 単 位 数 |
|----------------------------------------------------------------|-----------|
| サイエンスリテラシー科目群 | 12 単位以上 |
| コミュニケーター関連科目群 ※各選択グループ（選択（1）～選択（4））から算入されるのはグループごとに上限4単位まで。 | 8 単位以上 |
| 選択（1）【生命系】 | |
| 選択（2）【神・文・社会・心理系】 | |
| 選択（3）【法・政策系】 | |
| 選択（4）【経済系】 | |
| 合 計 | 計 20 単位以上 |

2025年度 サイエンスコミュニケーター養成副専攻認定科目一覧表

年度ごとに認定科目は追加・削除される可能性があります。最新の情報はホームページで確認してください。他学部設置科目の履修条件等については当該学部の履修要項をご確認ください
 <履修可否について>

※1 副専攻履修許可者のみ登録履修が認められる科目。

| 履修体系 | 配当 年次 | 科目 コード | クラス コード | 科目名 | 単 位 数 | 履 修 可 否 | 卒業必要単位としての算入取り扱い | | | |
|---------------|----------|-----------|------------|-------------------------------------------|-----------------------------|------------------|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|----------|
| | | | | | | | 医工 | 医情報 | 医生命システム | |
| サイエンスリテラシー科目群 | | | | | | | | | | |
| サイエンスリテラシー | 2~ | 11433502 | 001 | 科学技術概論Ⅰ (科学技術社会論) | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| | 2~ | 11433503 | 001 | 科学技術概論Ⅱ (調査方法論/統計学) | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| | 2~ | 11433504 | 001 | アウトリーチ実習 (科学技術表現実習) | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| | 2~ | 11433505 | 001 | サイエンスライティング | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| | 2~ | 11433517 | | サイエンスとインテリジェンス (ペイトソン研究) | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| | 2~ | 11433519 | | サイエンスとインテリジェンス (集中読解と議論) | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| | 2~ | 11433506 | 001 | サイエンス・ナウⅠ (生命科学とこころの科学) | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| | 2~ | 11433507 | 001 | サイエンス・ナウⅡ (生命医学入門) | 2 | ※1 | 自由科目 | 2016年度生以前 →A群Ⅱ類-2 2020年度生以降 →A群Ⅱ類-2 2017年度生~2019年 度生→自由科目 | 2019年度生以前 →自由科目 2020年度生以降 →A群Ⅱ類-2 | |
| | 2~ | 11433508 | 001 | サイエンス・ナウⅢ (報道と広報の現場) | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| | 2~ | 11433509 | 001 | サイエンス・ナウⅣ (放射線、原子力、エネルギー) | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| | 2~ | 11433510 | 001 | サイエンス・ナウⅤ (メディカルワークショップ・インターンシップⅡ基礎講義) | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| | 2~ | 11433514 | 001 | サイエンス・ナウⅥ (生命科学と社会) | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| | 2~ | 11433518 | 001 | サイエンス・ナウⅦ (食、健康、科学リテラシー) | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| | 2~ | 11433522 | 001 | サイエンス・ナウⅧ (多様なサイエンスコミュニケーション) | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| | インターンシップ | 2~ | 11433515 | | ビジネスワークショップ【2017年度生以降が履修可】 | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 |
| 2~ | | 11433516 | | メディカルワークショップ【2017年度生以降が履修可】 | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| 2~ | | 11433520 | | 取材・インタビュー実践講座【隔週授業】 | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| 2~ | | 11433521 | | 未知型探索ビジネスワークショップ【夏期集中および隔週授業】 | 2 | ※1 | 自由科目 | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類 | |
| コミュニケーター関連科目群 | | | | | | | | | | |
| 選択(1) | 生命系 | 2~ | 11433008 | 001 | 人体の構造と機能Ⅰ | 2 | | 必修科目 | 必修科目 | 必修科目 |
| | | 2~ | 11433008 | 002 | 人体の構造と機能Ⅱ | 2 | | 必修科目 | 必修科目 | 必修科目 |
| | | 1~ | 11433001 | 001 | 生命医科学概論 | 2 | | 必修科目 | 必修科目 | 必修科目 |
| | | 1~ | 11433001 | 002 | 生命医科学概論 | 2 | | 必修科目 | 必修科目 | 必修科目 |
| | | 1~※2 | 11433007 | | 臨床医学概論 | 2 | | A群Ⅱ類-1 | A群Ⅱ類-1 | 必修科目 |
| | | 1~ | 11433005 | | 公衆衛生学 | 2 | | A群Ⅱ類-1 | A群Ⅱ類-1 | 必修科目 |
| | | 1~ | 11439005 | | 公衆衛生学【他学部生用】 | 2 | | (履修できない) | (履修できない) | (履修できない) |
| | | 1~ | 11433002 | 001 | 生物学 | 2 | | 必修科目 | 必修科目 | 必修科目 |
| | | 1~ | 11433002 | 002 | 生物学 | 2 | | 必修科目 | 必修科目 | 必修科目 |
| | | 2~ | 11422102 | | 生物情報概論 | 2 | | (履修できない) | A群Ⅰ類-1α | A群Ⅱ類 |
| | | 2~ | 11422015 | 001 | 生化学 | 2 | | 必修科目 | 必修科目 | 必修科目 |
| | | 2~ | 11422015 | 002 | 生化学 | 2 | | 必修科目 | 必修科目 | 必修科目 |
| | | 3~ | 11433108 | | アンチエイジング | 2 | | A群Ⅱ類-2 | A群Ⅱ類-1 | A群Ⅰ類 |
| | | 3~ | 11433109 | | 機能的食品医学 | 2 | | A群Ⅱ類-2 | (履修できない) | A群Ⅰ類 |
| | | 選択(2) | 神系 | 1~ | 10110101 | 501 | 旧約聖書学入門Ⅰ【2025年度生以降が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 |
| 1~ | 10103021 | | | 501 | 旧約聖書学入門Ⅰ【2024年度生以前が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 1~ | 10110102 | | | 501 | 旧約聖書学入門Ⅱ【2025年度生以降が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 1~ | 10103022 | | | 501 | 旧約聖書学入門Ⅱ【2024年度生以前が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 1~ | 10110103 | | | 501 | 新約聖書学入門Ⅰ【2025年度生以降が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 1~ | 10103031 | | | 501 | 新約聖書学入門Ⅰ【2024年度生以前が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 1~ | 10110104 | | | 501 | 新約聖書学入門Ⅱ【2025年度生以降が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 1~ | 10103032 | | | 501 | 新約聖書学入門Ⅱ【2024年度生以前が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 1~ | 10110174 | | | | イスラーム史概説【2025年度生以降が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 1~ | 10103611 | | | | イスラーム史概説Ⅰ【2024年度生以前が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 1~ | 10110158 | | | 501 | ユダヤ史概説Ⅰ【2025年度生以降が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 1~ | 10103821 | | | 501 | ユダヤ教とその周辺文化Ⅰ【2024年度生以前が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 1~ | 10110159 | | | 501 | ユダヤ史概説Ⅱ【2025年度生以降が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 1~ | 10103822 | | | 501 | ユダヤ教とその周辺文化Ⅱ【2024年度生以前が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |

※2 医工学科、医情報学科は 3~

2025年度 サイエンスコミュニケーター養成副専攻認定科目一覧表

年度ごとに認定科目は追加・削除される可能性があります。最新の情報はホームページで確認してください。他学部設置科目の履修条件等については当該学部の履修要項をご確認ください
<履修可否について>

※1 副専攻履修許可者のみ登録履修が認められる科目。

| 履修体系 | 配当 年次 | 科 目 コード | クラス コード | 科目名 | 単 位 数 | 履 修 可 否 | 卒業必要単位としての算入取り扱い | | | |
|---------------|----------|------------|---------------------------|------------|-----------------------------------------------|------------------|------------------|------|---------|------|
| | | | | | | | 医工 | 医情報 | 医生命システム | |
| コミュニケーター関連科目群 | | | | | | | | | | |
| 選択(2) | 文系 | 2~ | 10240081 | | 科学哲学(1) | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10240082 | | 科学哲学(2) | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 3~ | 10240107 | 001 051 | 哲学概論(1) | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 3~ | 10240108 | 001 051 | 哲学概論(2) | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 3~ | 10240109 | 001 051 | 倫理学概論(1) | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 3~ | 10240110 | 001 051 | 倫理学概論(2) | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 選択(2) | 社会系 | 2~ | 10912113 | | 情報社会学 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10912114 | | 仕事の社会学 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10912115 | | 災害社会学 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10922005 | | 社会福祉入門【2021年度以前の修得単位のみ認定】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10922168 | | 医療福祉論 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10922212 | | 障害者福祉論【2021年度生以降が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10922171 | | 障害者福祉論Ⅰ【2020年度生以前が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10922172 | | 障害者福祉論Ⅱ【2020年度生以前が履修可】 【2022年度以前の修得単位のみ認定】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10922211 | | 児童・家庭福祉論【2021年度生以降が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10922175 | | 児童福祉論Ⅰ【2020年度生以前が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10922176 | | 児童福祉論Ⅱ【2020年度生以前が履修可】 【2022年度以前の修得単位のみ認定】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10922187 | | 精神保健福祉論【2020年度生以前が履修可】 【2023年度以前の修得単位のみ認定】 | 4 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10932110 | | ジャーナリズム論Ⅰ | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10932111 | | ジャーナリズム論Ⅱ | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10932143 | | メディア心理学Ⅰ | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10932144 | | メディア心理学Ⅱ | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10932106 | | 比較メディア論 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10932147 | | マルチメディア論【2016年度以前の修得単位のみ認定】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10932149 | | 放送論【2021年度以前の修得単位のみ認定】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10952117 | | ジェンダーと教育【2017年度生以前が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 1~ | 10952120 | | ジェンダーと人間形成【2018年度生以降が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | |
| 選択(2) | 心理系 | 2~ | 11700315 | | リスク心理学 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 11700201 | | 生理心理学【2017年度生以前が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 11700211 | | 生理心理学(神経・生理心理学) 【2018年度生~2023年度生が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 11700216 | | 生理心理学(神経・生理心理学Ⅰ)【2024年度生以降が履修可】 | 2 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 選択(3) | 法系 | 1~ | 10307502 | | 国際関係入門 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10307503 | | 日本政治入門 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10307504 | | 政治思想入門【2021年度生以前が履修可】 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10307505 | | 歴史・思想入門【2022年度生以降が履修可】 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10307121 | 001 002 | 法と社会 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10308021 | 002 | 民法概論 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10308061 | 001 002 | 知的財産法概論 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10308061 | 002 | 知的財産法概論 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 選択(3) | *政策系 | 2~ | 10701503 | | 環境政策 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10701510 | | ジェンダー政策 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 1~ | 10702038 | | 社会調査入門 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10702214 | | ジェンダーと福祉 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | 2~ | 10701506 | | 科学技術政策 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| 3~ | 10702257 | | 環境法 | 2 ※1 | | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | |

*政策系科目は2020年度以前に修得した単位のみ認定されます。2021年度以降は履修することができません。

2025年度 サイエンスコミュニケーター養成副専攻認定科目一覧表

年度ごとに認定科目は追加・削除される可能性があります。最新の情報はホームページで確認してください。他学部設置科目の履修条件等については当該学部の履修要項をご確認ください
 <履修可否について>

※1 副専攻履修許可者のみ登録履修が認められる科目。

| 履修体系 | 配当 年次 | 科 目 コード | クラス コード | 科目名 | 単 位 数 | 履 修 可 否 | 卒業必要単位としての算入取り扱い | | | | | | | | |
|-----------------------|-------------|----------------------|-------------------------|-----------------------|--------------------------|------------------|--------------------------|------|---------|------|------|---|------|------|------|
| | | | | | | | 医工 | 医情報 | 医生命システム | | | | | | |
| コミュニケーター関連科目群 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 選 択 (4) | 経 済 系 | 1~ | 10403001 | 001 | 経済理論入門【2020年度生以降が履修可】 | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | |
| | | | | 002 | | | | | | | | | | | |
| | | | | 003 | | | | | | | | | | | |
| | | 1~ | 10407001 | 経済学概説【2019年度生以前が履修可】 | | | | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | |
| | | | | 1~ | 10403002 | 001 | 日本経済入門【2020年度生以降が履修可】 | | | | | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | | | | | 002 | | | | | | | | | |
| | | 003 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 1~ | 10407002 | 日本経済入門【2019年度生以前が履修可】 | | | | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | |
| | | | | 1~ | 10403003 | 001 | 経済学の歴史【2020年度生以降が履修可】 | | | | | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | | | | | 002 | | | | | | | | | |
| | | 003 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 1~ | 10407003 | 経済学の歴史【2019年度生以前が履修可】 | | | | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | |
| | | | | 1~ | 10403004 | 501 | IT基礎論Ⅰ【2020年度生以降が履修可】 | | | | | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | | | | | 502 | | | | | | | | | |
| | | 501 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 1~ | 10407004 | IT基礎論Ⅰ【2019年度生以前が履修可】 | | | | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | |
| | | | | 1~ | 10403051 | 001 | 初級ミクロ経済学Ⅰ【2020年度生以降が履修可】 | | | | | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 |
| | | | | | | 002 | | | | | | | | | |
| | | 003 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2~ | 10403052 | 004 | 初級ミクロ経済学Ⅱ【2020年度生以降が履修可】 | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | |
| | | | | 001 | | | | | | | | | | | |
| | | | | 002 | | | | | | | | | | | |
| | | 2~ | 10407051 | 003 | 初級ミクロ経済学【2019年度生以前が履修可】 | 4 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | |
| | | | | 004 | | | | | | | | | | | |
| | | | | 001 | | | | | | | | | | | |
| | | 1~ | 10403053 | 002 | 初級マクロ経済学Ⅰ【2020年度生以降が履修可】 | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | |
| | | | | 003 | | | | | | | | | | | |
| | | | | 004 | | | | | | | | | | | |
| | | 2~ | 10403054 | 001 | 初級マクロ経済学Ⅱ【2020年度生以降が履修可】 | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | |
| | | | | 002 | | | | | | | | | | | |
| 003 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2~ | 10407052 | 004 | 初級マクロ経済学【2019年度生以前が履修可】 | 4 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | | | |
| | | 001 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 002 | | | | | | | | | | | | | |
| 1~ | 10403057 | 001 | 統計Ⅰ【2020年度生以降が履修可】 | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | | | |
| | | 002 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 003 | | | | | | | | | | | | | |
| 2~ | 10403058 | 004 | 統計Ⅰ【経済学部2020年度生以降が履修可】 | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | | | |
| | | 001 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 002 | | | | | | | | | | | | | |
| 2~ | 10407054 | 003 | 統計Ⅱ【2020年度生以降が履修可】 | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | | | |
| | | 004 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 001 | | | | | | | | | | | | | |
| 2~ | 10407054 | 002 | 統計Ⅱ【経済学部2020年度生以降が履修可】 | 4 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | | | |
| | | 001 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 002 | | | | | | | | | | | | | |
| 1~ | 10403059 | 001 | 経済史【2020年度生以降が履修可】 | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | | | |
| | | 002 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 003 | | | | | | | | | | | | | |
| 2~ | 10407055 | 004 | 経済史【2019年度生以前が履修可】 | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | | | |
| | | 001 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 002 | | | | | | | | | | | | | |
| 2~ | 10403060 | 001 | 環境と資源の基礎【2020年度生以降が履修可】 | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | | | |
| | | 002 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 003 | | | | | | | | | | | | | |
| 2~ | 10407056 | 004 | 環境と資源【2019年度生以前が履修可】 | 4 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | | | |
| | | 001 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 002 | | | | | | | | | | | | | |
| 1~ | 10403061 | 501 | IT基礎論2【2020年度生以降が履修可】 | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | | | |
| | | 502 | | | | | | | | | | | | | |
| 2~ | 10407057 | 501 | IT基礎論2【2019年度生以前が履修可】 | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | | | |
| | | 502 | | | | | | | | | | | | | |
| 1~ | 10403802 | 科学と技術【2020年度生以降が履修可】 | | | | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | |
| 1~ | 10407802 | 科学と技術【2019年度生以前が履修可】 | | | | 2 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | B群Ⅲ類 | | | | | | |

05 各種手続・その他注意事項について

ここでは、学籍・学費・学業履修に関する手続、規定事項などについて記載します。年度ごとに発生する変更等については、大学ホームページおよび生命医科学部ホームページを通じてお知らせします。

■授業時間・試験時間

授業時間、試験時間については以下のとおりです。ただし、学年暦で定める各学期期末試験期間中以外に実施される試験の実施時間については各科目担当教員の指示に従って受験してください。

授業時間

| | |
|------|-------------|
| 1 講時 | 9:00~10:30 |
| 2 講時 | 10:45~12:15 |
| 3 講時 | 13:10~14:40 |
| 4 講時 | 14:55~16:25 |
| 5 講時 | 16:40~18:10 |
| 6 講時 | 18:25~19:55 |
| 7 講時 | 20:10~21:40 |

試験時間

| | |
|------|-------------|
| 1 講時 | 9:20~10:30 |
| 2 講時 | 11:00~12:10 |
| 3 講時 | 13:25~14:35 |
| 4 講時 | 15:05~16:15 |
| 5 講時 | 16:45~17:55 |
| 6 講時 | 18:25~19:35 |
| 7 講時 | 20:05~21:15 |

■身上変更について

在学期間中に住所（本人、父母等両方を含む）、姓名、保証人に変更が生じた場合、至急以下のとおり変更手続を行ってください。

| 変更事由 | 手続方法 |
|----------------|------------------------------------|
| 本人の現住所・電話番号の変更 | DUE T上の「住所変更」にて修正 |
| 父母等住所・電話番号の変更 | 京田辺キャンパス教務センターに「住所変更届」を提出 |
| 姓名の変更 | 京田辺キャンパス教務センターに戸籍抄本とともに「改姓（名）届」を提出 |
| 保証人の変更 | 京田辺キャンパス教務センターに「保証人変更届」を提出 |

■在学年限および休学可能期間について

在学年限とは、本学に在学できる最大の期間を指し、下表のとおり、この年限を超えて在学することはできません。なお、休学した期間（退学および除籍を含む）は在学期間に算入しません。また、休学できる期間は下表のとおり定められています。

| 課程 | 在学年限 | 休学可能期間（通算） |
|----|------|------------|
| 学部 | 8年 | 4年 |

■休学・退学について

疾病その他やむを得ない事由により休学、退学を希望する場合、定められた期間までに京田辺キャンパス教務センターに「休学願」、「退学願」（各願の様式は京田辺キャンパス教務センターにて配付）を提出する必要があります。各願の提出後、生命医科学部教授会の議を経て正式に休学、退学が承認されます。休学期間は1年または半年とし、春学期時に休学を申請する場合のみ1年間の休学を申請することができます。申請にあたり不明な点がある場合は必ず余裕をもって事前に京田辺キャンパス教務センターまで問い合わせてください。

| 願の種類 | 提出締切 |
|------|-------------|
| 休学願 | 各学期の講義開始日まで |
| 退学願 | 各学期終了日まで |

■卒業見込について

4年次春学期の科目登録期間において、卒業に必要な科目をすべて登録することで「卒業見込」の状態となり、大学院入試、就職活動などで必要となる「卒業見込証明書」が発行できるようになります。

春学期時に卒業見込証明書が必要な場合は必ず春学期登録期間に「卒業見込」状態となるよう1年間の科目登録を行ってください。

■学費について

学費については、大学から郵送する振込依頼書を使用し、指定の期日までに納入を行ってください。延納・分納を希望する場合は所定の期間内に学生生活課にて申請手続を行ってください。

各学期の学費納付書の送付予定は次のとおりです。

■春学期用（年額用を含む）：4月中旬

■秋学期用：10月中旬

休学申請を行った場合、別途休学在籍料納入用の振込依頼書を後日送付しますので、上記期間に送付される通常の振込依頼書は使用しないでください。

■各種証明書について

就職活動や留学などで各種証明書が必要となる場合、京田辺キャンパス教務センターに設置されている証明書自動発行機より出力することができます。発行可能な証明書は次頁の表のとおりです。また、発行可能時間は時期により異なりますので注意してください。

| 証明書の種類 | 発行について |
|------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 在学証明書、成績証明書(※)、卒業見込証明書(※)、 教育職員免許状単位習得見込証明書 | 和文：1通 100円 |
| | 英文：1通 300円 |
| 健康診断証明書(※) (4年次生以上のみ。3年次生以下は保健センターにて申請すること) | 春学期登録期間中に実施される定期健康診断を受診していることが必要 |
| 学割証(※) | 年度内10枚が上限。就職活動などで10枚以上必要となる場合は教務センターに相談すること |

(※) がついた証明書については大阪サテライト・キャンパス、東京サテライト・キャンパスで発行可能です。

■学生への連絡について

科目登録や授業に関する連絡について、学部掲示板(知真館2号館2階、医心館グランドフロア)、大学から交付したメールアドレス、学修支援システムDUE Tを通じて連絡することがあります。大切な連絡を見落とすことのないよう、登校時には掲示板、DUE Tやメールは定期的に確認してください。

■各種窓口について

学生生活上、不明な点が生じた場合は各事務室窓口まで問い合わせてください。以下に一例を示しますので参考にしてください。

| 相談内容 | 取扱窓口 |
|-------------------------|----------------|
| 科目履修、休学・退学、証明書、成績に関すること | 京田辺キャンパス教務センター |
| 留学に関すること | 国際センター国際課(京田辺) |
| 学費延納・分納、奨学金に関すること | 京田辺校地学生生活課 |

■欠席届について

同志社大学において公欠制度はありません。病気や課外活動などで授業を欠席する場合に休んだ事由を証明できるもの(医師の診断書、大会の実施要領などのコピー)とともに、京田辺キャンパス教務センターにある欠席届に欠席した事由を記入の上、欠席した授業科目の担当者に各自で提出してください。

※教職免許取得のための各種実習に係る欠席届については別途免許資格課程センターの指示を受けてください。

■休講・補講について

休講情報については学修支援システムDUE Tから確認できます。授業実施当日に急遽休講となる場合もありますので定期的に確認してください。

授業休講に伴う補講については各科目担当者の指示に従い受講してください。

06 各学科カリキュラムについて

医工学科 P26

医情報学科 P31

医生命システム学科 . . . P37

医工学科

Department of Biomedical Engineering

■教育研究の目的

機械工学と医学の融合領域におけるヒトのための先端工学技術の理解と習得を目的とする。

具体的には、ヒトの動作補助を行う医用ロボット、医療・福祉機器、再生組織材料、信頼性のある生体・環境適合材料などの学問分野への理解を深めると同時にこれらの応用技術についても学ぶ。本学科で取得できる学位は、学士（工学）である。

■人材養成の指針

医工学科は、ヒトを生体システムとして捉え、機械工学と医学の融合領域において、再生医療、バイオメカニクス、バイオマテリアル、及びバイオリボティクスの分野について、講義と実験実習をとおして、問題設定能力と問題解決能力を身に付けて、民間企業や官民の研究機関、教育機関等において活躍する人材を養成することを目的とする。

■ディプロマポリシー

学力の三要素/領域：下記の資質・能力を備えた学生に学士（工学）の学位を授与する。

【知識・技能】

- ・人が豊かに暮らせる社会の実現のために解決すべき課題を、機械工学と医学を融合した知見から理解し、習得した知識と技術により解決できる。

【思考力・判断力・表現力】

- ・人が豊かに暮らせる社会の実現のために解決すべき課題を積極的に発見し、機械工学と医学を融合した知識と技術を適切に運用することによって、解決する方法を見出すことができる。

【主体性・多様性・協働性】

- ・人が豊かに暮らせる社会の実現に向け、グローバル社会に生きる人々の価値観や文化の多様性を尊重し、機械工学と医学を融合した知識と技術により、社会に貢献できる。

■カリキュラムポリシー

- ・ディプロマポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。
- ・工学と医学の融合領域である医工学の知識と技術を身につけ、人が豊かに暮らせる社会の実現に貢献できる人物を育成するために、必修科目および選択科目 A 群、B 群、C 群および自由科目によって構成されるカリキュラムを設置する。
- ・選択科目 A 群には I-1 類、I-2 類、II-1 類、II-2 類、B 群には I～III 類を設置する。
- ・選択科目 C 群は、教職に必要な免許関連科目を習得することを到達目標とする。
- ・選択科目 A～C 群から 74 単位以上を履修する。
- ・必修科目は、高校で学習した知識をもとに、工学と医学の基礎的な知識・技能とその応用を身につける科目と、技術者として広く活躍できるように身につけるべき知識・態度を養う科目からなり、1 年次から 3 年次にかけて講義ならびに実験・実習科目 50 単位と 4 年次に卒業論文 4 単位を履修する。
- ・選択科目 A 群 I-1 類は、高大連携科目に続き、工学分野における基礎専門知識、基礎技能を習得することを到達目標とし、1 年次から 4 年次にかけて 12 単位以上履修する。
- ・選択科目 A 群 I-2 類は、医工学の各分野における専門知識、技能を習得することを到達目標とし、2 年次から 4 年次にかけて 14 単位以上履修する。

- ・選択科目 A 群Ⅱ-Ⅰ 類は、生命医学の分野における知識を習得し、人が豊かに暮らせる社会の実現のために解決すべき課題を積極的に発見することができるようになることを到達目標とし、1 年次から 4 年次にかけて 8 単位以上履修する。なお、海外での企業体験が可能な科目も選択可能である。
- ・選択科目 A 群Ⅱ-2 類は、医学・生命科学の各分野における知識を習得し、工学と医学を融合した知識と技術を適切に運用することによって解決する方法を見出すことができるようになることを到達目標とし、3 年次から 4 年次にかけて A 群Ⅱ-Ⅰ 類と合わせて 16 単位以上履修する。
- ・選択科目 B 群は、1 年次以降 20 単位以上を選択履修する。そのうち、Ⅰ類から、英語の実践的な運用能力を習得することを到達目標とし、1 年次以降、少人数クラスの英語演習科目 8 単位以上を、Ⅱ類から、フランス語もしくはドイツ語の基礎的運用能力を習得することを到達目標とし、1 年次以降、少人数クラスの初修フランス語もしくはドイツ語演習科目 4 単位以上を履修する。
- ・選択科目 B 群Ⅲ類から、幅広いリベラルアーツや建学の精神などを習得することを到達目標とし、1 年次以降 8 単位以上を履修する。
- ・必修科目における卒業論文では、これまでに獲得した知識と技術を基盤として、課題を主体的に解決する能力を身につけることを到達目標とし、卒業研究に取り組み、研究成果のプレゼンテーションを行う。

■カリキュラムの特徴

【必修科目】

微分積分学、代数学、材料力学、材料工学、制御工学など工学系の科目と、医学概論、生化学、生理学など医学系の科目をバランス良く配置し、さらに医学と工学の関係や工学技術の医学への応用などを教授する医工学概論、医工学の基礎を幅広く学ぶ医工学基礎実験などを必修科目として設置している。

【選択科目 A 群】

医工学に関連する多数の応用科目群を配置し、基礎科目群の履修で涵養された基礎力をベースとして、学生が指向するさまざまな医工学分野への将来展開へ向けた準備を行う。なお、A 群には他学科の科目も多数設置し、生命医科学全般の専門知識も深めることが可能である。

【選択科目 B 群】

英語 8 単位、ドイツ語又はフランス語 4 単位に加え、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目を設置している。

【選択科目 C 群】

卒業要件単位としても算入可能な教職免許関係の科目を配置している。

医工学科

| 卒業要件 | 必修科目 | 選択科目 | | | | | | | 合計 | |
|------|------|------|------|-------|-------|----|-----|------|-----|----|
| | | A群 | | | | B群 | | | | C群 |
| | | I類 | | II類 | | I類 | II類 | III類 | | |
| | | AI-1 | AI-2 | AII-1 | AII-2 | | | | | |
| 54 | | 12 | 14 | 8 | | 8 | 4 | 8 | 128 | |
| | | 26 | | 16 | | | 20 | | | |
| | | 42 | | | | 74 | | | | |

| 必修科目 | 単位 |
|---------------|----|
| 微分積分学 I | 2 |
| 微分積分学 II | 2 |
| 代数学 I | 2 |
| 代数学 II | 2 |
| 化学 | 2 |
| 生物学 | 2 |
| 物理学基礎 | 2 |
| 力学 | 2 |
| 生命医科学概論 | 2 |
| 製図学基礎 | 2 |
| コンピュータプログラミング | 2 |
| 医工・医情報学概論 | 2 |
| 材料力学 I | 2 |
| 物理学 I | 2 |
| 人体の構造と機能 I | 2 |
| 材料力学 II | 2 |
| 応用数理解 I | 2 |
| 医工学基礎実験 | 2 |
| 医用設計工学実習 I | 2 |
| 材料工学 I | 2 |
| 生化学 | 2 |
| 制御工学 I | 2 |
| 制御工学 II | 2 |
| 医工学応用実験 | 2 |
| 医用設計工学実習 II | 2 |
| 卒業論文 I | 2 |
| 卒業論文 II | 2 |

| 選択科目 | 単位 |
|---------------------|----|
| 選択科目 A群 I類-1 | |
| 数学基礎 | 2 |
| 応用数理解 II | 2 |
| 物理学 II | 2 |
| コンピュータ演習 | 2 |
| 電気回路・電子回路 | 2 |
| 電磁気学 | 2 |
| 計測工学 | 2 |
| 医用機械設計法 | 2 |
| 基礎数理統計学 | 2 |
| 応用数理統計学 | 2 |
| 材料工学 II | 2 |
| 熱力学 | 2 |

| 選択科目 A群 I類-2 | 単位 |
|--------------|----|
| 材料力学演習 I | 2 |
| 材料力学演習 II | 2 |
| 流体力学 | 2 |
| バイオマテリアル | 2 |
| バイオメカニクス | 2 |
| 医用ロボット | 2 |
| メカトロニクス | 2 |
| BioMEMS | 2 |
| 再生医科学 | 2 |
| 外科学概論(病態生理学) | 2 |
| 臨床解剖学概論 | 2 |

| 選択科目 A群 II類-1 | 単位 |
|---------------|----|
| スポーツ運動学 | 2 |
| 公衆衛生学 | 2 |
| ケア倫理学 | 2 |
| スポーツ・バイオメカニクス | 2 |
| リハビリテーション医学 | 2 |
| 人体の構造と機能 II | 2 |
| 臨床医学概論 | 2 |

| 選択科目 | 単位 |
|----------------------|----|
| 選択科目 A群 II類-1 | |
| 内科学概論 | 2 |
| 特別講義 | 2 |

| 選択科目 A群 II類-2 | 単位 |
|---------------|----|
| 放射線科学 | 2 |
| 超音波エレクトロニクス | 2 |
| 医用情報処理 | 2 |
| 医用画像工学 | 2 |
| バイオインフォマティクス | 2 |
| 生物情報 | 2 |
| アンチエイジング | 2 |
| 機能性食品医学 | 2 |
| 神経科学 | 2 |
| 脳神経機構学 | 2 |
| ストレス適応科学 | 2 |
| バイオマーカー解析学 | 2 |
| 解析力学 | 2 |
| 統計力学 | 2 |
| 複素解析 | 2 |

| 選択科目 B群 I類 | 単位 |
|-------------|----|
| 全学共通教養教育科目 | |
| 外国語教育科目(英語) | |

| 選択科目 B群 II類 | 単位 |
|----------------|----|
| 全学共通教養教育科目 | |
| 外国語教育科目(ドイツ語) | |
| 外国語教育科目(フランス語) | |

| 選択科目 B群 III類 | 単位 |
|-----------------------------|----|
| 日本の憲法 | 2 |
| 教職概論 | 2 |
| 教育原理 | 2 |
| 発達と学習の心理学 | 2 |
| 教育制度と学校経営 | 2 |
| 学校教育社会学 | 2 |
| 人権教育論 | 2 |
| 教育課程論 | 2 |
| 道徳教育の理論と実践 | 2 |
| 特別活動と総合的な学習の時間の指導法 | 2 |
| 教育方法とICT活用の理論と実践(2022年度生以降) | 2 |
| 生徒・進路指導の理論と方法 | 2 |
| 教育相談の理論と方法 | 2 |
| 全学共通教養教育科目 | |
| 同志社科目 | |
| 人文科学系科目 | |
| 社会科学系科目 | |
| 自然科学系科目 | |
| 人間科学系科目 | |
| 国際教養科目 | |
| 外国語教育科目 | |
| ライフデザイン科目 | |
| クリエイティブ・ジャパン科目 | |
| 他学部設置科目 | |
| 同志社女子大単位互換科目 | |
| 大学コンソーシアム単位互換科目 | |
| チュービンゲン大学 I E S 科目 | |

| 選択科目 | 単位 |
|------------------|----|
| 選択科目 C群 | |
| 計算機代数 | 2 |
| 幾何学 I | 2 |
| 幾何学 II | 2 |
| 応用微分方程式 | 2 |
| 代数学 III | 2 |
| ベクトル解析 | 2 |
| 集合と位相 | 2 |
| 代数構造 (2022年度生以降) | 2 |

| 自由科目 | 単位 |
|------------------|----|
| 教科教育法 A1(数学) | 2 |
| 教科教育法 A2(数学) | 2 |
| 教科教育法 B(数学) | 1 |
| 教科教育法 C(数学) | 3 |
| 教科教育法 A1(理科) | 2 |
| 教科教育法 A2(理科) | 2 |
| 教科教育法 B(理科) | 2 |
| 教科教育法 C(理科) | 2 |
| 教職実践演習(中・高) | 2 |
| 教育実習指導 | 2 |
| 教育実習 A | 2 |
| 教育実習 B | 2 |
| 教育実習 C | 2 |
| 地学概論 I | 1 |
| 地学概論 II | 2 |
| 地学実験 | 2 |
| 化学実験 | 4 |
| 特別ニーズ教育論 | 2 |
| スクールインターンシップ | 2 |
| 学校図書館サービス論 | 2 |
| 特別講義アドバンス | 2 |
| 医生命基礎実験 | 2 |
| ニューロサイエンス入門1 | 2 |
| ニューロサイエンス入門2 | 2 |
| 科学技術概論 I | 2 |
| 科学技術概論 II | 2 |
| アウトリーチ実習 | 2 |
| サイエンスライティング | 2 |
| サイエンスとインテリジェンス | 2 |
| サイエンス・ナウ1 | 2 |
| サイエンス・ナウ2 | 2 |
| サイエンス・ナウ3 | 2 |
| サイエンス・ナウ4 | 2 |
| サイエンス・ナウ5 | 2 |
| サイエンス・ナウ6 | 2 |
| サイエンス・ナウ7 | 2 |
| サイエンス・ナウ8 | 2 |
| ビジネスワークショップ | 2 |
| メディカルワークショップ | 2 |
| 取材・インタビュー実践講座 | 2 |
| 未知型探索ビジネスワークショップ | 2 |

※上記掲載科目については2021年度生以前対象科目が一部非掲載である。詳細は京田辺キャンパス教務センターまたはDUETにて確認のこと。

1. 卒業・進級要件および卒業論文 I、II の履修について

【卒業要件】

必修科目 54 単位、選択科目 74 単位以上、合計 128 単位以上履修すること。

選択科目については、A群全体から 42 単位以上（A群 I 類から 26 単位（A群 I 類-1 から 12 単位、I 類-2 から 14 単位を含む）、A群 II 類から 16 単位以上（A群 II 類-1 から 8 単位を含む）、B群およびC群から 20 単位以上（B群 I 類から 8 単位、B群 II 類から 4 単位、B群 III 類から 8 単位を含む）を履修すること。

【進級要件】

卒業論文の指導は、次の①、②の要件をともに満たしている者に対して行います。4 年次に卒業論文を登録する予定の方は、春学期の登録時点で進級要件を満たすよう科目登録してください。

①3年以上修学し（休学期間は含まない）、前頁卒業必要単位のうち102単位以上を修得した者。

②第3年次までの必修科目および選択科目 A群 I 類-1 を合わせて56単位以上を修得した者。

（ただし、ここで算入できる A群 I 類-1 の単位数は 12 単位までとします）

※休学をした場合、休学期間が半年であっても、半年延長の 9 月卒業（4.5 年での卒業）はカリキュラム上不可となるので注意すること。卒業論文 I は春学期、卒業論文 II は秋学期にしか開講されません。

【卒業論文 I、II 履修上の注意】

卒業論文 I・II は、研究室配属で決定している教員のクラスを履修すること。

2. B群 I 類（外国語教育科目 英語）の履修について

<英語> B群 I 類（英語）は、必ず以下の科目より 8 単位を完修すること。

Basic English (LS/RW) I・2

Core English (LS/RW) - Pre-Intermediate I・2

Core English (LS/RW) - Intermediate I・2

General Academic English (LS/RW) - Pre-Intermediate

General Academic English (LS/RW) - Intermediate

Intensive Advanced English I・2

English for Professional Purposes I・2

※入学前および在学中に TOEIC® Listening & Reading Test、TOEFL iBT®テストなどにより一定の水準以上の成果を修めた場合に、申請により B群 I 類の単位として認定します（詳細は『登録要領』を参照してください）。ただし、必ず上記科目から 8 単位を完修する必要があります。

3. B群 II 類（外国語教育科目 ドイツ語またはフランス語）の履修について

B群 II 類の4単位には、選択した語部に応じて以下の各科目を必ず含んでいなければなりません。

<ドイツ語> ドイツ語入門 I・II またはドイツ語インテンシヴ I・II

<フランス語> フランス語入門 I・II またはフランス語インテンシヴ I・II

※帰国生等、既に一定の語学能力を有していると認められる者については、この限りではない。卒業要件の詳細については教務センター（生命医科学部）窓口で確認すること。

※外国人留学生在が日本語・日本文化教育科目の「日本語 I（読解 A VI）～I（文法 IX）」、「日本語 2（読解 A VI）～2（文法 IX）」、「ビジネス日本語 C、D」の科目を登録履修した場合は B群 II 類に算入し、4 単位以上履修した場合はドイツ語またはフランス語入門 I・II を履修したものとみなします。

4. B群 III 類（外国語教育科目 英・独・仏以外）の履修について

外国語教育科目のうち、英語、ドイツ語、フランス語以外の外国語科目を登録履修した場合は、B群 III 類に算入されます。

医情報学科

Department of Biomedical Sciences and Informatics

■教育研究の目的

情報やエレクトロニクスの工学技術と医学の融合領域における先端技術の理解と習得を目的とする。具体的には、ヒトの脳内における情報処理メカニズムの解明や高度な生体情報計測技術を学び、さらに、生体システム機能の医用機器への応用や生体情報を用いた様々な医用機器などへの理解を深める。本学科で取得できる学位は、学士(工学)である。

■人材養成の指針

医情報学科は、生体情報の取得・制御に関する知識や技能と、生体情報処理機構を次世代高度情報システムの構築へと展開できる応用力について、幅広いリベラルアーツと自然科学基礎、電子・情報工学、生体情報、脳科学に関する講義や演習、実験、卒業研究をとおして、自発的に問題発見・解決を行い、それを伝えることのできる創造力を身に付けて、企業や研究所等において活躍する人材を養成することを目的とする。

■ディプロマポリシー

学力の三要素/領域：下記の資質・能力を備えた学生に学士(工学)の学位を授与する。

【知識・技能】

- ・生体情報の取得・制御と、生体情報処理機構の情報システム構築への展開に関する知識を理解できる。
- ・ヒトを主体とする情報利用に関する技術を身につけて応用することができる。

【思考力・判断力・表現力】

- ・人が豊かに暮らせる社会の実現のために解決すべき課題に対して、情報理工学と生命医科学を融合した知識と技術による解決方法を見出し、その課題や解決方法を伝えることができる。

【主体性・多様性・協働性】

- ・社会に貢献するため、医学・工学分野の情報利用に対する課題を見つけ、その解決に向けて自発的に行動できる。

■カリキュラムポリシー

- ・ディプロマポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。
- ・生体情報の取得・制御と、生体情報処理機構の情報システム構築への展開に関する諸問題の解決に貢献できる人物を育成するために、必修科目および選択科目A～C群によって構成されるカリキュラムを設置する。
- ・必修科目は、講義ならびに実験・演習科目50単位と4年次に卒業論文4単位を履修する。選択科目A群は、I類とII類を設置し、I類にはIaとIb、および2、II類には1と2を設置する。
- ・選択科目B群は、I類、II類とIII類を設置する。
- ・選択科目C群は、教職に必要な免許関連科目等を設置する。
- ・必修科目の講義科目では、生体情報の取得・制御と、生体情報処理機構の情報システム構築への展開に関する基礎的知識を習得する。
- ・必修科目の実験・演習科目では、生体情報の取得・制御と、生体情報処理機構の情報システム構築への展開に関する基礎的知識や技能を習得するとともに、グループワークを行い、与えられたテーマを遂行する。発表会ではグループによる発表が求められる。
- ・必修科目の実験科目では、実験の遂行後にレポートの作成・提出が、かつ発表会での発表が求められる。

- ・選択科目A群は、生体情報の取得・制御と、生体情報処理機構の情報システム構築への展開に関する専門的知識や技能を習得する。なお、I-1aと1bは基幹科目であり、選択必修である。また、I-2は自学科設置科目、II-1は主に他学科主設置科目、II-2は他学部主設置科目となっており、学生が求められた単位数に従い自主的に選択する。
- ・選択科目B群では、I類で英語の実践的な運用能力を習得し（8単位以上）、II類でフランス語もしくはドイツ語の基礎的運用能力を習得する（4単位以上）。また、III類では、幅広いリベラルアーツや建学の精神などを習得する（8単位以上）。
- ・必修科目における卒業論文では、研究室に属して、与えられた問題を自発的に行動して解決方法を見出す。また、与えられたテーマに対し、報告会での経過発表を行うとともに、卒業論文の提出と卒論発表会での発表が要求される。

■カリキュラムの特徴

【必修科目】

電気回路、電子回路、基礎電子情報演習などのエレクトロニクス関連の工学科目と、プログラミング、知覚システム論、情報処理工学などの情報工学系の科目ならびに医学概論、生化学、生理学など医学系の科目をバランス良く配置しており、さらに、医学と工学の相互関連を学ぶ医工学概論、基礎医学とエレクトロニクスや情報工学技術の基礎を総合的に体験する物理科学実験を必修科目として設置している。

【選択科目A群】

医情報に関連する多数の応用科目群を配置し、基礎科目群の履修で涵養された基礎力をベースとして、学生が指向するさまざまな医情報分野への将来展開へ向けた準備を行う。なお、A群II類には他学科の科目も多数設置し生命医科学全般の専門知識を深めることが可能である。

【選択科目B群】

英語8単位、ドイツ語又はフランス語4単位に加え、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目を設置している。

【選択科目C群】

卒業要件単位としても算入可能な教職免許関係の科目を配置している。

医情報学科

| 卒業要件 | 必修科目 | 選択科目 | | | | | | | | 合計 |
|------|------|-------|-------|------|-------|----|-----|------|-------|-----|
| | | A群 | | | | B群 | | | C群 | |
| | | I類 | | II類 | | I類 | II類 | III類 | | |
| | | AI-Ia | AI-Ib | AI-2 | AII-1 | | | | AII-2 | |
| 54 | | 12 | 2 | | 8 | | 8 | 4 | 8 | 128 |
| | | 26 | | | | | | | | |
| | | 42 | | | | 20 | | | | |
| | | 74 | | | | | | | | |

| 必修科目 | 単位 |
|-------------|----|
| 微積分学Ⅰ | 2 |
| 微積分学Ⅱ | 2 |
| 線形代数学Ⅰ | 2 |
| 生物学 | 2 |
| 物理学実験Ⅰ | 2 |
| 物理学基礎 | 2 |
| 生命医学概論 | 2 |
| 医工・医情報学概論 | 2 |
| 化学 | 2 |
| 知覚情報システム論 | 2 |
| エレクトロニクスⅠ | 4 |
| 物理学実験Ⅱ | 2 |
| エレクトロニクスⅡ | 4 |
| 情報処理工学 | 2 |
| 物理学Ⅰ | 2 |
| 医情報応用実験Ⅰ | 2 |
| 医情報応用実験Ⅱ | 2 |
| 生化学 | 2 |
| フーリエ・ラプラス解析 | 2 |
| プログラミングⅠ | 4 |
| 人体の構造と機能Ⅰ | 2 |
| 医情報応用実験Ⅲ | 2 |
| 卒業論文Ⅰ | 2 |
| 卒業論文Ⅱ | 2 |

| 選択科目 | 単位 |
|--------------------|----|
| 選択科目A群Ⅰ類-Ia | |
| 医用機器概論 | 2 |
| 生物情報概論 | 2 |
| 複素解析 | 2 |
| デジタル信号処理 | 2 |
| 知覚認知 | 2 |
| 計測システム(2022年度生以降) | 2 |
| プログラミングⅡ | 2 |
| 基礎数理統計学 | 2 |
| システム思考(2021年度生以降) | 2 |
| 構造有機化学 | 2 |

| 選択科目A群Ⅰ類-Ib | 単位 |
|-------------|----|
| 医情報応用実験Ⅳ | 2 |
| 特別演習実習A | 2 |
| 特別演習実習B | 4 |

| 選択科目A群Ⅰ類-2 | 単位 |
|--------------|----|
| 線形代数学Ⅱ | 2 |
| 電磁気学 | 2 |
| 電子回路 | 2 |
| 物理学Ⅱ | 2 |
| 応用微分方程式 | 2 |
| 放射線科学 | 2 |
| 医用情報処理 | 2 |
| 特別講義A | 2 |
| 特別講義B | 2 |
| バイオインフォマティクス | 2 |
| 生物情報 | 2 |
| 応用数理統計学 | 2 |
| 超音波エレクトロニクス | 2 |
| プロジェクト実習 | 2 |
| 医用画像工学 | 2 |
| 量子力学 | 2 |
| 分析化学 | 2 |

| 選択科目A群Ⅱ類-I | 単位 |
|---------------|----|
| 公衆衛生学 | 2 |
| スポーツ運動学 | 2 |
| ケア倫理学 | 2 |
| スポーツ・バイオメカニクス | 2 |
| 人体の構造と機能Ⅱ | 2 |
| システム生物学 | 2 |
| 臨床医学概論 | 2 |
| 内科学概論 | 2 |
| 外科学概論(病態生理学) | 2 |
| 再生医科学 | 2 |
| アンチエイジング | 2 |
| 薬理学 | 2 |
| 神経科学 | 2 |

| 選択科目 | 単位 |
|-------------------|----|
| 選択科目A群Ⅱ類-I | |
| リハビリテーション医学 | 2 |
| 臨床解剖学概論 | 2 |
| 神経情報伝達制御学 | 2 |
| 遠伝情報医学(病態生理学) | 2 |
| 脳神経機構学 | 2 |
| 特別講義 | 2 |
| ニューロサイエンス入門Ⅰ | 2 |
| ニューロサイエンス入門Ⅱ | 2 |
| ヒトの知的機能と遺伝要因 | 2 |

| 選択科目A群Ⅱ類-2 | 単位 |
|------------------|----|
| アナログ電子回路 | 2 |
| 画像処理 | 2 |
| バイオメカニクス | 2 |
| メカトロニクス | 2 |
| パターン認識 | 2 |
| バイオマテリアル | 2 |
| BioMEMS | 2 |
| 医用ロボット | 2 |
| コンピュータグラフィックス | 2 |
| 科学技術概論Ⅰ | 2 |
| 科学技術概論Ⅱ | 2 |
| アウトリーチ実習 | 2 |
| サイエンスライティング | 2 |
| サイエンスヒンテリジェンス | 2 |
| サイエンス・ナウⅠ | 2 |
| サイエンス・ナウⅡ | 2 |
| サイエンス・ナウⅢ | 2 |
| サイエンス・ナウⅣ | 2 |
| サイエンス・ナウⅤ | 2 |
| サイエンス・ナウⅥ | 2 |
| サイエンス・ナウⅦ | 2 |
| サイエンス・ナウⅧ | 2 |
| ビジネスワークショップ | 2 |
| メディカルワークショップ | 2 |
| 取材・インタビュー実践講座 | 2 |
| 未知型探索ビジネスワークショップ | 2 |

| 選択科目B群Ⅰ類 | 単位 |
|-------------|----|
| 全学共通教養教育科目 | |
| 外国語教育科目(英語) | |

| 選択科目B群Ⅱ類 | 単位 |
|----------------|----|
| 全学共通教養教育科目 | |
| 外国語教育科目(ドイツ語) | |
| 外国語教育科目(フランス語) | |

| 選択科目B群Ⅲ類 | 単位 |
|-----------------------------|----|
| 日本の憲法 | 2 |
| 教職概論 | 2 |
| 教育原理 | 2 |
| 発達と学習の心理学 | 2 |
| 教育制度と学校経営 | 2 |
| 学校教育社会学 | 2 |
| 人権教育論 | 2 |
| 教育課程論 | 2 |
| 道徳教育の理論と実践 | 2 |
| 特別活動と総合的な学習の時間の指導法 | 2 |
| 教育方法とICT活用の理論と実践(2022年度生以降) | 2 |
| 生徒・進路指導の理論と方法 | 2 |
| 教育相談の理論と方法 | 2 |
| 全学共通教養教育科目 | |
| 同志社科目 | |
| 人文科学系科目 | |
| 社会科学系科目 | |
| 自然科学系科目 | |
| 人間科学系科目 | |
| 国際教養科目 | |
| 外国語教育科目 | |
| ライフデザイン科目 | |
| クリエイティブ・ジャパン科目 | |
| 他学部設置科目 | |
| 同志社女子大単位互換科目 | |
| 大学コンソーシアム単位互換科目 | |
| テュービンゲン大学IES科目 | |

| 選択科目 | 単位 |
|------------------|----|
| 選択科目C群 | |
| 計算機代数 | 2 |
| 幾何学Ⅰ | 2 |
| 幾何学Ⅱ | 2 |
| 代数学Ⅲ | 2 |
| ベクトル解析 | 2 |
| 集合と位相 | 2 |
| 代数構造 (2022年度生以降) | 2 |

| 自由科目 | 単位 |
|-----------------------|----|
| 教科教育法A1(数学) | 2 |
| 教科教育法A2(数学) | 2 |
| 教科教育法B(数学) | 2 |
| 教科教育法C(数学) | 2 |
| 教科教育法A1(理科) | 2 |
| 教科教育法A2(理科) | 2 |
| 教科教育法B(理科) | 2 |
| 教科教育法C(理科) | 2 |
| 教職実践演習(中・高) | 2 |
| 教育実習指導 | 1 |
| 教育実習A | 2 |
| 教育実習B | 2 |
| 教育実習C | 4 |
| 地学概論Ⅰ | 2 |
| 地学概論Ⅱ | 2 |
| 地学実験 | 1 |
| 化学実験 | 3 |
| 特別ニーズ教育論 | 2 |
| スクールインターンシップ | 2 |
| 学校図書館サービス論 | 2 |
| 製図学基礎 | 2 |
| 特別講義アドバンス | 2 |
| 医療情報学 | 2 |
| 生物センシング工学 | 2 |
| 生物物理学 | 2 |
| 自己組織化の科学 | 2 |
| 医用画像システム | 2 |
| 有機合成 | 2 |
| 有機反応Ⅰ | 2 |
| 有機反応Ⅱ | 2 |
| 臨床医学開発 | 2 |
| 神経行動科学 | 2 |
| 応用化学 | 2 |
| 超音波医学 | 2 |
| 生体情報アルゴリズム(2021年度生以降) | 2 |
| バイオメディカルコンピューティング | 2 |
| 生物音響工学 | 2 |
| 超音波計測 | 2 |
| データサイエンス | 2 |
| スポーツ医学の未来 | 2 |

※上記掲載科目については2021年度生以前対象科目が一部非掲載である。詳細は京田辺キャンパス教務センターまたはDUETにて確認のこと。

医
工
学
科

医
情
報
学
科

医
生
命
シ
ス
テ
ム
学
科

(全
学
科
共
通)
B
群
Ⅰ
・
Ⅱ
・
Ⅲ
類

■ 医情報学科での履修上の注意

1. 卒業・進級要件および卒業論文Ⅰ、Ⅱの履修について

【卒業要件】

必修科目54単位、選択科目74単位以上、合計128単位以上履修すること。

選択科目については、A群全体から42単位以上（A群Ⅰ類から26単位（A群Ⅰ類-Ⅰaから12単位、Ⅰ類-Ⅰbから2単位を含む）、A群Ⅱ類-Ⅰから8単位を含む）、B群およびC群から20単位以上（B群Ⅰ類から8単位、B群Ⅱ類から4単位、B群Ⅲ類から8単位を含む）を履修すること。

【進級要件】

卒業論文の指導は、次の①、②の要件をともに満たしている者に対して行います。4年次に卒業論文を登録する予定の方は、春学期の登録時点で進級要件を満たすよう科目登録してください。

①3年以上修学し（休学期間は含まない）、前頁卒業必要単位のうち102単位以上を修得した者。

②第3年次までの必修科目および選択科目A群Ⅰ類-Ⅰaを合わせて56単位以上を修得した者。

（ただし、ここで算入できるA群Ⅰ類-Ⅰaの単位数は12単位までとします）

【卒業論文Ⅰ、Ⅱ 履修上の注意】

卒業論文Ⅰ・Ⅱは、研究室配属で決定している教員のクラスを履修すること。

【卒業論文Ⅰの秋学期開講、卒業論文Ⅱの春学期開講について】

- ・進級必要単位は修得しているが修業年数が不足している場合は、秋学期の卒業論文Ⅰ、次年度春学期の卒業論文Ⅱの履修を認めます。
- ・原則として、卒業論文Ⅱのみを残して卒業しない場合は、次年度春学期の卒業論文Ⅱの履修を認めます。

2. A群Ⅰ類-Ⅰb科目の履修について

A群Ⅰ類-Ⅰbは3科目のうち1科目を必ず履修する必要があります。

- ・医情報応用実験Ⅳ／医情報実験Ⅲ（2）は通常の実験科目
 - ・特別演習実習／特別演習実習Aは飛び入学を行うにあたり履修が必要な科目
 - ・特別演習実習Bは第4年次生の春に研究留学、もしくは語学留学を行うにあたり履修が必要な科目
- 特別演習実習／特別演習実習A／特別演習実習Bの履修に際しては条件があるので注意すること。
（詳細は『登録要領』を参照してください）

3. B群Ⅰ類（外国語教育科目 英語）の履修について

<英語> B群Ⅰ類（英語）は、必ず以下の科目より8単位を完修すること。

Basic English (LS/RW) Ⅰ・2

Core English (LS/RW) - Pre-Intermediate Ⅰ・2

Core English (LS/RW) - Intermediate Ⅰ・2

General Academic English (LS/RW) - Pre-Intermediate

General Academic English (LS/RW) - Intermediate

Intensive Advanced English Ⅰ・2

English for Professional Purposes Ⅰ・2

※入学前および在学中にTOEIC® Listening & Reading Test、TOEFL iBT®テストなどにより一定の水準以上の成果を修めた場合に、申請によりB群Ⅰ類の単位として認定します（詳細は『登録要領』を参照してください）。ただし、必ず上記科目から8単位を完修する必要があります。

4. B群Ⅱ類（外国語教育科目ドイツ語またはフランス語）の履修について

B群Ⅱ類の4単位には、選択した語部に応じて以下の各科目を必ず含んでいなければなりません。

<ドイツ語>

ドイツ語入門Ⅰ・Ⅱまたはドイツ語インテンシヴⅠ・Ⅱ

<フランス語>

フランス語入門Ⅰ・Ⅱまたはフランス語インテンシヴⅠ・Ⅱ

※帰国生等、既に一定の語学能力を有していると認められる者については、この限りではない。卒業要件の詳細については教務センター（生命医科学部）窓口で確認すること。

※外国人留学生在が日本語・日本文化教育科目の「日本語Ⅰ（読解AⅥ）～Ⅰ（文法Ⅸ）」、「日本語2（読解AⅥ）～2（文法Ⅸ）」、「ビジネス日本語C、D」の科目を登録履修した場合はB群Ⅱ類に算入し、4単位以上履修した場合はドイツ語またはフランス語入門Ⅰ・Ⅱを履修したものとみなします。

5. B群Ⅲ類の履修について

外国語教育科目のうち、英語、ドイツ語、フランス語以外の外国語科目を登録履修した場合は、B群Ⅲ類に算入されます。

医生命システム学科

Department of Medical Life Systems

医
工
学
科

医
情
報
学
科

医
生
命
シ
ス
テ
ム
学
科

(全
学
科
共
通)
B
群
I
・
II
・
III
類

■教育研究の目的

生命現象理解の視点から、分子生物学、細胞生物学、解剖学、薬理学、内科学などの幅広い基礎医学の理解と習得を目的とする。また、人体の構造や機能、病気の原因についても学び、これらを通じて、ヒトの健康増進、病気の予防、治療等における医療技術に対する理解を深める。本学科で取得できる学位は、学士（理学）である。

■人材養成の指針

医生命システム学科は、ヒトをひとつの生命システムと捉え、それを維持する生理機構やその破綻による各種疾病の発症機構、さらにはその治療・予防について、生命科学、薬学、基礎医学、臨床医学に関する講義、ならびにこれらと密接に関連した実験実習をとおして、体系的な理解能力と実践的な問題解決能力を身に付けて、生命科学、基礎医学、健康科学の関連分野において活躍する人材を養成することを目的とする。

■ディプロマポリシー

学力の三要素/領域：下記の資質・能力を備えた学生に学士（理学）の学位を授与します。

【知識・技能】

- ①生命医科学に関する本質を、基礎的な生物学、医学の理論に基づいて理解できる（知識・技能）。
- ②生命医科学に関する諸問題を解決するために、実験技術や学術的知識を適切に運用できる（知識・技能）。
- ③生命医科学に関する学際的知識を有する（知識・技能）。
- ④生命科学と工学の融合分野において数学・自然科学の基本原則を十分に理解している（知識・技能）。

【思考力・判断力・表現力】

- ①自らの研究分野で行った実験からの結果とその結果からの考察を整理し、生命医科学者として論理的に表現できる（思考力・判断力・表現力）。
- ②英語を始めとする外国語の習得を通して、異なる文化を理解するとともに、科学者として国際的に通用するコミュニケーション、プレゼンテーションができる（表現力）。

【主体性・多様性・協働性】

- ①医学および生命現象の解明など生命医科学が直面する課題を自主的に発見し、その解決策を獲得した知識をもとに理論的に探求できる（主体性）。
- ②本学の建学の精神である自由主義、キリスト教主義、国際主義に基づき、人文科学や社会科学の教養を身につけ、国際的な視野から幅広く物事を考えることができる（多様性）。
- ③生命科学者としての倫理を熟知し、生命医科学と社会とのつながりを意識できる（協働性）。
- ④生命科学における様々な課題に関心を持ち、他者と協働し問題解決にあたることができる（協働性）。

■カリキュラムポリシー

- ・ディプロマポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます。
- ・生命医科学全般に関する体系的な知識を、学術的・社会的問題解決のために運用し社会に貢献できる人物を育成するために、必修科目および選択科目 A・B 群によって構成されるカリキュラムを設置する。選択科目 A 群には I 類および II 類を、選択科目 B 群には I 類、II 類および III 類を設置する。
- ・また獲得した知識を一般社会に簡明に伝えることができる能力を涵養するために、サイエンスコミュニケーター養成副専攻を設置する。サイエンスリテラシー科目群とコミュニケーター科目群を設置する。

【必修科目】

- 必修科目のうち、生命医科学に関する課題を理解するために必要な医学および生命科学の基礎を習得することを

到達目標とした講義科目を配置し、1年次以降に46単位を履修する。

- 必修科目のうち、生命医科学に関する課題を理解するために必要な実験技術を習得するとともに、他者と協働で行った実験結果を整理・理解し、発表する能力を身につけることを到達目標とした実験授業科目を配置し、1年次以降に6単位を履修する。
- 必修科目のうち、自らの研究テーマを通して主体的に実験をすすめることで、これまでに修得した知識・技能を機能的に結びつかせるとともに、生命医科学に関するより専門的な知識・技術を習得し、生命医科学に関する問題解決をはかる能力を身につけることを到達目標とした卒業論文ⅠとⅡを配置し、4年次において4単位履修する。

【選択科目 A 群】

- 選択科目 A 群のⅠ類では、必修科目で習得した基礎知識の上に、さらに高度な専門知識を習得させる科目群ならびに生命医科学の応用科目群を配置し、幅広い分野に通用する知識を習得することを目標とし、1年次以降に20単位以上を履修する。
- 選択科目 A 群のⅡ類は、生命医科学と工学の融合分野において生命をより広い視点から理解する能力を習得する科目を配置し、1年次から履修する。A 群Ⅰ類と合わせて、A 群として40単位以上を履修する。

【選択科目 B 群】

- 選択科目 B 群は、建学の精神である自由主義、キリスト教主義、国際主義を理解し、人文科学や社会科学の素養を身につけることを到達目標とし、Ⅰ類からⅢ類までの科目を20単位以上履修する。
- 選択科目 B 群のⅠ類では、英語の実践的な活用能力を習得することを到達目標とし、1年次以降に、少人数クラスの講義・演習形式の授業科目を8単位以上履修する。
- 選択科目 B 群のⅡ類では、英語以外の外国語としてドイツ語あるいはフランス語の実践的運用能力を習得することを到達目標とし、1年次以降に、少人数クラスの講義・演習形式の授業科目を4単位以上履修する。
- 選択科目 B 群のⅢ類では、幅広いリベラルアーツや建学の精神などを習得することを到達目標とし、1年次以降8単位以上を履修する。

■カリキュラムの特徴

【必修科目】

解剖学、組織学、細胞生物学、生理学、など人体の構造と機能の基本を学ぶ科目群と、病理学、微生物学、免疫学など疾病のしくみとそれに対応する生体の防御機能を学ぶ科目群、そして、生命現象を解き明かす手法を学ぶ分子生物学、ケミカルバイオロジー、生体物質分析化学などの科目を設置しており、またこれらの科目の理解をより深めるためと実践的な技術を総合的に体験する実験実習を必修科目として設置している。さらに、医学概論、生命科学概論など、医学と生命科学の基本概念を総合的に理解する科目も設置している。

【選択科目 A 群】

必修科目で修得した基礎知識のうえにさらに高度な専門知識を習得させる科目内容となるほか、医学、生命科学の応用科目群を配置し、基礎科目群の履修で涵養された基礎力をベースとして、学生が指向するさまざまな生命医科学分野への将来展開へ向けた準備を行う。

【選択科目 A 群Ⅱ類】

他学科の科目も多数設置し、医工学、医情報に関する専門知識など幅広い知識と応用力を身につけることが可能である。

【選択科目 B 群】

英語8単位、ドイツ語又はフランス語4単位に加え、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目を設置している。

医生命システム学科

| 卒業要件 | 必修科目 | 選択科目 | | | | | 合計 |
|------|------|------|-----|----|-----|------|----|
| | | A群 | | B群 | | | |
| | | I類 | II類 | I類 | II類 | III類 | |
| | | 20 | | 8 | 4 | 8 | |
| 56 | 40 | | 20 | | 128 | | |
| | | 72 | | | | | |

| 必修科目 | 単位 |
|-----------------|----|
| 生命医科学概論 | 2 |
| 生物学 | 2 |
| 化学 | 2 |
| 微生物学 | 2 |
| 細胞生物学 I | 2 |
| 公衆衛生学 | 2 |
| 医生命基礎実験 | 2 |
| 医工・医情報学概論 | 2 |
| 臨床医学概論 | 2 |
| 人体の構造と機能 I | 2 |
| ケミカルバイオロジー | 2 |
| 分子生物学 I | 2 |
| 生体物質分析化学 | 2 |
| システム生物学 | 2 |
| ケア倫理学 | 2 |
| ヒトの病理と防御システム I | 2 |
| ヒトの病理と防御システム II | 2 |
| 生化学 | 2 |
| 物理学基礎 | 2 |
| コンピュータプログラミング | 2 |
| 分子生物学実験 | 2 |
| 人体の構造と機能 II | 2 |
| 人体の構造と機能 III | 2 |
| 人体の構造と機能 実験 | 2 |
| 薬理学 | 2 |
| 基礎数理統計学 | 2 |
| 卒業論文 I | 2 |
| 卒業論文 II | 2 |

| 選択科目 | 単位 |
|-------------------|----|
| 選択科目 A群 I類 | |
| 細胞生物学 II | 2 |
| 分子生物学 II | 2 |
| 内科学概論 | 2 |
| 特別講義 A | 2 |
| 特別講義 B | 2 |
| 分子創薬科学 | 2 |
| バイオマーカー解析学 | 2 |
| アンチエイジング | 2 |
| 機能性食品医学 | 2 |
| 神経科学 | 2 |
| 神経情報伝達制御学 | 2 |
| 脳神経機構学 | 2 |
| ストレス適応科学 | 2 |
| 遺伝情報医学 (病態生理学) | 2 |
| 外科学概論 (病態生理学) | 2 |
| 再生医科学 | 2 |
| 応用生化学 | 2 |
| 創薬化学 | 2 |
| スポーツ医学の未来 | 2 |
| 発生遺伝学概論 | 2 |
| ニューロサイエンス入門 1 | 2 |
| ニューロサイエンス入門 2 | 2 |
| 神経機能学 | 2 |
| 生体データ解析 | 2 |

| 選択科目 | 単位 |
|--------------------|----|
| 選択科目 A群 II類 | |
| 線形代数学 I | 2 |
| 線形代数学 II | 2 |
| 知覚情報システム論 | 2 |
| 数学基礎 | 2 |
| 微分積分学 I | 2 |
| 微分積分学 II | 2 |
| スポーツ運動学 | 2 |
| 生物情報概論 | 2 |
| 電気回路・電子回路 | 2 |
| 医用機器概論 | 2 |
| 計測システム (2022年度生以降) | 2 |
| 電磁気と生命体 | 2 |
| 科学技術概論 I | 2 |
| 科学技術概論 II | 2 |
| アウトリーチ実習 | 2 |
| サイエンスライティング | 2 |
| サイエンスとインテリジェンス | 2 |
| サイエンス・ナウ 1 | 2 |
| サイエンス・ナウ 2 | 2 |
| サイエンス・ナウ 3 | 2 |
| サイエンス・ナウ 4 | 2 |
| サイエンス・ナウ 5 | 2 |
| サイエンス・ナウ 6 | 2 |
| サイエンス・ナウ 7 | 2 |
| サイエンス・ナウ 8 | 2 |
| ビジネスワークショップ | 2 |
| メディカルワークショップ | 2 |
| 取材・インタビュー実践講座 | 2 |
| 未知型探索ビジネスワークショップ | 2 |
| 海外キャリアリサーチ | 2 |
| スポーツ・バイオメカニクス | 2 |
| リハビリテーション医学 | 2 |
| 医用情報処理 | 2 |
| 制御工学 I | 2 |
| バイオマテリアル | 2 |
| バイオメカニクス | 2 |
| BioMEMS | 2 |
| 放射線科学 | 2 |
| バイオフィォマティクス | 2 |
| 生物情報 | 2 |
| 応用数理統計学 | 2 |
| 電磁気学 | 2 |
| 画像処理 | 2 |
| 医用画像工学 | 2 |
| 医用機械設計法 | 2 |
| 流体力学 | 2 |
| 医用ロボット | 2 |
| メカトロニクス | 2 |
| デジタル信号処理 | 2 |
| 知覚認知 | 2 |
| 電子計測 | 2 |
| 超音波エレクトロニクス | 2 |
| 臨床解剖学概論 | 2 |
| 特別講義 | 2 |

| 選択科目 | 単位 |
|-------------------|----|
| 選択科目 B群 I類 | |
| 全学共通教養教育科目 | |
| 外国語教育科目 (英語) | |

| 選択科目 | 単位 |
|--------------------|----|
| 選択科目 B群 II類 | |
| 全学共通教養教育科目 | |
| 外国語教育科目 (ドイツ語) | |
| 外国語教育科目 (フランス語) | |

| 選択科目 | 単位 |
|-----------------------------|----|
| 選択科目 B群 III類 | |
| 日本の憲法 | 2 |
| 教職概論 | 2 |
| 教育原理 | 2 |
| 発達と学習の心理学 | 2 |
| 教育制度と学校経営 | 2 |
| 学校教育社会学 | 2 |
| 人権教育論 | 2 |
| 教育課程論 | 2 |
| 道徳教育の理論と実践 | 2 |
| 特別活動と総合的な学習の時間の指導法 | 2 |
| 教育方法とICT活用の理論と実践(2022年度生以降) | 2 |
| 生徒・進路指導の理論と方法 | 2 |
| 教育相談の理論と方法 | 2 |
| 全学共通教養教育科目 | |
| 同志社科目 | |
| 人文科学系科目 | |
| 社会科学系科目 | |
| 自然科学系科目 | |
| 人間科学系科目 | |
| 国際教養科目 | |
| 外国語教育科目 | |
| ライフデザイン科目 | |
| クリエイティブ・ジャパン科目 | |
| 他学部設置科目 | |
| 同志社女子大単位互換科目 | |
| 大学コンソーシアム単位互換科目 | |
| チュービンゲン大学 I E S 科目 | |

| 自由科目 | 単位 |
|---------------|----|
| 教科教育法 A1 (理科) | 2 |
| 教科教育法 A2 (理科) | 2 |
| 教科教育法 B (理科) | 2 |
| 教科教育法 C (理科) | 2 |
| 教職実践演習 (中・高) | 2 |
| 教育実習指導 | 1 |
| 教育実習 A | 2 |
| 教育実習 B | 2 |
| 教育実習 C | 4 |
| 地学概論 I | 2 |
| 地学概論 II | 2 |
| 地学実験 | 1 |
| 物理実験 | 2 |
| 化学実験 | 3 |
| 特別ニーズ教育論 | 2 |
| スクールインターンシップ | 2 |
| 学校図書館サービス論 | 2 |
| 特別講義アドバンス | 2 |

※上記掲載科目については2021年度生以前対象科目が一部非掲載である。詳細は京田辺キャンパス教務センターまたはDUETにて確認のこと。

医
工
学
科

医
情
報
学
科

医
生
命
シ
ス
テ
ム
学
科

(全
学
科
共
通)
B
群
I
・
II
・
III
類

■ 医生命システム学科での履修上の注意

1. 卒業・進級要件および卒業論文Ⅰ、Ⅱの履修について

【卒業要件】

必修科目 56 単位、選択科目 72 単位以上、合計 128 単位以上を履修すること。

選択科目については、A群Ⅰ類から 20 単位を含めA群から 40 単位以上、B群から 20 単位以上（B群Ⅰ類から 8 単位、B群Ⅱ類から 4 単位、B群Ⅲ類から 8 単位を含む）履修すること。

【進級要件】

卒業論文の指導は、次の①、②の要件をともに満たしている者に対して行います。4 年次に卒業論文を登録する予定の方は、春学期の登録時点で進級要件を満たすよう科目登録してください。

①3年以上修学し（休学期間は含まない）、前頁卒業必要単位のうち112単位以上を修得した者。

②第3年次までの必修科目および選択科目A群Ⅰ類を合わせて58単位以上を修得した者。

（ただし、ここで算入できるA群Ⅰ類の単位数は 10 単位までとします）

【卒業論文Ⅰ、Ⅱ 履修上の注意】

卒業論文Ⅰ・Ⅱは、研究室配属で決定している教員のクラスを履修すること。

【卒業論文Ⅰの秋学期開講、卒業論文Ⅱの春学期開講について】

・進級必要単位は修得しているが修業年数が不足している場合は、秋学期の卒業論文Ⅰ、次年度春学期の卒業論文Ⅱの履修を認めます。

・原則として、卒業論文Ⅱのみを残して卒業しない場合は、次年度春学期の卒業論文Ⅱの履修を認めます。

2. B群Ⅰ類（外国語教育科 英語）の履修について

<英語> B群Ⅰ類（英語）は、必ず以下の科目より 8 単位を完修すること。

Basic English (LS/RW) Ⅰ・Ⅱ

Core English (LS/RW) - Pre-Intermediate Ⅰ・Ⅱ

Core English (LS/RW) - Intermediate Ⅰ・Ⅱ

General Academic English (LS/RW) - Pre-Intermediate

General Academic English (LS/RW) - Intermediate

Intensive Advanced English Ⅰ・Ⅱ

English for Professional Purposes Ⅰ・Ⅱ

※入学前および在学中にTOEIC® Listening & Reading Test、TOEFL iBT®テストなどにより一定の水準以上の成果を修めた場合に、申請によりB群Ⅰ類の単位として認定します（詳細は『登録要領』を参照してください）。ただし、必ず上記科目から8単位を完修する必要があります。

3. B群Ⅱ類（外国語教育科目 ドイツ語またはフランス語）の履修について

B群Ⅱ類の4単位には、選択した語部に応じて以下の各科目を必ず含んでいなければなりません。

<ドイツ語> ドイツ語入門Ⅰ・Ⅱまたはドイツ語インテンシヴⅠ・Ⅱ

<フランス語> フランス語入門Ⅰ・Ⅱまたはフランス語インテンシヴⅠ・Ⅱ

※帰国生等、既に一定の語学能力を有していると認められる者については、この限りではない。卒業要件の詳細については教務センター（生命医科学部）窓口で確認すること。

※外国人留学生在が日本語・日本文化教育科目の「日本語Ⅰ（読解AⅥ）～Ⅰ（文法Ⅸ）」、「日本語2（読解AⅥ）～Ⅱ（文法Ⅸ）」、「ビジネス日本語C、D」の科目を登録履修した場合はB群Ⅱ類に算入し、4単位以上履修した場合はドイツ語またはフランス語入門Ⅰ・Ⅱを履修したものとみなします。

4. B群Ⅲ類（外国語教育科目英・独・仏以外）の履修について

外国語教育科目のうち、英語、ドイツ語、フランス語以外の外国語科目を登録履修した場合は、B群Ⅲ類に算入されます。

選択科目 B 群 設置科目

■ B 群 I 類 (英語科目)

該当する入学年度の『全学共通教養教育科目履修要項』の外国語教育科目・英語科目を参照してください。

【履修上の注意】 必ず以下の科目より8単位を完修すること。

Basic English (LS/RW) I・2

Core English (LS/RW) - Pre-Intermediate I・2

Core English (LS/RW) - Intermediate I・2

General Academic English (LS/RW) - Pre-Intermediate

General Academic English (LS/RW) - Intermediate

Intensive Advanced English I・2

English for Professional Purposes I・2

■ B 群 II 類 (ドイツ語・フランス語)

該当する入学年度の『全学共通教養教育科目履修要項』の外国語教育科目・ドイツ語科目・フランス語科目を参照してください。

【履修上の注意】

ドイツ語・フランス語のいずれかの「入門 I・II」または「インテンシヴ I・II」を必ず含む4単位以上を履修すること。

※帰国生等、既に一定の語学能力を有していると認められる者については、この限りではない。卒業要件の詳細については教務センター（生命医科学部）窓口で確認すること。

■ B 群 III 類

全学共通教養教育科目
同志社女子大単位互換科目
大学コンソーシアム単位互換科目
日本語・日本文化教育科目

該当する入学年度の『全学共通教養教育科目履修要項』、『同志社女子大単位互換ガイドブック』、『大学コンソーシアム単位互換ガイドブック』、『日本語・日本文化教育科目履修の手引き』を参照ください。

他学部設置科目

各学部の履修要項・授業時間割表を参照ください。

教職免許関係科目

該当する入学年度の『免許・資格関係 履修要項』（別冊）及び次ページを参照ください。

免許・資格関係科目 設置科目一覧

| 科目区分 | | 単位 | 履修年次 | 備考 | |
|----------|----------|--------------------|------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| B群Ⅲ類 | 10402643 | 日本の憲法 | 2 | 1～ | |
| | 15010010 | 教職概論 | 2 | 1～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15010020 | 教育原理 | 2 | 1～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15010030 | 発達と学習の心理学 | 2 | 右記参照 | 2018年度以降生対象 履修年次 2019年度以降生 1～ 履修年次 2018年度以前生 2～ |
| | 15010041 | 教育制度と学校経営 | 2 | 2～ | 2019年度以降生対象 |
| | 15010050 | 学校教育社会学 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15010060 | 人権教育論 | 2 | 1～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15010070 | 教育課程論 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15010080 | 道徳教育の理論と実践 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15010091 | 特別活動と総合的な学習の時間の指導法 | 2 | 2～ | 「特別活動論」を未履修かつ未登録であること 「特別活動論」を履修済で、卒業後に大学院生または科目等履修生として一種免許を取得する予定の者は、免許資格関係科目（M登録科目）としてのみ登録できる履修を希望する者は、事前に免許資格課程センター事務室に申し出ること |
| | 15010111 | 教育方法とICT活用の理論と実践 | 2 | 2～ | 2022年度以降生対象 |
| | 15010120 | 生徒・進路指導の理論と方法 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15010141 | 教育相談の理論と方法 | 2 | 3～ | 2019年度以降生対象 |
| | 15010210 | 社会科教育法1 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15010220 | 社会科教育法2 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 2019年度以降生は「社会科教育法1」を過学期に履修済であること |
| | 15010230 | 社会科・地理歴史科教育法 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15010240 | 社会科・公民科教育法 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15010250 | 地理歴史科教育法 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15010260 | 公民科教育法 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 10270407 | 博物館概論 | 2 | 1～ | |
| | 10270408 | 博物館経営論 | 2 | 2～ | |
| | 10270409 | 博物館資料論 | 2 | 2～ | |
| | 10270410 | 博物館情報・メディア論 | 2 | 2～ | |
| | 10270411 | 博物館教育論 | 2 | 1～ | |
| | 10270412 | 博物館資料保存論 | 2 | 2～ | |
| | 10270413 | 博物館展示論 | 2 | 2～ | |
| 10270414 | 博物館実習Ⅰ | 2 | 3～ | | |
| 10270415 | 博物館実習Ⅱ | 1 | 3～ | | |
| 自由科目 | 15010151 | 特別ニーズ教育論 | 2 | 1～ | 2019年度以降生対象 |
| | 15010160 | スクールインターンシップ | 2 | 2～ | 2016年度以降生対象 登録時に「教職概論」を履修済であること スクールインターンシッププログラムガイドに記載の応募条件を満たすこと |
| | 15020010 | 学校教育図書館論 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15020020 | 学校図書館メディアの構成 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15020030 | 学習指導と学校図書館 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15020040 | 読書と豊かな人間性 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15020050 | 情報メディアの活用 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15030010 | 生涯学習概論 | 2 | 1～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15030020 | 図書館情報学概論 | 2 | 1～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15030030 | 図書館制度・経営論 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15030040 | 図書館情報技術論 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15030050 | 図書館情報サービス論Ⅰ | 2 | 1～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15030060 | 図書館情報サービス論Ⅱ | 2 | 1～ | 2018年度以降生対象 「図書館情報サービス論Ⅰ」を過学期に履修済であること |
| | 15030070 | 児童サービス論 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15030080 | 情報サービス演習Ⅰ | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 「図書館情報学概論」を過学期に履修済であること |
| | 15030090 | 情報サービス演習Ⅱ | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 「図書館情報学概論」を過学期に履修済であること |
| | 15030100 | 図書館情報資源概論 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15030110 | 情報資源組織論Ⅰ | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15030120 | 情報資源組織論Ⅱ | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 「情報資源組織論Ⅰ」を過学期に履修済であること |
| | 15030130 | 情報資源組織演習Ⅰ | 2 | 3～ | 2018年度以降生対象 「情報資源組織論Ⅰ」を履修済もしくは同一セメスターに登録していること |
| | 15030140 | 情報資源組織演習Ⅱ | 2 | 3～ | 2018年度以降生対象 「情報資源組織論Ⅱ」を履修済もしくは同一セメスターに登録していること |
| | 15030150 | 図書館情報学特論 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15030160 | 学術情報利用教育論 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15030170 | 図書館情報資源特論 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15030180 | 図書・図書館史 | 2 | 2～ | 2018年度以降生対象 |
| | 15030190 | 図書館演習 | 4 | 3～ | 2018年度以降生対象 以下の4科目を登録時に履修済であること 「図書館情報学概論」、「図書館制度・経営論」 「図書館情報サービス論Ⅰ」、「図書館情報サービス論Ⅱ」 |
| | 15040010 | 学校図書館サービス論 | 2 | 2～ | |

上記掲載科目については、2021年度以前対象科目が非掲載である。詳細は京田辺キャンパス教務センター(生命医科学部)またはDUETにて確認のこと。

医
工
学
科

医
情
報
学
科

医
生
命
シ
ス
テ
ム
学
科

(全
学
科
共
通)
B
群
Ⅰ
・
Ⅱ
・
Ⅲ
類

外国語による科目の開講について

外国語による授業科目として、下記科目が開講されている。※

| 開講校地 | 登録コード | | 科目名・クラス | 担当者 | 期間 | 週時間 | 単位 | 配当年次 | 備考 |
|------|----------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|-----|-----|----|------|---------------------------------------------------|
| | 科目 | クラス | | | | | | | |
| 今 | 10103147 | | アメリカ史における宗教 (American Society and Religion) | GAVIN J.CAMPBELL | 秋学期 | 2 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10103195 | | ヨーロッパの宗教 (Jewish Women in Modern Europe: A Historical and Cultural Perspective) | ADA TAGGAR-COHEN | 秋学期 | 集中 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10103753 | | イスラエルの宗教演習 (イスラエルの宗教-古代中近東の文書 から見たイスラエルの聖書の宗教-) | ADA TAGGAR-COHEN | 春学期 | 2 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10103754 | | 古代近東学入門 (古代近東の文化史入門) | ADA TAGGAR-COHEN | 秋学期 | 2 | 2 | 3～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10103857 | | ユダヤ女性演習 (ヘブライ語聖書とユダヤ教における女性) | ADA TAGGAR-COHEN | 秋学期 | 2 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10912301 | | Contemporary Japanese Culture and Society | Mattias Van Ommen | 秋学期 | 4 | 4 | 2～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10932148 | | 国際コミュニケーション論 | BRIAN COVERT | 春学期 | 2 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10952140 | | Education and World Culture (1) | WILLIAM ROBERT STEVENSON III | 春学期 | 2 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 10952135 | | Globalization, Education, and Culture(1) | WILLIAM ROBERT STEVENSON III | 春学期 | 2 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う (2016・2017年度生のみ登録可) |
| 今 | 10952141 | | Education and World Culture (2) | WILLIAM ROBERT STEVENSON III | 秋学期 | 2 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 10952136 | | Globalization, Education, and Culture(2) | WILLIAM ROBERT STEVENSON III | 秋学期 | 2 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う (2016・2017年度生のみ登録可) |
| 今 | 10952162 | | Topics in Education and Development | 乾 美 紀 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (社会学部 2018年度以降生お よびILA所属学生のみ登録可) |
| 今 | 10952172 | | Topics in Overseas Education | 乾 美 紀 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (社会学部 2017年度以前生お よびILA所属学生のみ登録可) |
| 今 | 10952163 | | Topics in Character Formation and Education | 本 間 桃 里 | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 10952173 | | Topics in Japanese Education | 本 間 桃 里 | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 10952180 | | Topics in Multiculturalism and Education | 柴 川 真由美 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 10952174 | | Special Topics in Education and Culture | 柴 川 真由美 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 10307414 | | アメリカ法 | COLIN P.A. JONES | 秋学期 | 2 | 2 | 3～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10305814 | 701 | 特殊講義 A | 寺 田 貴 西 澤 由 隆 飯 田 健 | 秋学期 | 集中 | 2 | 4～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308851 | 001 | Japanese Constitution | 東 川 浩 二 | 春学期 | 集中 | 2 | 3～ | 英語により授業を行う (2022年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 10308853 | 001 | Special Course in Japanese Law | 和久井 理 子 | 秋学期 | 2 | 2 | 3～ | 英語により授業を行う (2022年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 10308855 | 001 | American Law | SHAWN MICHAEL HUIZENGA | 秋学期 | 2 | 2 | 3～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308855 | 002 | American Law | SHAWN MICHAEL HUIZENGA | 秋学期 | 2 | 2 | 3～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308855 | 003 | American Law | SHAWN MICHAEL HUIZENGA | 秋学期 | 2 | 2 | 3～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308856 | 001 | Asian Law | 黄 ジン霆 | 秋学期 | 2 | 2 | 3～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308856 | 002 | Asian Law | 劉 建 宏 | 春学期 | 2 | 2 | 3～ | 英語により授業を行う |

| 開講 校地 | 登録コード | | 科目名・クラス | 担当者 | 期間 | 週時間 | 単位 | 配当 年次 | 備考 |
|----------|----------|-----|-------------------------------------------------------------------|--------------------|-----|-----|----|----------|-------------------------------------|
| | 科目 | クラス | | | | | | | |
| 今 | 10308856 | 003 | Asian Law | 劉 建 宏 | 春学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308857 | 001 | European Law | 植 松 真 生 | 春学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308857 | 002 | European Law | ANNE LISE SIBONY | 春学期 | 集中 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308858 | 001 | Current Issues in Comparative Law | 高 橋 宏 司 | 秋学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308858 | 002 | Current Issues in Comparative Law | JAY KLAPHAKE | 春学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308858 | 003 | Current Issues in Comparative Law | 劉 建 宏 | 春学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308858 | 004 | Current Issues in Comparative Law | 劉 建 宏 | 春学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308858 | 005 | Current Issues in Comparative Law | MEL MARQUIS | 秋学期 | 集中 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308859 | 001 | International Law | 新 井 京 | 秋学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308860 | 001 | International Arbitration | 高 橋 宏 司 | 秋学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308861 | 001 | International Institutions and Global Law | 植 松 真 生 | 春学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308862 | 001 | Current Issues in Global Law | COLIN P.A. JONES | 秋学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308862 | 002 | Current Issues in Global Law | JAY KLAPHAKE | 秋学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308863 | | International Commercial Arbitration Moot 1 | 廣 田 浩 | 春学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308864 | | International Commercial Arbitration Moot 2 | 廣 田 浩 | 秋学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308867 | 001 | Japanese Law | 東 川 浩 二 | 春学期 | 集中 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う (2023年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 10308867 | 002 | Japanese Law | 和久井 理子 | 秋学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う (2023年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 10308875 | | Public Opinion and Political Participation in Japan | 西 澤 由 隆 | 秋学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10308876 | | Development and Democracy in East Asia | 森 下 明 子 | 秋学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う |
| 今 | 10403323 | 403 | エコノミクス・ワークショップ・プライマリ2 ーロシアの天然資源開発ー | TAMARA LITVINENKO | 秋 | 2 | 2 | 1~ | 英語により授業を行う (2020年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 10403323 | 404 | エコノミクス・ワークショップ・プライマリ2 ー東北アジアのエネルギー資源開発と鉱山開発ー | TAMARA LITVINENKO | 秋 | 2 | 2 | 1~ | 英語により授業を行う (2020年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 10403323 | 408 | エコノミクス・ワークショップ・プライマリ2 ー海外留学をめざす人のための準備講座・留学成功の秘訣ー | TAMARA LITVINENKO | 秋 | 2 | 2 | 1~ | 英語により授業を行う (2020年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 10407323 | 403 | エコノミクス・ワークショップ2 ーロシアの天然資源開発ー | TAMARA LITVINENKO | 秋 | 2 | 2 | 1~ | 英語により授業を行う (2019年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 10407323 | 404 | エコノミクス・ワークショップ2 ー東北アジアのエネルギー資源開発と鉱山開発ー | TAMARA LITVINENKO | 秋 | 2 | 2 | 1~ | 英語により授業を行う (2019年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 10407323 | 408 | エコノミクス・ワークショップ2 ー海外留学をめざす人のための準備講座・留学成功の秘訣ー | TAMARA LITVINENKO | 秋 | 2 | 2 | 1~ | 英語により授業を行う (2019年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 10403324 | 914 | エコノミクス・ワークショップ・アドバンスト -[応] コンテンポラリー・スタディーズI(経済地理)- | TAMARA LITVINENKO | 秋 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う (経済学部 2020年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 10522645 | 000 | Shopping and Swapping: Cultures of Consumption and Exchange | JOSHUA HOTAKA ROTH | 春学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語による講義 |
| 今 | 10523620 | 001 | 専門外国語特講 -1 Language and Culture in International Business | 佐 藤 研 一 | 春学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語による講義 (商学部生のみ登録可) |
| 今 | 10523620 | 002 | 専門外国語特講 -2 Analysis of Japanese Companies | 小 林 一 雅 | 秋学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語による講義 (商学部生のみ登録可) |

| 開講 校地 | 登録コード | | 科目名・クラス | 担当者 | 期間 | 週時間 | 単位 | 配当 年次 | 備考 |
|----------|----------|-----|--------------------------------------------------------------------------|------------------------|-----|-----|----|----------|---------------------------------------------|
| | 科目 | クラス | | | | | | | |
| 今 | 10523620 | 003 | 専門外国語特講 -3 Analysis of Japanese Companies | 小 林 一 雅 | 秋学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語による講義 (商学部生のみ登録可) |
| 今 | 10702004 | 012 | アカデミック・スキル2(イシュードリブン) 「社会課題を複合的な視点でとらえる： エネルギー貧困を事例として」 | 伊 川 萌 黄 | 春学期 | 2 | 2 | 2 | 英語により授業を行う (政策学部生のみ登録可) |
| 今 | 10702004 | 013 | アカデミック・スキル2(イシュードリブン) 「社会課題を複合的な視点でとらえる：「公正な エネルギーシステムへの移行」を事例として」 | 伊 川 萌 黄 | 春学期 | 2 | 2 | 2 | 英語により授業を行う (政策学部生のみ登録可) |
| 今 | 10702004 | 014 | アカデミック・スキル2(イシュードリブン) 「日本の教育政策の形成過程」 | 辻 優太郎 | 春学期 | 2 | 2 | 2 | 英語により授業を行う (政策学部生のみ登録可) |
| 今 | 10702004 | 015 | アカデミック・スキル2(イシュードリブン) 「日本の教育政策の形成過程」 | 辻 優太郎 | 春学期 | 2 | 2 | 2 | 英語により授業を行う (政策学部生のみ登録可) |
| 今 | 10702646 | 026 | 政策トピックス - ㉔ 「EBPMムーブメントのなかに生きるべきか？」 | 伊 川 萌 黄 | 秋学期 | 2 | 2 | 2~ | 英語により授業を行う |
| 海外 | 10702648 | 028 | 政策トピックス - ㉔ 「持続可能性を実現する通商ガバナンスの あり方：サステナブル認証の役割と今後」 | 岡 本 由美子 | 秋学期 | 集中 | 2 | 2~ | 英語により授業を行う |
| 海外 | 10702651 | 031 | 政策トピックス - ㉓ 「欧州統合の基礎」 | 吉 田 徹 | 秋学期 | 集中 | 2 | 2~ | 英語により授業を行う |
| 田 | 11610202 | | 技術英語 I | IVAN TANEV | 春学期 | 2 | 1 | 3~ | 英語により授業を行う (理工学部インテリジェント 情報工学科生のみ登録可) |
| 田 | 11615046 | | 技術英語 | IVAN TANEV | 秋学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う (理工学部情報システムデ ザイン学科生のみ登録可) |
| 田 | 11615084 | | マルチエージェント工学 | IVAN TANEV | 秋学期 | 2 | 2 | 2~ | 英語により授業を行う (理工学部情報システムデ ザイン学科生のみ登録可) |
| 田 | 11615113 | | インテリジェントアルゴリズム | IVAN TANEV | 春学期 | 2 | 2 | 3~ | 英語により授業を行う (理工学部情報システムデ ザイン学科生のみ登録可) |
| 田 | 11502064 | 001 | スポーツ健康科学グローバル演習 (スポーツを通して実践英語を身に着けよう) | 橘 未 都 | 秋学期 | 2 | 2 | 2~ | 英語により授業を行う (スポーツ健康科学部2018 年度以降生のみ登録可) |
| 田 | 11502064 | 002 | スポーツ健康科学グローバル演習 (スポーツを通して実践英語を身に着けよう) | 越 智 文 啓 | 秋学期 | 2 | 2 | 2~ | 英語により授業を行う (スポーツ健康科学部2018 年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 12232708 | | 南北アメリカ地域文化特論3 | UCHINO CRYSTAL KIMI | 春学期 | 2 | 2 | 2~ | 英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 12232724 | | 南北アメリカ地域の文化4 | UCHINO CRYSTAL KIMI | 春学期 | 2 | 2 | 2~ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 12234051 | | Global and Regional Cultural Studies Seminar 1 | MATTHEW LARKING | 春学期 | 2 | 2 | 2~ | 英語により授業を行う (グローバル地域文化 学部生のみ登録可) |
| 今 | 12234052 | | Global and Regional Cultural Studies Seminar 2 | ZACHARY NANBU | 秋学期 | 2 | 2 | 2~ | 英語により授業を行う (グローバル地域文化 学部生のみ登録可) |
| 今 | 12234053 | | Global and Regional Cultural Studies Seminar 3 | DAVID PERRIE MCCURRACH | 秋学期 | 2 | 2 | 2~ | 英語により授業を行う (グローバル地域文化 学部生のみ登録可) |
| 今 | 12234054 | | Global and Regional Cultural Studies Seminar 4 | ANTHONY LAVIGNE | 春学期 | 2 | 2 | 2~ | 英語により授業を行う (グローバル地域文化 学部生のみ登録可) |
| 今 | 16000200 | 000 | ジョイント・セミナー 比較文化論 | 和 泉 真 澄 | 秋学期 | 4 | 4 | 2~ | 主に英語により授業を行う |
| 今 | 16000205 | 053 | 日本の伝統と芸能 | 高 永 珍 | 春学期 | 2 | 2 | 1~ | コリア語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 16000215 | 052 | 日本とアジア2 | 高 永 珍 | 秋学期 | 2 | 2 | 1~ | コリア語により授業を行う |

| 開講 校地 | 登録コード | | 科目名・クラス | 担当者 | 期間 | 週時間 | 単位 | 配当 年次 | 備考 |
|----------|-------------|-----|--------------------------------------------------------------------|-------------------------|------------|-----|----|----------|------------------------------------------------------------|
| | 科目 | クラス | | | | | | | |
| 今 | (クラスにより異なる) | | スタンフォード大学科目 | (複数クラス開講) | 春学期 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (複数クラス開講) 春学期科目は2年次生以上が登録可能 秋学期科目は開講予定 |
| 今 | (クラスにより異なる) | | A K P 科目 | (複数クラス開講) | 春学期 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (複数クラス開講) 春学期科目は2年次生以上が登録可能 秋学期科目は開講予定 |
| 今 | (クラスにより異なる) | | K C J S 科目 | (複数クラス開講) | 春学期 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (複数クラス開講) 春学期科目は2年次生以上が登録可能 秋学期科目は開講予定 |
| 今 | 16606500 | 051 | チュービンゲン大学科目 | MICHAEL WACHUTKA | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | ドイツ語により授業を行う |
| 今 | 16606500 | 052 | チュービンゲン大学科目 | MICHAEL WACHUTKA | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | ドイツ語により授業を行う |
| 田 | 16000702 | 001 | Introduction to Japanese Culture in the Global Context | 土井ベンソン アンヤ | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 田 | 16000702 | 002 | Introduction to Japanese Culture in the Global Context | 土井ベンソン アンヤ | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000702 | 051 | Introduction to Japanese Culture in the Global Context | 土井ベンソン アンヤ | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000702 | 052 | Introduction to Japanese Culture in the Global Context | DIAZ SANCHO IVAN | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 田 | 16000703 | 001 | Introduction to Japanese Society in the Global Context | ROBERT WILLIAM ASPINALL | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000703 | 051 | Introduction to Japanese Society in the Global Context | ROBERT WILLIAM ASPINALL | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000703 | 052 | Introduction to Japanese Society in the Global Context | ROBERT WILLIAM ASPINALL | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 田 | 16000704 | 001 | Introduction to the Nature of Japan and Asia in the Global Context | 有 井 健 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 田 | 16000704 | 002 | Introduction to the Nature of Japan and Asia in the Global Context | 有 井 健 | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000704 | 051 | Introduction to the Nature of Japan and Asia in the Global Context | 有 井 健 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000704 | 052 | Introduction to the Nature of Japan and Asia in the Global Context | 有 井 健 | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 田 | 16000705 | 001 | Humanities and Global Issues | 土井ベンソン アンヤ | 秋学期 | 2 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000705 | 051 | Humanities and Global Issues | 土井ベンソン アンヤ | 春学期 | 2 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000705 | 052 | Humanities and Global Issues | ESTA TINA OTTMAN | 秋学期 | 2 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000706 | | Social Sciences and Global Issues | ROBERT WILLIAM ASPINALL | 秋学期 | 2 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う |
| 田 | 16000707 | 001 | Natural Sciences and Global Issues | 有 井 健 | 春学期 | 2 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000707 | 051 | Natural Sciences and Global Issues | 有 井 健 | 春学期 | 2 | 2 | 2～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000708 | 051 | Japan in Modern World History | IGNACIO ARISTIMUNO | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000708 | 052 | Japan in Modern World History | DIAZ SANCHO IVAN | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000709 | 051 | International Relations in the Postwar Era | GARTH WARRIES | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000709 | 052 | International Relations in the Postwar Era | GARTH WARRIES | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 田 | 16000710 | 001 | Issues in Japanese Culture | 土井ベンソン アンヤ | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |

| 開講 校地 | 登録コード | | 科目名・クラス | 担当者 | 期間 | 週時間 | 単位 | 配当 年次 | 備考 |
|----------|----------|-----|----------------------------------------------------|-------------------------|-----|-----|----|----------|-----------------------------------|
| | 科目 | クラス | | | | | | | |
| 今 | 16000710 | 051 | Issues in Japanese Culture | IGNACIO ARISTIMUNO | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000710 | 052 | Issues in Japanese Culture | 土井ベンソン アンヤ | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 田 | 16000711 | 001 | Japanese Thought and Religion 1 | IGNACIO ARISTIMUNO | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可) |
| 今 | 16000711 | 051 | Japanese Thought and Religion 1 | IGNACIO ARISTIMUNO | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可) |
| 田 | 16000212 | 001 | 日本の思想・宗教 1 | IGNACIO ARISTIMUNO | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 16000212 | 052 | 日本の思想・宗教 1 | IGNACIO ARISTIMUNO | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可) |
| 田 | 16000712 | 001 | Japanese Thought and Religion 2 | IGNACIO ARISTIMUNO | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可) |
| 今 | 16000712 | 051 | Japanese Thought and Religion 2 | IGNACIO ARISTIMUNO | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可) |
| 田 | 16000213 | 001 | 日本の思想・宗教 2 | IGNACIO ARISTIMUNO | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 16000213 | 052 | 日本の思想・宗教 2 | IGNACIO ARISTIMUNO | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可) |
| 田 | 16000713 | 001 | Tradition and Art in Japan 1 | IGNACIO ARISTIMUNO | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可) |
| 今 | 16000713 | 051 | Tradition and Art in Japan 1 | IGNACIO ARISTIMUNO | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可) |
| 田 | 16000207 | 002 | 日本の伝統と芸術 | IGNACIO ARISTIMUNO | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 16000207 | 054 | 日本の伝統と芸術 | IGNACIO ARISTIMUNO | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可) |
| 田 | 16000714 | 001 | Tradition and Art in Japan 2 | IGNACIO ARISTIMUNO | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可) |
| 今 | 16000714 | 051 | Tradition and Art in Japan 2 | IGNACIO ARISTIMUNO | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2016～2017年度生のみ登録可) |
| 田 | 16000207 | 001 | 日本の伝統と芸術 | IGNACIO ARISTIMUNO | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 16000207 | 053 | 日本の伝統と芸術 | IGNACIO ARISTIMUNO | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 16000216 | 051 | Japan Today 1 | OMAR YUSEF BAKER | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 16000216 | 052 | Japan Today 1 | OMAR YUSEF BAKER | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 16000217 | 051 | Japan Today 2 | OMAR YUSEF BAKER | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 16000217 | 052 | Japan Today 2 | OMAR YUSEF BAKER | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2017年度以前生のみ登録可) |
| 田 | 16000715 | 001 | Democracy and Politics : A Comparative Perspective | ROBERT WILLIAM ASPINALL | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000715 | 051 | Democracy and Politics : A Comparative Perspective | ROBERT WILLIAM ASPINALL | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 田 | 16000716 | 001 | Education in the Age of Globalization | ROBERT WILLIAM ASPINALL | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000716 | 051 | Education in the Age of Globalization | ROBERT WILLIAM ASPINALL | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 田 | 16000717 | 001 | Issues in Intercultural Communication | ROBERT WILLIAM ASPINALL | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000717 | 051 | Issues in Intercultural Communication | ROBERT WILLIAM ASPINALL | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000718 | | Economy and Business in the Global Context 1 | 森 宏一郎 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |

| 開講 校地 | 登録コード | | 科目名・クラス | 担当者 | 期間 | 週時間 | 単位 | 配当 年次 | 備考 |
|----------|----------|-----|----------------------------------------------------------------|------------------------------------|-----|-----|----|----------|-------------------------------------|
| | 科目 | クラス | | | | | | | |
| 今 | 16000719 | 051 | Economy and Business in the Global Context 2 | 森 宏一郎 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000719 | 052 | Economy and Business in the Global Context 2 | DANYL MIGDALSKYI | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000720 | 051 | Critical Social Issues in Contemporary Japan 1 | WILLIAM BRADLEY | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2016年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 16000720 | 052 | Critical Social Issues in Contemporary Japan 1 | WILLIAM BRADLEY | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2016年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 16000218 | 051 | 日本の社会事情 | WILLIAM BRADLEY | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 16000218 | 052 | 日本の社会事情 | WILLIAM BRADLEY | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2015年度以前生のみ登録可) |
| 今 | 16000721 | 051 | Critical Social Issues in Contemporary Japan 2 | WILLIAM BRADLEY | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000721 | 052 | Critical Social Issues in Contemporary Japan 2 | WILLIAM BRADLEY | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000723 | 051 | The Divisions of Identity in Society | 安 武 留 美 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う 学部所属正規学生(2016年度以降生) |
| 今 | 16000211 | 051 | アイデンティティの社会 格差 | 安 武 留 美 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う 学部所属正規一般学生(2015年度以前生) |
| 今 | 16000723 | 052 | The Divisions of Identity in Society | GARTH WARRIES | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う 学部所属正規学生(2016年度以降生) |
| 今 | 16000211 | 052 | アイデンティティの社会 格差 | GARTH WARRIES | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う 学部所属正規一般学生(2015年度以前生) |
| 田 | 16000724 | 001 | Statistics for the Social Sciences and Humanities | 李 玉 哲 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000724 | 051 | Statistics for the Social Sciences and Humanities | MYGDALSKYY VOLODYMYR | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000725 | | Introduction to Computer Science and Information Technology | MYGDALSKYY VOLODYMYR | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 田 | 16000726 | 001 | Human Science in the Global Age | DANYL MIGDALSKYI | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000726 | 051 | Human Science in the Global Age | DANYL MIGDALSKYI | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000727 | | Introduction to Quantitative Data Analysis | DANYL MIGDALSKYI | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000728 | | Conservation of Japanese Nature and Environment | 有 井 健 | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000729 | | Mathematics and its History | VILLE JOONAS JOHANNES SYRJAENEN | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000730 | | Science of Natural Disasters | 有 井 健 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000731 | | Principles of Economics | 森 宏一郎 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000732 | | Environmental Economics and Sustainability | 森 宏一郎 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16091201 | 051 | Advanced Seminar 1 | 土井ベンソン アンヤ | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16091201 | 052 | Advanced Seminar 1 | 土井ベンソン アンヤ | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16091202 | 051 | Advanced Seminar 2 | ROBERT WILLIAM ASPINALL | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16091202 | 052 | Advanced Seminar 2 | ROBERT WILLIAM ASPINALL | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 田 | 16091203 | 001 | Advanced Seminar 3 | 有 井 健 | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16091203 | 051 | Advanced Seminar 3 | 有 井 健 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う |
| 今 | 16000803 | 053 | 日本の伝統と芸能 | 高 永 珍 | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | コリア語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |

| 開講 校地 | 登録コード | | 科目名・クラス | 担当者 | 期間 | 週時間 | 単位 | 配当 年次 | 備考 |
|----------|----------|-----|------------------------------------|--------------------|-----|-----|----|----------|--------------------------------|
| | 科目 | クラス | | | | | | | |
| 田 | 16000806 | 001 | Japanese Thought and Religion 1 | IGNACIO ARISTIMUNO | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 16000806 | 051 | Japanese Thought and Religion 1 | IGNACIO ARISTIMUNO | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 田 | 16000807 | 001 | Japanese Thought and Religion 2 | IGNACIO ARISTIMUNO | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 16000807 | 051 | Japanese Thought and Religion 2 | IGNACIO ARISTIMUNO | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 田 | 16000808 | 001 | Tradition and Art in Japan 1 | IGNACIO ARISTIMUNO | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 16000808 | 051 | Tradition and Art in Japan 1 | IGNACIO ARISTIMUNO | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 田 | 16000809 | 001 | Tradition and Art in Japan 2 | IGNACIO ARISTIMUNO | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 16000809 | 051 | Tradition and Art in Japan 2 | IGNACIO ARISTIMUNO | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 16000810 | 051 | Japan Today 1 | OMAR YUSEF BAKER | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 16000810 | 052 | Japan Today 1 | OMAR YUSEF BAKER | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 16000811 | 051 | Japan Today 2 | OMAR YUSEF BAKER | 春学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |
| 今 | 16000811 | 052 | Japan Today 2 | OMAR YUSEF BAKER | 秋学期 | 2 | 2 | 1～ | 英語により授業を行う (2018年度以降生のみ登録可) |

※ 先行登録が必要な科目があります。各学部の履修要項・登録要領で確認すること。

※ 学部によっては履修できない科目や記載されている配当年次では履修できない場合があります。必ず自分が所属する学部の履修要項・登録要領で確認すること。

※ 文学部およびグローバル・コミュニケーション学部の一部の授業科目ならびに国際教育インスティテュートの授業科目は外国語で開講されているが、この表には記載していない。

※ 「日本語・日本文化教育科目」、「外国語による科目」についてわからないことがあれば、所属の学部・研究科事務室、各キャンパスの教務センターで相談すること。

第1章 総 則

第1条 本学は、教育基本法にのっとり、学校教育法の定める大学として、学術を教授研究し、あわせてキリスト教的教育の特色を発揮し、国家社会に有用な人物を養成することを目的とする。

第1条の2 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

- 2 点検及び評価に関する規程は、別に定める。
- 3 本学は、第1項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。
- 4 本学は、第1項及び前項に規定する点検及び評価の結果並びに認証評価の結果を公表するとともに、教育研究活動等について不断の見直しを行う。

第1条の3 本学は、教育研究活動等の状況について、適切な体制を整えた上で、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって、公表するものとする。

- 第2条 本学に、学部、大学院その他の教育研究組織を置く。
- 2 大学院に関する学則は、別にこれを定める。
- 第2条の2 本学は、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各学部において学科毎に定め、別表Ⅱに記載する。

第2章 学 部

第1節 修業年限、学年、学期及び休業日

- 第3条 学部の修業年限は、4年とする。
- 2 在学年限は、8年を超えることができない。
- 第4条 削除
- 第5条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。
- 2 学年を次の2学期に分ける。

春学期 4月1日から9月20日まで
秋学期 9月21日から翌年3月31日まで

- 第6条 休業日は、次のとおりとする。
- (1) 日曜日
 - (2) 「国民の祝日に関する法律」に定める休日
 - (3) 創立記念日 11月29日
 - (4) キリスト降誕日 12月25日
 - (5) 夏期、冬期及び春期休業に関しては、別に定める。
- 2 前項に規定する休業日において、必要ある場合は授業を行うことがある。また休業日は、臨時に定めることができる。

第2節 学部学科等の組織

- 第7条 本学に、次の学部学科を置く。
- 神学部
 - 神学科
 - 文学部
 - 英文学科
 - 哲学科
 - 美学芸術学科
 - 文化史学科

- 国文学科
- 社会学部
 - 社会学科
 - 社会福祉学科
 - メディア学科
 - 産業関係学科
 - 教育文化学科
- 法学部
 - 法律学科
 - 政治学科
- 経済学部
 - 経済学科
- 商学部
 - 商学科
- 政策学部
 - 政策学科
- 文化情報学部
 - 文化情報学科
- 理工学部
 - インテリジェント情報工学科
 - 情報システムデザイン学科
 - 電気工学科
 - 電子工学科
 - 機械システム工学科
 - 機械理工学科
 - 機能分子・生命化学科
 - 化学システム創成工学科
 - 環境システム学科
 - 数理システム学科
- 生命医科学部
 - 医工学科
 - 医情報学科
 - 医生命システム学科
- スポーツ健康科学部
 - スポーツ健康科学科
- 心理学部
 - 心理学科
- グローバル・コミュニケーション学部
 - グローバル・コミュニケーション学科
- グローバル地域文化学部
 - グローバル地域文化学科

- 第7条の2 削除
- 第7条の3 本学にキリスト教文化センターを置く。
- 2 キリスト教文化センターに関する規程は、別に定める。
- 第7条の4 本学にハリス理化学研究所を置く。
- 2 ハリス理化学研究所に関する規程は、別に定める。
- 第7条の5 削除
- 第7条の6 本学に歴史資料館を置く。
- 2 歴史資料館に関する規程は、別に定める。
- 第7条の7 削除
- 第7条の8 本学に全学共通教養教育センターを置く。
- 2 全学共通教養教育センターに関する規程は、別に定める。

- 第7条の9 本学に国際教育インスティテュートを置く。
2 国際教育インスティテュートに関する規程は、別に定める。
- 第7条の10 本学に免許資格課程センターを置く。
2 免許資格課程センターに関する規程は、別に定める。
- 第7条の11 本学に学習支援・教育開発センターを置く。
2 学習支援・教育開発センターに関する規程は、別に定める。
- 第7条の12 削除
- 第7条の13 削除
- 第7条の14 本学に国際教養教育院を置く。
2 国際教養教育院に関する規程は、別に定める。

第3節 教育課程及び履修方法

- 第8条 各学部学科の教育課程は、各学部学科が学校教育法施行規則第165条の2第1項第1号及び第2号により定める方針に基づき編成し、履修方法とともに別表Ⅱにこれを定める。
- 第8条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
2 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
3 本学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
- 第8条の3 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。
- 第9条 学生は、所属学部学科の規定に従って、一定単位数の授業科目を履修しなければならない。
2 教育職員免許状を得るための資格及び司書、司書教諭、学芸員の資格を得たい者は、特に指定された授業科目を履修しなければならない。
3 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。
(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
(2) 実験、実習、実技等については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
(3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める。
4 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。
- 第9条の2 本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が学部の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で認定することができる。
2 第27条の2により留学した大学において単位を修得した者には、前項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

- 3 外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し修得した単位及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し修得した単位を、前2項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

第9条の3 本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部教授会の定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項の単位数は、前条第1項、第2項及び第3項と合わせて60単位を超えないものとする。

第9条の4 本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学において修得したのものとして認定することができる。

2 本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。

3 前2項の単位数は、転入学及び編入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第9条の2第1項、第2項及び第3項並びに前条第1項により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第9条の5 第8条の2第2項の授業の方法により修得する単位は、各学部における卒業に必要な単位数から64単位を除いた単位数を上限として、卒業に必要な単位とすることができる。

第9条の6 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

2 本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。

第10条 削除

第4節 単位の授与及び成績評価

第11条 一の授業科目を履修した学生に対しては、試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えるものとする。

第12条 削除

第13条 学修の成果に係る評価は、A、B、C、D及びFで評価し、D以上の成績を合格とする。ただし、学部の定めるところにより、特定の授業科目については学修の成果に係る評価を、合格又は不合格で評価することができる。

第14条 疾病その他やむを得ない事由により受験できなかった場合は、その授業科目の試験日の翌日から起算して3日以内に願い出れば、追試験を行うことがある。

第5節 卒業及び学位の授与

第15条 学部学科所定の教育課程に従って授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に卒業の認定を行い、卒業した学部学科の種類により次の学士の学位を授与する。在学期間に関しては、学部の定めるところにより、所定の単位を優れた成績で修得したと認められる者については、3年以上在学すれば足りるものとする。

学士（神学、英文学、哲学、美学芸術学、文化史学、国文学、社会学、社会福祉学、メディア学、産業関係学、教育文化学、法学、政治学、経済学、商学、政策学、文化情報学、工学、理学、スポーツ健康科学、心理学、グローバル・コミュニケーション学、グローバル地域文化学、国際教養）

2 前項に規定する学位には、「学士（神学）（同志社大学）」のように明記することを必要とする。

第6節 収容定員及び教育研究実施組織

第16条 各学部の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

| 学部学科別 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 |
|-------------------|--------|-------|---------|
| 神学部 | 63名 | | 252名 |
| 神学科 | 63名 | | 252名 |
| 文学部 | 705名 | | 2,820名 |
| 英文学科 | 315名 | | 1,260名 |
| 哲学科 | 70名 | | 280名 |
| 美学芸術学科 | 70名 | | 280名 |
| 文化史学科 | 125名 | | 500名 |
| 国文学科 | 125名 | | 500名 |
| 社会学部 | 442名 | | 1,768名 |
| 社会学科 | 90名 | | 360名 |
| 社会福祉学科 | 98名 | | 392名 |
| メディア学科 | 88名 | | 352名 |
| 産業関係学科 | 87名 | | 348名 |
| 教育文化学科 | 79名 | | 316名 |
| 法学部 | 893名 | | 3,572名 |
| 法律学科 | 683名 | | 2,732名 |
| 政治学科 | 210名 | | 840名 |
| 経済学部 | 893名 | | 3,572名 |
| 経済学科 | 893名 | | 3,572名 |
| 商学部 | 893名 | | 3,572名 |
| 商学科 | 893名 | | 3,572名 |
| 政策学部 | 420名 | | 1,680名 |
| 政策学科 | 420名 | | 1,680名 |
| 文化情報学部 | 294名 | | 1,176名 |
| 文化情報学科 | 294名 | | 1,176名 |
| 理工学部 | 756名 | 20名 | 3,064名 |
| インテリジェント情報工学科 | 83名 | 2名 | 336名 |
| 情報システムデザイン学科 | 83名 | 2名 | 336名 |
| 電気工学科 | 80名 | 2名 | 324名 |
| 電子工学科 | 86名 | 2名 | 348名 |
| 機械システム工学科 | 96名 | 2名 | 388名 |
| エネルギー機械工学科 | 70名 | 2名 | 284名 |
| 機能分子・生命化学科 | 83名 | 2名 | 336名 |
| 化学システム創成工学科 | 83名 | 2名 | 336名 |
| 環境システム学科 | 51名 | 2名 | 208名 |
| 数理システム学科 | 41名 | 2名 | 168名 |
| 生命医科学部 | 265名 | | 1,060名 |
| 医工学科 | 100名 | | 400名 |
| 医情報学科 | 100名 | | 400名 |
| 医生命システム学科 | 65名 | | 260名 |
| スポーツ健康科学部 | 221名 | | 884名 |
| スポーツ健康科学科 | 221名 | | 884名 |
| 心理学部 | 158名 | | 632名 |
| 心理学科 | 158名 | | 632名 |
| グローバル・コミュニケーション学部 | 158名 | | 632名 |
| グローバル・コミュニケーション学科 | 158名 | | 632名 |
| （うち、英語コース | 85名 | | 340名） |
| グローバル地域文化学部 | 190名 | | 760名 |
| グローバル地域文化学科 | 190名 | | 760名 |
| 計 | 6,351名 | 20名 | 25,444名 |

第17条 本学に、教授、准教授、助教及び助手を置く。

2 本学に、特別任用教授、特別任用助教（有期研究員）及び特別任用助手（有期研究員）を置くことができる。

3 本学に、客員教授、客員准教授及び客員助教を置くことができる。

第17条の2 削除

第18条 本学に、学長を置く。

2 学長は、本学を代表するとともに、校務をつかさどり、教職員を統括する。

3 学長は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修等を実施する。

4 学長に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の2 本学に、副学長を置く。

2 副学長に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の3 本学に、学部長を置く。

2 学部長は、学部に関する校務をつかさどる。

第18条の4 本学に、機構長、部長、所長、館長、室長、別科長等を置く。

第18条の5 本学に、学長補佐を置くことができる。

2 学長補佐に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の6 本学に、その事務を遂行するため、職員を置く。

2 事務組織に関する規程は、別に定める。

第19条 本学の各学部にて教授会を置く。

2 教授会は、学部に関する次の事項を審議する。

(1) 学生の入学、退学、休学、卒業等に関する事項及び学位の授与に関する事項

(2) 教育課程に関する事項

(3) 教員の人事に関する事項

(4) 学則、学部諸規程に関する事項

(5) その他、学部長がつかさどる教育研究に関する事項

3 教授会は、学長から諮問された事項について審議する。

4 教授会は、学生の入学、卒業及び学位の授与、その他教育研究に関する重要な事項で教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

5 教授会の組織及び運営に関する事項は、各学部教授会において定める。

第19条の2 本学に部長会を置く。

2 大学及び各学部に通ずる重要事項は、部長会で審議する。

3 部長会に関する規定は、別に定める。

第19条の3 本学に大学評議会を置く。

2 大学評議会は、本学の中長期的方針に関わる事項を審議し、その達成状況を検証する。

3 大学評議会に関する規則は、別に定める。

第19条の4 本学に大学教授会を置く。

2 大学教授会は、大学の重要な事項に関し学長の諮問に応じる。

第7節 入学、転入学、編入学、休学、留学、退学、除籍及び再入学

第20条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、学部が必要とする時には、入学の時期を学期の始めとすることができる。

第21条 学部第1年次に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。

(1) 高等学校卒業生

(2) 中等教育学校卒業生

(3) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）

(4) 高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認められたもの

(5) 大学への入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第150条に規定された者

第22条 前条の資格を有する入学志願者について、各学部が学校教育法施行規則第165条の2第1項第3号により定める方針に基づき、高等学校卒業程度の入学試験を行い、入学を許可する。

第23条 学部第2年次及び第3年次では、第2項又は第3項の各号のいずれかに該当する入学志願者について選考を行い、転入学又は編入学を許可することがある。

2 第3年次に転入学又は第2年次若しくは第3年次に編入学することができる者は、次のとおりとする。

(1) 大学第2年次修了者

(2) 短期大学卒業生

(3) 高等専門学校卒業生

(4) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

(5) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第155条第2項又は同第177条に規定された者並びに文部省令第1号により大学への編入学を認められた者

(6) 高等学校の専攻科の課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

3 第2年次に転入学することができる者は、次のとおりとする。

(1) 大学第1年次修了者

(2) 外国の大学において前号に準じる課程を修了した者

4 第3年次に転入学又は編入学することを許可された転入学学生及び編入学学生の修業年限は2年とし、在学年限は6年を超えることができない。

5 第2年次に転入学又は編入学することを許可された転入学学生及び編入学学生の修業年限は3年とし、在学年限は7年を超えることができない。

第24条 入学志願者は、指定期日までに所定の書類を提出し、別表Iの5に定める入学検定料を納入しなければならない。

2 災害等の特別な事情により入学検定料の納入が困難であると認められる入学志願者には、申請に基づき、入学検定料を免除することがある。

- 3 前項の入学検定料の免除の詳細は、別に定める。
- 第25条 入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。
- 2 本学の複数の学部・学科・コース（以下「学部等」という。）の入学許可を得て、一方の学部等の学費を納入した者が、もう一方の学部等へ入学を希望する場合は、申請に基づき、既に納入した学費を、もう一方の学部等の学費に振替を認めることがある。
- 3 前項の振替の詳細は、別に定める。
- 第26条 連帯保証人は1名とし、父又は母（父母のいない者は、これにかわる親戚等）とする。
- 2 連帯保証人は、その学生の在籍中、本学学費及び本学に損害を与えた場合の損害賠償等の債務につき、極度額の範囲において連帯保証しなければならない。極度額は別表Ⅰに定める学費1年分とする。
- 3 連帯保証人が転籍、転居等をしたときは、その旨直ちに届け出なければならない。
- 4 連帯保証人が死亡したとき、又はその資格を失ったときは、あらたに連帯保証人を定めて、届け出なければならない。
- 第27条 学生が疾病その他やむを得ない事由により、休学しようとするときは、連帯保証人連署のうえ、春学期又は秋学期授業開始日までにその旨願ひ出て、許可を得なければならない。
- 2 休学期間は、1年又は半年とする。
- 3 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。
- 4 休学期間は、第3条並びに第23条第4項及び第5項に定める修業年限、在学年限には算入しない。
- 第27条の2 学生は、在学中当該学部教授会が本人の教育上有益と認め、学長が承認した場合に限り、本学の認定する外国の大学に留学することができる。
- 2 留学の期間は、第3条並びに第23条第4項及び第5項に定める修業年限及び在学年限に算入できる。
- 3 留学の取扱いについては、別にこれを定める。
- 第28条 学生が、疾病その他やむを得ない事由により、退学しようとするときは、連帯保証人連署のうえ、その旨願ひ出なければならない。
- 第29条 学長は学力劣等にして成業見込みなしと認める者、又は出席常でない者を、当該学部教授会の審議を経て、諭旨退学させることがある。
- 第30条 学長は品行不良の者、学業怠慢の者、学校の秩序を乱した者、その他学生としての本分に反した者で、当該学部教授会において懲戒の対象となりうると認められたときには、けん責、停学又は退学に処することができる。
- 2 前項の懲戒に関する規程は、別に定める。
- 第30条の2 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。ただし、第1号については、春学期末卒業予定者は春学期末、それ以外の者は該当学年末（秋学期入学者は春学期末）、また第2号並びに第3号については、該当学期末に除籍する。
- (1) 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者
- (2) 在学期間が第3条第2項並びに第23条第4項及び第5項に規定する在学年限を超える者
- (3) 学費未納で履修科目の登録をしていない者
- 第30条の3 退学者及び前条第1項第1号又は第3号により除籍

された者が、連帯保証人連署のうえ、再入学を願ひ出た場合は、それを許可することがある。

なお、除籍された者が再入学を願ひ出る場合は、事前に未納学費を完納しなければならない。

第30条の4 再入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

第8節 科目等履修生、聴講生及び外国人留学生

第31条 各学部等に設置する一又は複数の授業科目を履修し単位を修得しようとする者があるときは、相当の資格があると認められた者につき、科目等履修生とすることができる。

2 科目等履修生のうち、他の大学の学生で、協定に基づき本学の授業科目を履修する者については、交流学生又は単位互換履修生として受け入れることができる。

第32条 科目等履修生が履修した授業科目について試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果に係る評価を受け合格したときは、所定の単位を与える。

2 前項に定めるもののほか、科目等履修生に関する内規は、別に定める。

第33条 削除

第34条 削除

第35条 各学部等に設置する一又は複数の授業科目を聴講しようとする者があるときは、相当の資格があると認められた者につき、聴講生とすることができる。

第36条 聴講生に関する内規は、別に定める。

第36条の2 外国人留学生に関する内規は、別に定める。

第9節 学 費

第37条 在学生の学費は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。ただし、春学期の学費を納入するときに、当該年度の秋学期の学費も納入することができる。

2 外国人留学生（特別学生）研修料は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。

3 履修料及び聴講料は、所定の期間内に納入しなければならない。

第38条 学費は、入学金、授業料（履修料、聴講料、研修料を含む）、教育充実費、特別在籍料及び休学在籍料とし、その額は、別表Ⅰから別表Ⅰの4にこれを定める。

2 協定に基づくダブルディグリープログラムにより、本学から1学期間以上留学する者は、特別在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

3 休学を許可された者は、休学在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

4 第31条第2項に定める、協定に基づき本学の授業科目を履修するため、他の大学から受け入れた交流学生及び単位互換履修生の学費については、当該大学との協定に基づき設定する。

5 いったん納入した学費は、返還しない。ただし、入学許可を得た者で、入学日の前日までに入学手続の取消しを願ひ出たものについては、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。

6 履修科目の登録に際して実験実習料を要する科目及びその実験実習料については、別に定める。

7 退学者又は除籍された者については、別に定める場合を除き、

当該学期の学費を徴収する。

- 8 第30条第1項に基づく停学処に処せられた者については、その期間中も学費を徴収する。

第39条 やむを得ない事情があると認められる場合は、申請に基づき、学費（特別在籍料及び休学在籍料を除く。）を延納又は分納することができる。

- 2 前項の学費の延納又は分納の詳細は、別に定める。

第39条の2 本学は、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、授業料及び入学金の減免を行う。

- 2 前項の授業料及び入学金の減免の詳細は、別に定める。

第39条の3 災害等の特別な事情により学費の納入が困難であると認められる者には、申請に基づき、学費の一部を免除することができる。

- 2 前項の学費の一部免除の詳細は、別に定める。

第3章 附属施設

第40条 図書館を設け、図書、学術雑誌、電磁的方法により提供される学術情報等を系統的に整備し、教育研究を促進する。

- 2 大学には学部研究室、実験室、研究所等を設ける。

第41条 寄宿舎を設け、一部学生を入舎させる。

第42条 学生支援機構保健センターを設け、教職員及び学生の保健医療に当る。

附 則

- 1 この学則は、2005年4月1日から施行する。

- 2 第27条第3項の規定は、1989年度入学生から適用する。

- 3 第9条に規定する教育職員免許状を得るための資格（高等学校地理歴史・公民科）については、1990年度入学生から適用する。

- 4 第7条、第16条は、知識工学科設置、機械工学科、機械工学第二学科の機械システム工学科、エネルギー機械工学科への名称変更及び工業化学科、化学工学科の機能分子工学科、物質化学工学科への改組転換により1994年4月1日から改正施行する。

- 5 第7条は、学部第2部を1997年度入学生から学生募集停止及び文学部第1部、法学部第1部、経済学部第1部、商学部第1部の文学部、法学部、経済学部、商学部への名称変更により1997年4月1日から改正施行する。

第16条は、文学部英文学科、文化学科国文学専攻、法学部法律学科、政治学科、経済学部、商学部へ昼間主コース、夜間主コースを設置。これにともなう学部、学科の収容定員増加変更により1997年4月1日から改正施行する。

なお、各学部の第2部は、当該学部の第2部に在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。（1997年4月1日改正）

- 6 第7条、第16条は、神学部に神学科、経済学部へ経済学科、商学部へ商学科の学科名明示により、1999年4月1日から改正施行する。（1999年4月1日改正）

- 7 第7条、第16条は、文学部社会学科新聞学専攻のメディア学専攻への名称変更、政策学部政策学科、工学部情報システムデザイン学科及び環境システム学科の設置により2004年4月1日から改正施行する。（2004年4月1日改正）

- 8 第7条は、文学部の改組・再編による文化学科、社会学科及び各学科内の専攻の廃止、それに伴う文学部哲学科、心理学科、

美学芸術学科、文化史学科、国文学科及び社会学部社会学科、社会福祉学科、メディア学科、産業関係学科、教育文化学科の設置並びに文化情報学部文化情報学科の設置により2005年4月1日から改正施行する。

第16条は、文学部の改組・再編に伴う学部・学科の設置及び文化情報学部の設置並びに法学部及び経済学部の昼間主コース、夜間主コースの廃止により2005年4月1日から改正施行する。

なお、廃止する文化学科及び社会学科の各専攻並びに法学部及び経済学部の昼間主コース及び夜間主コースは、2005年度より学生募集を停止する。ただし、各学科・専攻及びコースは、当該学科・専攻及びコースに在学する者がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。（2005年4月1日改正）

- 9 第13条に規定する試験の成績評価は、2004年度第1年次入学生から適用し、2003年度以前の入学生については、従前の規程による。

- 10 第15条に規定する学位は、2005年度第1年次入学生から適用し、2004年度以前の入学生については、従前の規程による。

- 11 第30条の3に規定する再入学は、2004年度第1年次入学生から適用する。

- 12 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2005年度第1年次入学生から適用し、2004年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

- 13 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2005年度入学生に適用する。2004年度以前の入学生については、従前の学費による。

- 14 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、休学在籍料については、2003年度以降在学の学生に適用する。ただし、2002年度以前の入学生のうち、従前の学費による休学中の学費が休学在籍料を下回る場合は、その額とする。

附 則

- 1 この学則は、2006年4月1日から施行する。

- 2 第7条及び第16条は、工学部知識工学科の名称変更により、改正・施行する。なお、知識工学科は、2006年度より学生募集を停止する。ただし、当該学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規定は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2006年度第1年次入学生から適用し、2005年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2006年度入学生に適用する。2005年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2007年4月1日から施行する。

- 2 第16条は、文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース、夜間主コースの廃止により、改正・施行する。なお、文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース及び夜間主コースは、2007年度より学生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2007年度第1年次

入学生から適用し、2006年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

- 4 第38条第1項の別表Iに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2007年度入学生に適用する。2006年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2008年4月1日から施行する。
- 2 第7条は、理工学部数理システム学科、生命医科学部医工学科、医情報学科、医生命システム学科及びスポーツ健康科学部スポーツ健康科学科の設置並びに工学部、機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部、機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により、改正・施行する。

第16条は、政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止、理工学部数理システム学科、生命医科学部及びスポーツ健康科学部の設置並びにこれにともなう学部・学科の収容定員変更及び工学部、機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部、機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により改正・施行する。

なお、政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コース並びに工学部は、2008年度より学生募集を停止する。ただし、各学部・学科及びコースは、当該学部・学科及びコースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表IIの各学部教育課程表は、2008年度第1年次入学生から適用し、2007年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Iに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2008年度入学生に適用する。2007年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2009年4月1日から施行する。
- 2 第7条は、心理学部心理学科の設置及びそれにとりなう文学部心理学科の廃止により、改正・施行する。

第16条は、心理学部心理学科の設置及びそれにとりなう文学部心理学科の廃止並びに学部・学科の収容定員変更により改正・施行する。

なお、文学部心理学科は、2009年度より学生募集を停止する。ただし、文学部心理学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表IIの各学部教育課程表は、2009年度第1年次入学生から適用し、2008年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Iに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2009年度入学生に適用する。2008年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2010年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表IIの各学部教育課程表は、2010年度第1年次入学生から適用し、2009年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

- 3 第38条第1項の別表Iに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2010年度入学生に適用する。2009年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2011年4月1日から施行する。
- 2 第7条及び第16条は、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科の設置により、改正・施行する。
- 3 第8条の別表IIの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2011年度第1年次入学生から適用し、2010年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2012年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表IIの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2012年度第1年次入学生から適用し、2011年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2013年4月1日から施行する。
- 2 第7条は、グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。

第16条は、学部・学科の収容定員変更、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止並びにグローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。

なお、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースは、2013年度より学生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表IIの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2013年度第1年次入学生から適用し、2012年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2014年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表IIの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2014年度第1年次入学生から適用し、2013年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2015年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表IIの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2015年度第1年次入学生から適用し、2014年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Iに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2015年度入学生に適用する。2014年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2016年4月1日から施行する。
- 2 留学生別科は、2016年度より学生募集を停止する。ただし、当該組織に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。
- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2016年度第1年次入学生から適用し、2015年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課定表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2016年度入学生に適用する。2015年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2017年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2017年度第1年次入学生から適用し、2016年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2017年度入学生に適用する。2016年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2018年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2018年度第1年次入学生から適用し、2017年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2018年度入学生に適用する。2017年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2019年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2019年度第1年次入学生から適用し、2018年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2019年度入学生に適用する。2018年度以前の入学生については、従前の学費による。
なお、再入学生の入学金に関する規定のただし書きについては、2020年4月1日以降に再入学する学生に適用する。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、特別在籍料については、2019年4月1日以降に派遣を決定する学生に適用する。

附 則

- 1 この学則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 第7条及び第16条は、理工学部エネルギー機械工学科の名称変更により改正・施行する。
なお、理工学部エネルギー機械工学科は、2020年度より学生募集を停止する。ただし、当該学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する

規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2020年度第1年次入学生から適用し、2019年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2020年度入学生に適用する。2019年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2021年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2021年度第1年次入学生から適用し、2020年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2022年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2022年度第1年次入学生から適用し、2021年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第26条に規定する連帯保証人は、2022年度第1年次入学生から適用し、2021年度以前の入学生については、従前の規程による。

附 則

- 1 この学則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2023年度第1年次入学生から適用し、2022年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第26条第2項に規定する極度額は、2023年度第1年次入学生から適用する。2022年度の入学生については、従前の規定による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2023年度入学生に適用する。2022年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2024年4月1日から施行する。
- 2 第7条の14は、国際教養教育院の設置並びにこれに伴う第7条の7に定める日本語・日本文化教育センター及び第7条の12に定めるグローバル教育センターの廃止により、改正・施行する。なお、日本語・日本文化教育センター及びグローバル教育センターは、2024年度より学生の新規受入れを停止する。ただし、日本語・日本文化教育センター及びグローバル教育センターは、当該センターに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。
- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2024年度第1年次入学生から適用し、2023年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2024年度入学生に適用する。2023年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- この学則は、2025年4月1日から施行する。
- 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2025年度第1年次入学生から適用し、2024年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

- 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2025年度入学生に適用する。2024年度以前の入学生については、従前の学費による。

別表Ⅰ 学 費

入学金、授業料及び教育充実費

(年額)

| | | 入 学 金 | 授 業 料 | 教 育 充 実 費 |
|----------------------------------------------------------------------------------|------|----------|------------|-----------|
| 神 学 部 文 学 部 社 会 学 部 法 学 部 経 済 学 部 商 学 部 政 策 学 部 グローバル地域文化学部 | 第1年次 | 200,000円 | 783,000円 | 165,000円 |
| | 第2年次 | | 983,000円 | 165,000円 |
| | 第3年次 | | 983,000円 | 165,000円 |
| | 第4年次 | | 983,000円 | 165,000円 |
| 文化情報学部 | 第1年次 | 200,000円 | 895,000円 | 178,000円 |
| | 第2年次 | | 1,095,000円 | 178,000円 |
| | 第3年次 | | 1,095,000円 | 178,000円 |
| | 第4年次 | | 1,095,000円 | 178,000円 |
| 理 工 学 部 (数理システム 学科を除く) 生命医科学部 | 第1年次 | 200,000円 | 1,292,000円 | 249,000円 |
| | 第2年次 | | 1,492,000円 | 249,000円 |
| | 第3年次 | | 1,492,000円 | 249,000円 |
| | 第4年次 | | 1,492,000円 | 249,000円 |
| 理 工 学 部 (数理システム 学科) | 第1年次 | 200,000円 | 1,215,000円 | 249,000円 |
| | 第2年次 | | 1,415,000円 | 249,000円 |
| | 第3年次 | | 1,415,000円 | 249,000円 |
| | 第4年次 | | 1,415,000円 | 249,000円 |
| ス ポ ー ツ 健 康 科 学 部 | 第1年次 | 200,000円 | 928,000円 | 178,000円 |
| | 第2年次 | | 1,128,000円 | 178,000円 |
| | 第3年次 | | 1,128,000円 | 178,000円 |
| | 第4年次 | | 1,128,000円 | 178,000円 |
| 心 理 学 部 | 第1年次 | 200,000円 | 946,000円 | 186,000円 |
| | 第2年次 | | 1,146,000円 | 186,000円 |
| | 第3年次 | | 1,146,000円 | 186,000円 |
| | 第4年次 | | 1,146,000円 | 186,000円 |
| グ ローバル・ コ ミュニケー シ ョ ン 学 部 | 第1年次 | 200,000円 | 896,000円 | 186,000円 |
| | 第2年次 | | 1,096,000円 | 186,000円 |
| | 第3年次 | | 1,096,000円 | 186,000円 |
| | 第4年次 | | 1,096,000円 | 186,000円 |

- 授業料及び教育充実費については、各々2分の1を春学期学費及び秋学期学費とする。
- 4年を超えて在籍した場合（再修生）の学費は、第4年次の学費を適用する。
- 転入学生及び編入学生の入学金は、200,000円とし、授業料及び教育充実費は、転入学又は編入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、本学卒業生に限り、入学金は2分の1とする。
- 再入学生の入学金は、100,000円とし、授業料及び教育充実費は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、学費未納により学年末をもって除籍された者が翌年度4月30日までに再入学手続をする場合及び春学期末をもって除籍された者が次の秋学期10月31日までに再入学手続をする場合の入学金は、50,000円とする。

| | |
|--------------------------|----------|
| ダブルディグリープログラム による留学期間 | 特別在籍料 |
| 1 年 | 300,000円 |
| 1 学期 | 150,000円 |

休学在籍料

| | |
|---------|----------|
| 休 学 期 間 | 休学在籍料 |
| 1 年 | 120,000円 |
| 半 年 | 60,000円 |

- 母国における兵役義務による休学が認められた者は、休学在籍料の納入を要しない。

別表 I の 2 履修料

| | | |
|-------------------|----------------------------------|---------|
| 履修登録料 | 全 学 部 | 25,000円 |
| 履 修 料 (1単位につき) | 神、文、社会、法、経済、商、 政策、グローバル地域文化学部 | 22,000円 |
| | 文化情報、スポーツ健康科学部 | 23,000円 |
| | 理工、生命医科学部 | 31,000円 |
| | 心理、グローバル・コミュニケーション学部 | 25,000円 |

- (1) 履修料の総額が当該年度の第1年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超える場合は、その額にとどめる。
- (2) 本学出身者及び前年度から継続の履修生の履修登録料は、2分の1とする。
- (3) 学期をまたがって履修する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。
- (4) 複数の学部併願する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。

別表 I の 3 聴講料

| | | |
|-------------------|----------------------------------|---------|
| 聴講登録料 | 全 学 部 | 25,000円 |
| 聴 講 料 (1単位につき) | 神、文、社会、法、経済、商、 政策、グローバル地域文化学部 | 15,000円 |
| | 文化情報、スポーツ健康科学部 | 15,000円 |
| | 理工、生命医科学部 | 21,000円 |
| | 心理、グローバル・コミュニケーション学部 | 17,000円 |

- (1) 聴講料の総額が当該年度の第1年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超える場合は、その額にとどめる。
- (2) 本学出身者及び前年度から継続の聴講生の聴講登録料は、2分の1とする。
- (3) 学期をまたがって聴講する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。
- (4) 複数の学部併願する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。

別表 I の 4 外国人留学生（特別学生）入学金及び研修料

| | 入 学 金 | 研 修 料 (年額) | 研 修 料 (年度内の在学期間が 7月以内の場合) |
|-----------------------------------------------------------------|---------|------------|---------------------------------|
| 神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部 政策学部 グローバル地域文化学部 | 25,000円 | 440,000円 | 220,000円 |
| 文化情報学部 スポーツ健康科学部 | 25,000円 | 460,000円 | 230,000円 |
| 理工学部 生命医科学部 | 25,000円 | 620,000円 | 310,000円 |
| 心理学部 グローバル・コミュニケーション学部 | 25,000円 | 500,000円 | 250,000円 |
| 国際教養教育院 | 25,000円 | 666,000円 | 333,500円 |

- (1) 研修料については、2分の1を春学期学費及び秋学期学費とする。
- (2) 特別学生が正規課程に進学した場合、正規課程の入学金は特別学生時の入学金相当額を差し引いた額とする。
- (3) 期間延長者（同志社大学外国人留学生内規第4条第2項該当者）については、重複して入学金を徴収しない。また、研修料は入学年度の額を適用する。
- (4) 秋学期入学者の学費については、入学年度の春学期入学者の学費を適用する。
- (5) 特別学生が、年度内に20単位（国際教養教育院は、30単位）を超えて学科目登録をする場合は、超過する分1単位につき上記入学金及び研修料のほかに、学部授業科目を登録するときは学則別表Iの2に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻を除く大学院授業科目を登録するときは大学院学則別表Iの2に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻授業科目を登録するときは専門職大学院学則別表Iの2に定める履修料相当額を、国際教養教育院科目を登録するときは学則別表Iの2に定める神、文、社会、法、経済、商、政策、グローバル地域文化学部の履修料相当額を研修料として納入すること。
- (6) 研修料の総額が当該年度の第1年次の授業料を超える場合は、その額にとどめる。

(7) 外国の大学の教育計画で在学する特別学生又は本学と特定の外国の大学との協定により在学する特別学生その他特別の事情のある場合は、部長会の審議を経てこの学費を適用しないときがある。

別表Ⅰの５ 入学検定料

| 区 分 | | 金 額 | |
|--------------------------------------------------------------|---------------|--------------------|---------|
| 一般選抜入学試験 推薦入学試験 転入学試験 編入学試験 | | 35,000円 | |
| 大学入学共通テストを利用する 入学試験 | 個別学力検査を課す場合 | 25,000円 | |
| | 個別学力検査を課さない場合 | 15,000円 | |
| アドミッションズオフィスによる入学者選抜 | | 第1次審査 | 25,000円 |
| | | 第2次審査 | 10,000円 |
| 推薦選抜入学試験 自己推薦入学試験 その他特別入学試験 | | 35,000円 | |
| 推薦選抜入学試験における二段階選考 自己推薦入学試験における二段階選考 その他特別入学試験における二段階選考 | | 第1次選考 | 10,000円 |
| | | 第2次選考 | 25,000円 |
| 外国人留学生入学試験 その他外国人留学生特別入学試験 外国人留学生転入学試験 外国人留学生編入学試験 | | 書類選考および学部独自試験を課す場合 | 15,000円 |
| | | 書類選考のみの場合 | 10,000円 |
| グローバル・コミュニケーション学部 (日本語コース) 入学試験 | | 書類選考および学部独自試験を課す場合 | 15,000円 |
| | | 書類選考のみの場合 | 10,000円 |
| 国際教育インスティテュート（国際教養コース）入学試験 | | 15,000円 | |

別表Ⅱ 各学部人材養成目的及び教育課程表（省略）

学 部 一 般 内 規

(2024 年 4 月 1 日改正)

学 年 暦

別に定める「学年暦」は、年間の行事を示し特別の通知・掲示がない限り、このとおり行われる。行事の詳細については、その都度指示する。

学 籍 番 号

- 1 学生には、入学と同時に学籍番号が付与され、在学する期間を通じて変わらない。
- 2 第2年次転入学生及び編入学生には、第2年次生の入学年度を冠した学籍番号が付与される。
- 3 第3年次転入学生及び編入学生には、第3年次生の入学年度を冠した学籍番号が付与される。
- 4 再入学生には、再入学を許可された年次に該当する入学年度を冠した学籍番号が付与される。

学 生 証

- 1 学生証は、本学の学生であることを証明するもので、常に携帯しなければならない。
- 2 学生証は、卒業、退学及び除籍の場合は、直ちに返納しなければならない。
- 3 学生証を紛失したときは、直ちに届け出て再交付を受けなければならない。ただし、別に定める手数料を納入することを要する。
- 4 学生証は、他人に貸与又は譲渡してはならない。

履 修 科 目 の 登 録

- 1 履修する科目は、学年暦に定められた期間に登録しなければならない。ただし、在学留学が認められた場合は、これによらないことがある。
- 2 合格となった科目は、再度登録履修することはできない。
- 3 各年次で登録履修できる単位数は、春学期及び秋学期合計50単位に満たない範囲内において学部の定めるところによる。
- 4 前項の規定にかかわらず、転入学生及び編入学生の登録履修できる最高単位数は、学部の定めるところによる。

成 績 評 価

- 1 成績評価は、学年暦に定められた期間に実施される期末試験、期末試験以外の評価に基づき、多面的に行われる。
- 2 成績は、成績原簿に記録される。
- 3 不合格となった科目を再履修し、合格となった場合は、直近の不合格の評価のみ改変される。

期 末 試 験

- 1 受験上の注意
 - (1) 学費未納のままでは受験できない。
 - (2) 未登録の授業科目は、受験できない。
 - (3) 授業日数の3分の2以上の出席がない場合は、科目担当者の判断によって、受験資格を取り消すことがある。
 - (4) 試験には、必ず学生証を持参しなければならない。
 - (5) 試験に15分以上遅刻した者は、受験を許さない。また、試験開始後30分経過するまでは退室できない。
 - (6) 試験にかかる不正行為があつて、当該学部教授会がそれを認定した場合は、その試験が実施された学期中の全科目を不合格とし、これを公表する。ただし、当該学部が定める科目については除く。
 - (7) その他試験に関する注意事項等は別に定める。
 - (8) 上記(1)から(7)の注意事項は期末試験以外の評価に適用することがある。

2 追 試 験

- (1) 病気又はやむを得ない事由のために、期末試験又は学部教授会が認める期末試験以外の評価を受けることができなかった者に追試験を行うことがある。やむを得ない事由は別に定める。
- (2) 受験希望者は、追試験願を、当該科目試験日の翌日から起算して3日以内に提出しなければならない。ただし、課外活動のため受験できない場合、追試験願は事前に提出し承認を受けなければならない。
- (3) 追試験願には、当該試験を受験できなかった事由を証明する書類を添付しなければならない。必要な証明書類は別に定める。
- (4) 追試験ごとに1,000円の追試験料を納入しなければならない。

届 書 ・ 願 書

届書及び願書には、次のようなものがある。

1 届 書

- (1) 欠 席 届 授業科目担当者名明記、理由書（診断書等）添付のこと。
- (2) 改 姓(名)届 戸籍抄本添付のこと。
- (3) 性 別 変 更 届 戸籍抄本添付のこと。
- (4) 住 所 変 更 届
- (5) 連 帯 保 証 人 変 更 届 新旧連帯保証人併記のこと。

2 願 書

- (1) 休 学 願 理由記載、適宜証明書類添付のこと。
- (2) 退 学 願 理由記載のこと。
- (3) 再 入 学 願 理由記載のこと。
- (4) 通称名使用願 診断書添付のこと。

- (5) 旧姓名使用願 戸籍抄本等、旧姓名を確認できる証明書類添付のこと。
- (6) 在学留学願 留学する大学の入学許可書添付のこと。
- (7) 転学部・転学科願 理由記載のこと。
- (8) 追試験願 理由及び受験科目名記載のこと。

以上の各種届書及び願書は、所定様式により提出する。必要によっては、当該学部教授会の審議を経て処理される。

教室使用願、物品使用願等は、願い出責任者を明記のうえ、教育支援機構教務部に提出すること。

再入学

- 1 退学日又は除籍日から5年以内は、当該学部教授会の審議を経て、再入学を許可する。5年を経過したときは、試験のうえ、教授会の判定によって再入学を許可する。
- 2 再入学の時期は、学期の始めとする。
- 3 再入学を許可する学部・学科等は、退学又は除籍時の学部・学科等とする。ただし、退学又は除籍時の学部・学科等が存在しない場合及び学生募集が停止されている場合は、当該学生の再入学願を審議する学部教授会は、学長が指定する。
- 4 再入学を許可する年次、修業年限及び在学年限は、再入学前に在籍していた期間により定める。
- 5 再入学生の教育課程は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同様とする。

転学部・転学科

- 1 転学部及び転学科は、やむを得ない事情の生じた場合に限り、第2年次から第3年次に進むとき、関係学部教授会の審議を経て許可することがある。なお、学部教授会が特に必要と認めた場合は、第1年次から第2年次に進むときも当該学部内において転学科を許可することがある。
- 2 いったん転学部・転学科を許可した学生の再転学部・転学科は認めない。
- 3 転学部・転学科願書の受付期限は秋学期講義最終日とし、許可決定の時期は、当該年度の終わりとする。

学士入学

学士入学は、転入学・編入学試験を受けなければならない。ただし、本学卒業生は、同一学部学科への学士入学は認められない。

免許資格課程登録料

免許資格課程を登録する者は、次の各号の免許資格課程登録料を納入しなければならない。

- (1) 教職課程 30,000円
- (2) 博物館学芸員課程 10,000円
- (3) 図書館司書課程 10,000円

- 2 免許資格課程登録料の詳細は、別に定める。

教育実習費

教育実習を登録する者は、登録と同時に実習費を納めなければならない。

諸会費

本学が代理徴収を行う学会、父母会及び卒業生団体の諸会費は、所定の期日までに納入しなければならない。

定期健康診断

学生は、毎年、学期始めに行う定期健康診断を必ず受けなければならない。疾病その他やむを得ない理由によって定期健康診断を受けることができなかった者は、その理由のなくなった後、速やかに受けなければならない。

附則

この内規は、2024年4月1日から施行する。

外国留学に関する諸規程

外国の大学に留学する学生の取扱いに関する内規

(設置)

第1条 本学の学部又は大学院の学生が、本学の教育課程の一環として学則第27条の2、大学院学則第20条の2、専門職大学院学則第29条又は法科大学院学則第15条により留学する場合は、この内規の定めるところによる。

(教育機関の定義)

第2条 この内規にいう外国の大学とは、外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの、又はこれに相当する教育機関をいう。

2 外国の大学の調査認定は、学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会が行う。

(留学の定義)

第3条 この内規にいう留学とは、本学の許可を受けて外国の大学に在学し、科目を履修し、又は研究指導を受けることをいう。

(条件)

第4条 この内規の適用を受けて留学する学生は、次の要件を満たさなければならない。ただし、大学院学生には適用しない。

- (1) 本学に1年以上在学していること。
 - (2) 30単位以上修得していること。
- 2 前項第2号は、当該学部教授会の認める特別の事情がある場合には、適用しない。

(学籍)

第5条 この内規の適用を受けて留学する学生の本学学籍上の取扱いは、在学留学とし、休学としない。ただし、学生が休学を認められ、外国の大学で学修する場合は、この内規は適用しない。

(期間)

第6条 在学中に留学できる期間は、1年以内とする。在学留学期間の算定は、留学先大学の別にかかわらず、当該教育課程における在学留学期間の通算にて行う。

2 当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の認める特別の事情がある場合は、1年間を限度として、在学留学期間の延長を許可する。

(履修)

第7条 留学する大学での履修については、留学前に留学する大学の授業科目を検討した上、当該学部又は研究科の指導を受けなければならない。

(学生納付金)

第8条 この内規の適用を受けて留学する学生は、留学中所定の学生納付金を納入しなければならない。

(手続)

第9条 外国の大学に留学する学生で、この内規の適用を希望する場合は、在学留学願を当該学部長又は研究科長を通じて学長に提出するものとする。

2 出発・帰国に際しては、留学出発・帰国届を当該学部長又は研究科長を経て、学長に提出しなければならない。

3 在学留学期間の延長を願ひ出る場合は、在学留学延長願を当該学部長又は研究科長を通じて、学長に提出するものとする。

(単位認定)

第10条 単位認定を受けようとする者は、帰国後速やかに、次に掲げる必要書類（留学した大学の発行するもの）を添付した取得単位認定願を、当該学部長又は研究科長に提出するものとする。

- (1) 成績証明書（時間数、単位数、科目名を明記したもの）
- (2) 指導教員又はこれに準ずる教員の所見を記したもの
- (3) 受講した科目の内容を説明した教授細目
- (4) 大学履修要項

2 当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会は、関係機関と協議の上審議し、留学した大学での取得単位を学則の定めるところにより認定することができる。

(帰国後の登録及び履修)

第11条 留学した学生の帰国直後の春学期又は秋学期における登録及び履修については、当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会が出国時までの履修状況等を勘案し、特別の措置を講ずることがある。なお、設置科目によっては関係機関との協議を必要とする。

(事務)

第12条 この内規に関する事務は、国際連携推進機構国際センター国際課が取り扱う。

(改廃)

第13条 この内規の改廃は、教務〔国際〕主任会議及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、2015年4月1日から施行する。

同志社大学外国協定大学派遣留学生に関する内規

(目的)

第1条 この内規は、同志社大学外国協定大学派遣留学生制度を設け、本学の外国協定大学に学生を派遣し、もって本学建学の精神である国際主義を体得した学生を養成することを目的とする。

(定義)

第2条 この制度による外国協定大学派遣留学生とは、本学と外国の大学との大学間協定に基づき、学長の推薦により、外国の大学に留学する学生をいう。

(取扱い)

第3条 外国協定大学派遣留学生として留学をする場合は、この内規によるほか、「外国の大学に留学する学生の取扱いに関する内規」の定めるところによる。

(出願条件)

第4条 外国協定大学派遣留学生として出願できる学生は、学力、人物共に優秀で本制度の趣旨をよく理解し、留学年度の4月1日現在、学部2年次生以上の者又は大学院に在学中の者とする。

(義務)

第5条 外国協定大学派遣留学生として留学を希望する学生は、募集要項に定める出願書類を指定された期日までに提出しなければならない。

(推薦方法)

第6条 外国協定大学派遣留学生は、学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の推薦に基づき、教務〔国際〕主任会議の審議を経て、学長が候補者を決定し、留学先大学に推薦する。

(候補者の決定)

第7条 外国協定大学派遣留学生の最終決定は、留学先大学による当該留学生の受入れ決定に基づき、学長がこれを行う。

(留学期間)

第8条 留学期間は、留学先大学の正規の1年以内とする。ただし、当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の認める特別の事情がある場合は、教務〔国際〕主任会議の審議を経て、学長が外国協定大学への在学留学期間の延長を認めることがある。

(事務)

第9条 この内規に関する事務は、国際連携推進機構国際センター国際課が取り扱う。

(改廃)

第10条 この内規の改廃は、教務〔国際〕主任会議及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、2015年4月1日から施行する。

学業履修について

本学のカリキュラム（教育課程）は、各学部・学科の教育上の目的を達成するために、学部ごとに定められています。本学において卒業するためには、所定の単位を修得し、この課程を修めなければなりません。

各学部のカリキュラムに定める授業科目の登録・履修にあたっての詳細な説明・手続については、本要項および各学部ごとに作成されている『登録要領』を参照してください。なお、各授業科目の内容については『シラバス』を参照してください。

障がいのある学生への受講に対する配慮

身体、精神・発達等に障がいのある学生が、他の学生と等しい条件のもとで科目を受講できるよう、「合理的配慮」について検討します。

合理的配慮を希望される場合は、スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室（SDA室）までご相談ください。

単位制

単位制とは、各学部ごとに定められた授業科目を登録・履修し、試験に合格することによりそれぞれの授業科目の所定の単位を得、修業年限中に卒業に必要な単位数を修得していく制度です。

現在の我が国の大学制度は単位制度を基本としており、下記に記載している学則のとおり、1単位は、教室等での授業時間と準備学習や復習の時間を合わせて標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。授業だけでなく、準備学習や復習の時間の重要性をよく理解しておくようにしてください。

卒業必要単位数は学部によって異なるので、所属学部の欄を参照してください。学部授業科目の単位数の計算は、次の基準によります（学則第9条3項4項）。

3 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、実技等については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める。

4 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

また、本学では、文部科学省令である大学設置基準や文部科学省通知に基づき、同志社大学学則第9条の5において、多様なメディアを高度に利用して教室等以外の場所で履修させる授業（遠隔授業）により修得する単位は、各学部における卒業に必要な単位数から64単位を除いた単位数を上限として、卒業に必要な単位とすることができるものと定めています。シラバス等で表示される「学則第9条の5対象科目」の修得単位数の合計に留意して、履修計画を立てる必要があります（学則第9条の5）。

授業時間

本学における授業時間は1講時について90分とし、これを2時間と計算しています。例えば、「春学期・週2時間」とは、春学期期間中に90分の授業が週1回行われるということであり、「秋学期・週4時間」とは、秋学期期間中に90分の授業が週2回行われるということです。

| 講時 | 授業時間 |
|----|-------------|
| 1 | 9:00～10:30 |
| 2 | 10:45～12:15 |
| 3 | 13:10～14:40 |
| 4 | 14:55～16:25 |
| 5 | 16:40～18:10 |
| 6 | 18:25～19:55 |
| 7 | 20:10～21:40 |

休講

授業は、学年暦によって行われますが、担当者の公務、出張、学会、病気などによって休講となる場合もあります。休講に関する情報は本学学修支援システムDUET（以下DUETという）で確認することができます。急な休講や休講取消もありますので、DUETを適宜確認するようにしてください。なお、休講情報もなく、講義が始まらない場合は各キャンパスの教務センターへ申し出て、確かめるようにしてください。

補講

補講に関する情報は、DUETで確認することができます。日時、教室などをよく確認して受講してください。

集中講義

科目によっては、特定期間内に集中して行う講義（集中講義）があります。

授業教室

(1) 学部授業時間割表は、科目登録・履修に必要な書類とともに、各自に配付されますが、それ以後の教室変更などは、DUETでお知らせしますので、よく注意してください。なお、秋学期開講科目の学部授業時間割表は、9月中旬にあらためて公開、配付します。

(2) 開講当初の授業教室は、学部授業時間割表に記載しています。授業教室は登録者数の増減により変更することがありますので、DUETで変更教室を確認のうえ、授業に出席してください。

(3) 授業教室名はすべて略号と教室番号で記載されています（次頁表）。例えば、京田辺校地の場合「1-201」は知真館1号館201番教室（2階）、「KD202」は恵道館202番教室（2階）を、また、今出川校地の場合「Z地1（ZB1）」は尋真館地下1番教室（地階）、「S32」は至誠館32番教室（3階）を表すものです。

(4) 授業教室は、臨時に変更することがあります。この場合は「臨時教室変更」としてDUETでお知らせしますので、その講時のみ変更された教室で受講してください。

【京田辺キャンパス】

| 略号 | 館名 |
|--------|----------------|
| (TC) 1 | 知真館1号館 |
| (TC) 2 | 知真館2号館 |
| (TC) 3 | 知真館3号館 |
| KD | 恵道館 |
| TS | 頌真館 |
| MK | 夢告館 |
| JM | 情報メディア館 |
| RM | ローム記念館 |
| KR | 交隣館 |
| RG | 理化学館 |
| IN | 医心館 |
| YE | 有徳館西館 |
| YM | 有徳館東館 |
| SC | 至心館 |
| KC | 香知館 |
| HS | 報辰館 |
| SO | 創考館 |
| CG | 知源館 |
| SJ | 知証館南館 心理学実験室 |
| D | 知証館南館 電気系実験実習棟 |
| IJ | 知証館北館 機械系実験実習棟 |
| MS1 | 知証館北館 機械実習工場 |
| MS2 | 実習工場別棟 |
| HC | 訪知館 |
| BJ | 磐上館 |
| KHH | 香柏館高層棟 |
| KHL | 香柏館低層棟 |
| DV | デイヴィス記念館 |
| TW | 体育シャワー棟 |

【今出川キャンパス】

| | |
|----|---------|
| N | 寧静館 |
| M | 明德館 |
| S | 至誠館 |
| K | 弘風館 |
| G | 神学館 |
| F | 扶桑館 |
| CL | クラーク記念館 |
| H | 博遠館 |
| T | 徳照館 |
| KE | 光塩館 |
| RY | 良心館 |

【新町キャンパス】

| | |
|----|-----|
| Z | 尋真館 |
| R | 臨光館 |
| SS | 新創館 |
| KS | 溪水館 |

【烏丸キャンパス】

| | |
|----|-----|
| SK | 志高館 |
|----|-----|

【室町キャンパス】

| | |
|-----|-----|
| KMB | 寒梅館 |
|-----|-----|

【大阪サテライト】

| | |
|----|---------|
| OS | 大阪サテライト |
|----|---------|

情報教室（京田辺キャンパス）

| 略称 | 教室名 | 館名 |
|-----------|-------------------|-----------|
| JM101 | 情報メディア館演習室1 | 情報メディア館1階 |
| JM102A~C | 情報メディア館情報道場1~3 | 情報メディア館1階 |
| JM201~206 | 情報メディア館201~206番教室 | 情報メディア館2階 |
| JM301~306 | 情報メディア館301~306番教室 | 情報メディア館3階 |
| JM402~406 | 情報メディア館402~406番教室 | 情報メディア館4階 |
| TS101・102 | 頌真館101・102番教室 | 頌真館1階 |
| TS202 | 頌真館202番教室 | 頌真館2階 |

情報教室（今出川キャンパス）

| | | |
|-----------|----------------|-------|
| K21・22・25 | 弘風館21・22・25番教室 | 弘風館2階 |
| RY307~315 | 良心館307~315番教室 | 良心館3階 |

情報教室（新町キャンパス）

| | | |
|----------|---------------|-------|
| R303・304 | 臨光館303・304番教室 | 臨光館3階 |
|----------|---------------|-------|

情報教室（烏丸キャンパス）

| | | |
|---------|---------------|-------|
| SK地1・地9 | 志高館地下1・地下9番教室 | 志高館地階 |
|---------|---------------|-------|

| | |
|-----|-----|
| KSR | 継志寮 |
|-----|-----|

授業の録音・録画等について

科目担当者が事前に許可した場合を除き、次の行為を禁止します。

- (1)授業の撮影（黒板・スクリーン等の撮影を含む）
- (2)授業の録音・録画
- (3)授業において配付した資料の複写
- (4)視聴のためにサーバ等に保存した授業動画のダウンロード
- (5)上記(1)~(4)により取得したものの第三者への譲渡・公開等

成績評価の方法について

本学の成績評価は、期末試験、期末試験以外の評価により、多面的に行います。

1. 期末試験

各学期末の定められた期間に行われる試験を期末試験といいます。期末試験は教室で行われるものとレポートを含みます。

2. 期末試験以外の評価

期末試験以外の評価の方法には、レポート、小テスト、オンラインテスト、平常点等が含まれます。期末試験以外の評価は授業内で実施されるものだけでなく、授業時間外に取り組み課題も含まれます。

3. 追試験

病気またはやむを得ない理由のために、期末試験または学部教授会が認める期末試験以外の評価を受けることができなかった場合に限り行われる試験を追試験といいます。受験希望者は以下の点に注意してください。

- a. 当該科目の試験日の翌日から起算して3日以内（窓口業務休止日を除く）に、追試験願を所属学部・研究科窓口へ提出しなければならない。ただし、課外活動のために受験できない場合、追試験願は事前に提出し承認を受けなければならない。
- b. 追試験願には、当該試験を受験できなかった事由を証明する以下の書類を添付しなければならない。
- c. 追試験ごとに1,000円の追試験料を必要とする。ただし、裁判員制度および検察審査会制度を事由とする追試験については、追試験料を免除する。なお、追試験を未受験であった場合でも追試験料は返還しない。
- d. 追試験は通常の試験と同等に評価される。減点はされない。
- e. レポートは追試験の対象にはならないが、提出締切日・時間に突発的な事故等やむを得ない事由により、提出締切時間に間に合わなくなった場合は、必ず提出締切時間までに提出先に連絡を取り、指示を受けること。
- f. 追試験も何らかの事情により受験できなかった場合には、これに対する追試験は実施しない。

| 対象事事例 | 必要な証明書類 |
|-----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 本人の病気、怪我 | 医師の診断書（試験当日安静が必要である旨の記載が必要） 学校感染症の場合は、大学所定の『学校において予防すべき感染症』罹患証明書』でも可 |
| 親族（2親等内）の死亡 （適用期間は次のとおりとする。 ・死亡日を1日目とした7日以内。 ・死亡前日を1日目として遡った3日以内。） | 死亡診断書、会葬案内等 |
| 教育実習 | 免許資格課程センター事務室の証明書 |
| 介護等体験 | 免許資格課程センター事務室の証明書 |
| 館園実習 | 免許資格課程センター事務室の証明書 |
| 社会福祉援助、精神保健福祉援助に関する実習 | 社会学部・社会学研究科事務室の証明書 |
| 公認心理師に係る心理実習 | 心理学部・心理学研究科事務室の証明書 |
| 就職試験 （採用に聞かないインターンシップや説明会等は除く。） | 企業等が発行する就職(採用)試験受験証明書(注) (大学所定用紙あり) |
| 大学院入学試験 | 当該大学院が発行する受験証明書 |
| 正課科目のインターンシップ | キャリアセンター、または大学コンソーシアム京都が発行する証明書 |
| 大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目の定期試験 | 当該科目設置大学が発行する受験証明書 |
| 国家試験 | 当該試験の受験票 |
| 課外活動 | 事前届出に基づく学生支援センターの証明書 |
| 災害 | 被災証明書 |
| 路線の遅延、不通 （通学証明書に記載された通学区間における路線の15分以上の延着の場合に限る。） | 交通機関が発行する延着証明書 |
| 裁判員制度 ・裁判員候補者として裁判員等選任手続に参加 ・裁判員、補充裁判員として職務に従事 | 裁判所が発行する証明書 |
| 検察審査会制度 ・検察審査員、補充員として職務に従事 | 検察審査会事務局が発行する証明書 |

(注) 対象事由が発生した場合は、企業等に証明書の作成を依頼してください。依頼にあたり不明点等ある場合は、キャリアセンターに問い合わせてください。

4. 期末試験に関する注意事項

受験上の注意

- (1) 受験のためには次の条件を備えていることが必要です。
- 有効な登録がなされた科目であること。
 - 学費納入が済んでいること。
 - 科目担当者の指定する条件を備えていること。なお、授業日数の3分の2以上の出席がない場合は、科目担当者の判断によって、受験資格を取消することがある。
- (2) 試験場においては次のことを守らなければなりません。
- 指定された試験場で受験すること。
 - 必ず学生証を持参し、机上に提示すること。万一、持参しなかった場合は、その試験の始まる前に証明書自動発行機(発行手数料100円)で仮学生証を発行すること。
 - 持込みを許された物以外はすべて鞆・袋などに入れること。なお、携帯電話(スマートフォンを含む)、パソコン(モバイルPC等を含む)、タブレット端末、スマートウォッチ等の通信機器、携帯音楽プレーヤー等の携帯型録音再生機器等(以下「携帯機器類」という。)については、電源を切って鞆や袋などに入しうこと(携帯機器類は時計代わりの使用も認めない)。
 - 試験開始より15分以上遅刻したものは受験できない。また、試験開始後30分を経過するまでは退室できない。
 - 受験者は学生証と答案用紙の氏名との照合確認を受けること。
 - 答案用紙の学生ID、氏名は必ずペン書とする。
 - 試験を放棄する場合も答案用紙に学生ID、氏名を記入して提出すること。答案用紙を持ち帰ってはならない。
 - その他すべて試験監督者の指示に従うこと。
- (3) 次の場合には、その答案は無効とみなされることがあります。
- 無記名の場合。
 - 指定された試験場で受験しなかった場合。
 - 氏名を訂正した場合。
- (4) 次の行為は、不正行為として取り扱います。
- 本人以外の者が、本人になりすまして試験を受けること。
 - 試験を受験するにあたって、机上や衣服、身体等に書き込みをすること。
 - 試験を受験するにあたって、持ち込みや使用を認められたものに書き込みをする等、本来の使用目的と異なる使い方をすること。
 - 試験時間中に、カンニングペーパー類や持ち込みを許可されていない参考書・ノート類を持ち込んだり、他の受験生の答案を見ること、他の人から答えを教わること。
 - 試験時間中に、答えを教える等の他の受験生を利するような行為をすること。
 - 答案用紙配付から回収までの私語や答案の見せ合い、交換をすること。
 - その他、試験監督者の指示に従わないこと。
- (5) 次の行為は、不正行為として取り扱う場合があります。
- 試験時間中に、使用を認められていない器具を使用して解答すること。

| 講時 | 試験時間 |
|----|-------------|
| 1 | 9:20~10:30 |
| 2 | 11:00~12:10 |
| 3 | 13:25~14:35 |
| 4 | 15:05~16:15 |
| 5 | 16:45~17:55 |
| 6 | 18:25~19:35 |
| 7 | 20:05~21:15 |

窓口受付時間(開講期間)

| | 月~金曜日 | 土曜日 | |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 今 出 川 ※ | 今出川キャンパス教務センター 文学部、法学部、経済学部、今出川校地教務課、 免許資格課程センター事務局、 全学共通教養教育センター事務局 | 9:00~11:30 12:30~17:00 総合窓口 8:40~17:00 | 総合窓口のみ 8:40~11:30 12:30~17:00 |
| | 新町総合窓口 社会学部事務局、政策学部事務局 | 9:00~11:30 12:30~17:00 総合窓口 8:40~17:00 | |
| | 神学部事務局 | 9:00~11:30 12:30~17:00 | 閉室 |
| | 商学部事務局 | 9:00~11:30 12:30~17:00 | |
| | グローバル地域文化学部事務局 | 9:00~11:30 12:30~17:00 | |
| 京 田 辺 ※ | 国際教育インスティテュート事務局 国際教養教育院事務局 | 9:00~11:30 12:30~17:00 | 閉室 |
| | 京田辺キャンパス教務センター 生命医科学部、スポーツ健康科学部、心理学部、 グローバル・コミュニケーション学部、 免許資格課程センター事務局、京田辺校地教務課 | 9:00~11:30 12:30~17:00 総合窓口 9:00~17:00 | 閉室 |
| | 文化情報学部事務局 理工学部事務局 | 9:00~11:30 12:30~17:00 | 閉室 |

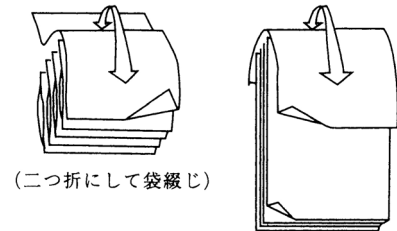
登録期間、休暇期間は受付時間が変わります。窓口受付時間が変更になる場合は、大学HP、掲示等によってお知らせします。
※ 教務センターの総合窓口では、一般的な質問の受付等を行います。

- 試験監督者の試験開始の指示の前に解答を始めること。
 - 試験監督者の試験終了の指示の後に、筆記用具や消しゴムを持ち続けていたり、解答を続けていたりすること。
 - 試験場において、他の受験生の迷惑となる行為をすること。
 - 試験時間中に、携帯電話(スマートフォンを含む)、パソコン(モバイルPC等を含む)、タブレット端末、スマートウォッチ等の通信機能を有する機器、携帯音楽プレーヤー等の携帯型録音再生機器等(以下「携帯機器類」という。)を身に付けていたり、指示された以外の場所・状態で保管していること。
 - 試験時間中に、携帯機器類・時計等の音(着信、アラーム、振動音等)を鳴らすこと。
 - その他、試験の公平性を損なう行為をすること。
- (6) 上記の(4)または(5)に該当する行為があって、当該学部教授会がそれを不正行為と認定した場合は、その試験が実施された学期中の全科目を不合格(2004年度生以降)または0点(2003年度生以前)とし、これを公表します(ただし、当該教授会が定める科目については除く)。

期末試験として実施するレポートの注意

- (1) レポート提出時は、次のことに注意すること。
- レポートには所定の表紙(同志社生協で販売又は、https://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/exam_type.htmlでダウンロード可)を付けること。
 - 表紙およびレポート受領書は、ペン書きのこと。
 - 学生証を持参のうえ、必ず本人が提出すること。郵送は認めない。
 - 提出締切日・時間に遅れたレポートは、受け付けない。ただし、提出締切日の突発的な事故等やむを得ない事由により、提出締切時間に間に合わない場合、必ず提出締切時間までに提出先に連絡を取り指示を受けること。
 - 一度提出したレポートは、提出締切日前であっても加筆・修正はできない。
 - レポート受領書は、評価が出るまで大切に保管すること。

〈見本〉 原稿用紙 レポート用紙



- (2) レポートに関する不正行為について。

- 次のようなレポートの不正作成は、教室で行われる試験と同様に不正行為として取扱い、教授会が認定した場合は学部一般内規に従って処分の対象とします。
- レポートの作成にあたって、他人の著作物やWEB上の情報等を参照・引用したにもかかわらず、引用部分の明示や出典の記載もなく、自身で作成したように記述すること。
 - 他人が作成したレポートを自身が作成したものと提出すること。

- c. 他人に依頼し作成させたレポートや電子的なツールやソフト等に指示し生成させたレポートを自身が作成したのとして提出すること。
- d. 他人に依頼されてレポートを作成すること。
- e. 転記目的で他人が作成したレポートの提供を受けること、また自身が作成したレポートを転記目的で他人に提供すること。
- f. その他、レポートの公平性を損なう行為をすること。

5. 期末試験以外の評価について

期末試験以外の評価においても、評価の方法により、上記「4. 期末試験に関する注意事項」が適用されることがある。同様に、上記「3. 追試験」の対象となることもあるので、詳細は所属の学部・研究科事務室窓口に照会すること。

学業成績

成績評価

(1) 2004年度生以降

- a. 学業成績は以下の基準にしたがいA、B、C、D、Fの5段階で評価され、D以上が合格、Fが不合格です。就職用成績証明書等、本学以外で使用するために発行する学業成績証明書には、D以上の評価を得た科目とその成績に加えて、履修した全ての科目のGPA (Grade Point Average) が記載されます。

判定基準

| 評価 | 評点 | 判定内容 |
|----|-----|----------------------|
| A | 4.0 | 特に優れた成績を示した |
| B | 3.0 | 優れた成績を示した |
| C | 2.0 | 妥当と認められる成績を示した |
| D | 1.0 | 合格と認められる最低限度の成績を示した |
| F | 0.0 | 合格と認められるに足る成績を示さなかった |

- b. GPAは、A～Fの段階で評価された全科目の評価を評点を換算して、その単位数で加重平均することによって算出されます。GPAの算出方法は次のとおりです。

$$GPA = \frac{(A) \times 4.0 + (B) \times 3.0 + (C) \times 2.0 + (D) \times 1.0 + (F) \times 0.0}{(A) + (B) + (C) + (D) + (F)}$$

(A～F)はA～Fの評価が付いた科目の単位数の合計

(2) 2003年度生以前

- a. 学業成績の評価は、100点満点で60点以上が合格、それに満たないものは不合格です。ただし、就職用成績証明書等、本学以外で使用するために発行する学業成績証明書には優、良、可(英文の場合はA、B、C)による評価が使用されます。優(A)は100～80点、良(B)は79～70点、可(C)は69～60点です。
- b. 平均点は、合格点に達している科目の得点を、その単位数で加重平均することによって算出されます。加重平均の算出方法は次のとおりです。

$$\text{平均点} = \frac{(\text{各科目の得点} \times \text{単位数}) \text{の合計}}{\text{総単位数}}$$

成績発表

履修科目の成績は、春学期末(9月中旬)と秋学期末(3月中旬)に各自に通知します。それ以前の成績の照会には応じません。

採点質問

成績評価に関する質問や異議申し立てをしたい場合は、定められた成績通知日から1週間以内に、所属の学部・研究科窓口にて採点質問票を提出してください。

不合格科目

(1) 2004年度生以降

F評価であった科目を再び履修してD以上の評価を得た場合は、直近のF評価についてのみGPAに算入されません。

ただし、一部の科目については取扱いが異なる場合がありますので、各学部の配布物等を参照してください。

(2) 2003年度生以前

不合格となった科目を再び履修して合格点を得た場合は、以前の不合格点は合格点に変更されます。

卒業の可否発表

卒業の可否の発表は2月下旬から3月上旬の卒業判定教授会終了後、各学生(父母住所宛)に通知します。それまでは、成績および卒業可否についての問い合わせには一切応じません。

クレーム・コミッティ制度

科目担当者との直接的なコミュニケーションでは解決できない授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、所属の学部・研究科窓口にご相談ください。学部・研究科で相談の内容を確認後、必要に応じて各学部等のクレーム・コミッティが事実関係を調査し、クレームに関わる一連の対応について回答します。

なお、いかなる場合であっても、相談者の学生IDや氏名が科目担当者に明かされることはなく、また相談によって決して不利益を被ることはありません。

欠席届

授業に欠席し、その理由を科目担当者へ伝える場合は、欠席届を利用します。欠席届の用紙は学部・研究科事務室または各キャンパス教務センターで配布していますので、必要事項を記入の上、科目担当者に直接提出してください。なお、欠席届は任意で提出するものですので、届出必要科目は各自で判断してください。

○提出の際の留意点

- ・欠席届は、欠席の事由を科目担当者へ伝える届です。本学には「公欠」の制度はありませんので、「追試験の対象となる事由」に該当する事由か否かにかかわらず、欠席届の取扱い(欠席扱いにしない・する等)は、担当者の判断に委ねられます。
- ・欠席の事由を客観的に証明する書類がある場合は、欠席届に添付して提出してください(コピーでも可)。
例) 病気の場合は「診断書」

※ただし、欠席の事由が以下に該当する場合は、まずそれぞれの窓口に出向いて相談してください。

| 事由 | 相談窓口 |
|--------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 学校感染症罹患による出席停止 | 所属の学部窓口 |
| 免許資格課程が必修としている 正課科目の実習（教育実習、博 物館実習、図書館演習）や介護 等体験に参加 | 免許資格課程センター事務室 （各キャンパス教務センター内） |
| 資格取得に必修となっている 正課科目の実習に参加、など | 当該科目の設置学部・研究科 事務室、所属の学部窓口 |
| 裁判員制度によるもの | 所属の学部窓口 |
| 検察審査会制度によるもの | 所属の学部窓口 |

路線の不通または暴風警報・特別警報発表に伴う 授業・期末試験の実施について

路線が不通の場合や暴風警報、特別警報が発表された場合には、授業および期末試験の実施について以下の措置をとります。

I. 路線が不通の場合

- ・「1. 対象となる路線」の定める条件に合致した場合、発生時の次の講時から授業休講・期末試験中止とします。
- ・開通後は、「2. 開通時刻と授業・期末試験開始講時」により開始講時を決定します。
- ・該当交通機関の事故等による一時的な運転見合わせの場合には、平常どおり授業・期末試験を実施しますのでご注意ください。

1. 対象となる路線

次のイ、ロ、ハのいずれかひとつの条件に合致する場合、発生時の次の講時から授業休講・期末試験中止とします。

[今出川校地]

- イ. 京都市営バスおよび地下鉄が同時に全面不通の場合
- ロ. 次表の a～d の 2 以上が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合

| 路線 | | |
|----|------|-------------------|
| a | 阪急電車 | 京都河原町～大阪梅田間 |
| b | 京阪電車 | 出町柳～淀屋橋間 |
| c | 近鉄電車 | 京都～大阪難波間（大和西大寺経由） |
| d | JR | 神戸～米原間 |

[京田辺校地]

- イ. 京都市営バスおよび地下鉄が同時に全面不通の場合
- ロ. 近鉄電車（京都～大和西大寺間）が全面不通の場合
- ハ. 次表の a～e の 2 以上が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合

| 路線 | | |
|----|------|-------------------|
| a | 阪急電車 | 京都河原町～大阪梅田間 |
| b | 京阪電車 | 出町柳～淀屋橋間 |
| c | 近鉄電車 | 京都～大阪難波間（大和西大寺経由） |
| d | JR | 神戸～米原間 |
| e | JR | 木津～京橋間 |

2. 開通時刻と授業・期末試験開始講時

開通後は、次表の通り、開始講時を決定します。

授業・期末試験開始講時（※期末試験の時間帯は、授業時間と異なりますのでご注意ください。）

| 開通時刻 | 開始講時 |
|-----------------|----------------|
| 6時30分までに開通 | 1講時から実施（平常どおり） |
| 10時40分までに開通 | 3講時から実施 |
| 15時55分までに開通 | 6講時から実施 |
| 15時56分時点で不通が継続中 | 全講時休講 |

※司法研究科の期末試験開始講時は次表の通りとします。

期末試験開始講時

| 開通時刻 | 開始講時 |
|-------------|-----------------------|
| 6時30分までに開通 | 1講時(9時30分)から実施(平常どおり) |
| 10時00分までに開通 | 2講時(13時00分)から実施 |
| 12時30分までに開通 | 3講時(15時30分)から実施 |
| 12時31分以後に開通 | 全講時実施しない |

II. 暴風警報あるいは特別警報発表の場合

- ・「1. 警報発表対象地域」に示す表の府県予報区、一次細分区域、市町村等をまとめた地域、または二次細分区域のいずれかひとつを対象に暴風警報あるいはなんらかの特別警報が発表された場合、発表時の次の講時から、その日の授業・期末試験の実施を中止します。
- ・ただし、発表された時点で、すでに実施中もしくは開始直前の授業・期末試験については、警報の緊急性等を考慮の上で、大学がその中止を判断します。
- ・特別警報が発表された場合、該当地域は非常に危険な状況にあります。特別警報発表地域にいる学生は、各自ただちに命を守る行動をとってください。特別警報の種類は問いません。ただし、特別警報発表時に大学構内にいる学生は、大学の指示に従って行動してください。また自宅や通学中の学生で特別警報が発表された地域にいる場合は、自身の判断により、命を守るために最善と思われる行動をとってください。
- ・警報解除後、危険が回避されたことが確認された場合には、「2. 警報解除時刻と授業・期末試験開始講時」により開始講時を決定します。ただし、状況判断の上、別途指示することがあります。

1. 警報発表対象地域

| 府県予報区 | 一次細分区域 | 市町村等をまとめた地域 | 二次細分区域 |
|-------|--------|-------------|------------------------------------------------------|
| 京都府 | 南部 | 南丹・京丹波 | 南丹市、京丹波町 |
| | | 京都・亀岡 | 京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町 |
| | | 山城中部 | 宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町 |
| | | 山城南部 | 木津川市、笠置町、和束町、精華町、南山城村 |
| 大阪府 | 大阪府 | 北大阪 | 豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町 |
| | | 東部大阪 | 守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市 |
| | | 大阪市 | 大阪市 |
| | | 南河内 | 富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村 |
| | | 泉州 | 堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町 |

2. 警報解除時刻と授業・期末試験開始講時

警報解除後は、次表の通り、開始講時を決定します。

授業・期末試験開始講時（※期末試験の時間帯は、授業時間と異なりますのでご注意ください。）

| 警報解除時刻 | 開始講時 |
|-----------------|----------------|
| 6時30分までに解除 | 1講時から実施（平常どおり） |
| 10時40分までに解除 | 3講時から実施 |
| 15時55分までに解除 | 6講時から実施 |
| 15時56分時点で警報が発表中 | 全講時休講 |

※司法研究科の期末試験開始講時は次表の通りとします。

期末試験開始講時

| 警報解除時刻 | 開始講時 |
|-----------------|-----------------------|
| 6時30分までに解除 | 1講時（9時30分）から実施（平常どおり） |
| 10時00分までに解除 | 2講時（13時00分）から実施 |
| 12時30分までに解除 | 3講時（15時30分）から実施 |
| 12時31分時点で警報が発表中 | 全講時実施しない。 |

- Ⅲ. I、Ⅱにかかわらず、授業・期末試験を行うことが困難もしくは危険であると学長が判断した場合、休講・中止とすることがあります。
- Ⅳ. I. に定めた路線において計画運休の確定情報が発表された場合、不通となる路線に応じて、授業の休講、期末試験の中止などの措置をとることがあります。
- Ⅴ. 路線の不通や暴風警報・特別警報の発表、荒天・自然災害などにより、平常どおり授業・期末試験を行うことができない時には、大学HP、同志社大学ポータル、DUET、e-class等を利用して、大学や授業担当者から、必要に応じた連絡を行います。大学HP、同志社大学ポータル、DUET、e-class等をこまめに確認してください。

以上

同志社大学生命医科学部

2025年4月1日
